

平成18年度

社会教育主事のための
社会教育計画
「実践・事例編」

国立教育政策研究所
社会教育実践研究センター

社会教育主事のための 社会教育計画

「実践・事例編」

目 次

「実践・事例編」

第 章 社会教育計画と学習プログラムの立案

- 第 節 社会教育計画及び学習プログラムの立案の手 と具体的視点
- 第 節 社会教育計画と学習プログラムの様式

第 章 社会教育計画の事例

- 第 節 事例 [市社会教育計画] 21
- 第 節 事例 [市社会教育計画] 28
- 第 節 事例 [市 区社会教育計画] 34

第 章 年 事業計画及び学習プログラムの事例

- 第 節 家庭教育計画 43
- 第 節 少年教育計画 50
- 第 節 成人教育計画 55
- 第 節 女性教育計画 59
- 第 節 者教育計画 63
- 第 節 生涯スポーツ振興計画 69
- 第 節 環境教育計画 75
- 第 節 人権教育計画 81
- 第 節 国 理解教育計画 86
- 第10節 健康教育計画 92
- 第11節 情報化に する教育計画 97
- 第12節 社会に する教育計画 102
- 第13節 生涯学習によるまちづくり推進計画 107
- 第14節 学社連携・融合推進計画 114

第 1 章 社会教育計画と学習プログラムの立案

第1節 社会教育計画及び学習プログラムの立案の手順と具体的視点

	段 階	手順・具体的視点	留意点及び参考事項
〇〇市の現状と課題の分析	1 市町村の概要 【分析シート1】	モデルとなる市町村の地勢、地域条件、住民の生活状況、教育・文化的環境等を把握し、学習者にとってより有益な施策・事業を立案するための客観的条件・情報を得る。	<ul style="list-style-type: none"> ■幅広い分野からの情報収集に努める。 ■表記は箇条書きとし、ポイントを押さえたものとする。 <p>【資料・参考文献等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自治体史、自治体総覧 ・自治体振興計画（生涯学習振興計画、マスタープラン等） ・中・長期教育計画 ・生涯学習推進計画、社会教育計画 ・教育要覧、社会教育要覧 ・学習意識調査等の調査報告書 ・各種の会議、審議会や委員会の答申、建議、調査報告等 ・施設要覧（公民館、図書館、博物館等の要覧、年報、事業報告書等） <p>例) 地勢/人口の増減/少子化/高齢化/産業構造等</p> <p>例) 就労状況/余暇の過ごし方/昼夜の人口比率/交通状況等</p> <p>例) 学習関心/学習活動/NPO・ボランティア活動等</p>
	2 社会教育の現状と課題 【分析シート2】	モデルとなる市町村のこれまでの取組状況を分析・整理し、今後取り組むべき諸施策・事業の方向性を体系的・構造的に押さえる。	
	区分の設定	区分を設定し、記入する。	<ul style="list-style-type: none"> ■区分は計画立案に適したものを設定する。 ■区分例 「施策の体系による区分」 推進体制（組織）の整備、学習機会の提供、指導者の養成、学習情報提供と学習相談体制の整備、社会教育施設の整備と充実、社会参加活動の支援等 「発達段階別による区分」 乳幼児、青少年、成人、高齢者等 「生活関連領域別による区分」 個人（余暇）生活に関すること、家庭生活に関すること、職業生活に関すること、地域・社会生活に関すること
	施策の整理	現行の施策について記入する。	■社会教育行政として取り組んでいる施策を記入する。
	現行の事業	上記の施策に対応する当該市町村の現行に事業を記入する。 各事業の実施主体を（ ）内に記入する。	<ul style="list-style-type: none"> ■次のように整理する。 ・社会教育行政：教育委員会及び社会教育行政施設（公民館、図書館、博物館、体育館等）が実施している事業 ・学校・関連行政・民間・団体等：学校、関連行政部局（福祉、農林水産、観光、建設、産業、環境等）の事業や、民間事業者（農協、漁協、カルチャーセンター等）、関連団体等（社会教育関係団体等）が実施している事業
	現状の問題点・課題	施策に照らし合わせ、現行の事業において解決すべき問題点や達成すべき課題を記入する。	<ul style="list-style-type: none"> ■現行の施策・事業の反省・評価という観点から、学習者の意識や学習活動の状況を分析する。 ・各施策に基づいて問題を洗い出す場合、多面的に考察する。 ■事業の重複や不足している点を整理する。 ■ブレインストーミングやKJ法などを用いて分析、整理してもよい。
	問題解決・課題達成のための方向性	問題点を解決し、課題を達成するための方向性を記入する。	<ul style="list-style-type: none"> ■単なる問題点の裏返しではなく、問題を解決するために必要な方策について幅広く展望する。 ■長期的展望に立って解決する問題点・課題とある年度の計画に基づいて解決する短期的なものに分けて整理する。 ■複数の問題点・課題に対応する方策は、番号や矢印を使って対応がわかるようにする。

	段 階	手順・具体的視点	留意点及び参考事項
中・長期計画の作成	I 総論の作成 【様式1】	計画策定の基本的な考え方を明らかにする。	<ul style="list-style-type: none"> ■社会教育計画は、社会教育行政の総合計画である。 ■社会教育は教育委員会の範疇であるが、社会教育行政は生涯学習社会構築の中核である。 ■地域の実情により計画が異なり、地域の実情にあった計画であることが求められる。 ■策定にかかわる委員会等の組織を編成することも一つの方法である。 ■学社連携・融合の理念を視野に入れる。 <p>【参考文献】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自治体史、自治体総覧、教育総覧 ・自治体振興計画（生涯学習振興計画、マスタープラン等） ・各種の会議、審議会や委員会の答申、建議、調査報告等 ・施設要覧（公民館、図書館、博物館等の要覧、年報、事業報告書等）
		①市町村の現状を把握し、その現状に適した計画であること。	
		②社会教育行政は、生涯学習社会構築の中核として、首長部局、民間の諸活動との幅広い連携の下に、人々の生涯にわたる自主的な学習活動を支援する。	
		③自治体の特性と住民の学習状況や公共施設におけるサービスの現状把握をもとに、生涯学習推進計画等との整合性を図る。	
		計画策定の趣旨	
	計画の性格	計画の特徴や他計画との関連を記入する。	■簡潔に記述する。
	計画の期間	計画の期間として始めの年度と終わりの年度を明記する。	■期間の途中で見直しを行うことも考えられる場合は、その旨を明記する。
	計画の構成	計画策定の視点や範囲、各章の概要を記入する。	■章立てを明記し、必要に応じて概要を記述する。
	II 基本方針の作成 【様式2】	現状分析を踏まえ、自治体の社会教育行政を推進するための指針であることを示す。	■生涯学習推進計画を踏まえ、整合性を図り基本方針を策定する。
		基本方針	<p>基本的な考え方を記入する。</p> <p>計画の目標を記入する。</p> <p>社会教育推進の基本方針を記入する。</p>
上位計画との関連		上位計画との関連図を記入する。	■上位計画（市民憲章、総合計画、教育目標など）や他の計画（学校教育計画など）との関連を関連図としてまとめる。
施策の方向性と体系		<p>目標、基本方針、基本方策を記入する。</p> <p>施策の方向性を記入する。</p> <p>具体的な事業を設定し、記入する。</p> <p>数値目標を設定し、記入する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■課題となる施策を整理し、基本となる施策の柱を設定するとともに、事業の方向性や体系を組み立てる。 ■わかりやすい体系図としてまとめる。 ■施策の方向性の各項目には①、②のように通し番号を付ける。（次の年次計画につなげるため。） ■各事業の数値目標を設定する。（次の年次計画の中で設定し転記する。）

	段	手 ・ 具体的視点	留意点及び参考事
中・ 期計画の 作成	Ⅲ 施策の展開 (年次計画) 【様式3】	施策の体系にあげられた施策の方向性を、施策・事業として具体的に年次を明らかにして計画を立案する。 立案にあたっては、発達段 もしくは教育分 の中から、一つの段 域 を選んで作成する。	■ 発達段 、教育分 の例 【発達段 】 ・乳幼児 ・少年 ・成人 ・者 【教育分 】 ・家庭教育 ・少年教育 ・成人教育 ・女性教育 ・者教育
	施策	体系図の施策の方向性の番号を記入する。	■ 施策の体系図の中での位置づけを確認する。
	事業名	予算書に記載する事業名を記入する。	
	担当部局名	連携して事業を実施する部課名を記入する。	■ 他部局との連携を模索する。
	事業内容	具体的に何をどのように実施するのかを簡潔に記入する。	
	評価指標	事業の結果や成果を測るための指標を記入する。 計画を立案する段 から、評価をどのように行っていくかを考える必要がある。 事業の達成状況を的確に測る指標を設定する。	■ 事業の結果 アウトプット だけでなく、成果アウトカム も指標として設定するようにする。 例 【アウトプット指標】 参加者数、 成者数、利用率 等 【アウトカム指標】 学習率、満足度、居注意識の変化 等
年次別目標値	設定した評価指標について、各年度ごとに達成すべき数値目標を設定し記入する。	■ 事業で達成すべき目標値を政策 人的・財的・物的条件、上位計画との 連等 や地域条件 人口変動、 化の進展等 を考慮に入れながら設定する。	

	段 階	手順・具体的視点	留意点及び参考事項
△△教育年間事業計画の作成	IV 年間事業計画 教育目標及び教育行政目標の設定 【様式4】	社会教育目標、個別教育目標、社会教育行政目標、個別教育行政目標をそれぞれ設定する。	<ul style="list-style-type: none"> ■教育目標と教育行政目標はそれぞれ対応させる。 ■教育目標は、学習者にとっての理想、望ましい人間像あるいは地域像であり、表記としては「～しよう」「～に努めよう」「～となろう」等となる。 ■教育行政目標は、行政担当者が教育目標を達成するために具体的に行うべき施策、条件整備であり、表記としては「～を整備する」「～を行う」等となる。
	社会教育目標の設定	具体的な施策や事業を選定する前に、学習者が達成すべき目標を包括的に設定する。(全体的・総合的目標)	
	△△教育目標の設定	上記目標を受けて、それぞれ具体的あるいは個別の目標を設定する。	
	社会教育行政目標の設定	社会教育目標を受けて、社会教育行政としての施策・事業の目標を包括的に設定する。(全体的・総合的目標)	
	△△教育行政目標の設定	上記目標を受けて、それぞれ具体的あるいは個別の目標を設定する。	
	年間事業計画表の作成	上記教育目標・教育行政目標を受けて、当該年度の施策・事業の一覧を作成する。	<ul style="list-style-type: none"> ■教育委員会、公民館、図書館、博物館、体育館等における社会教育事業のすべてを視野に入れて事業を組む。 ■事業区分の例 区分については、分析シートの区分のまま設定してもよい。また、新たな区分の設定をしてもよい。 ■事業選定の留意点 緊急性/重要性/公共性/公益性/先導性/波及効果性/地域性/実現可能性 ■いわゆる施策名的な事業名は避けるとともに、内容や対象がわかるような事業名とする。 ■事業の実施主体として「何のために事業を開設するのか」を簡潔に表記する。ときには、事業を実施する背景、理由を前提として述べることも必要である。 ■それぞれの事業で「何を学習するのか」を具体的に列挙する。 ■事業の目的・内容から、「誰を対象とするのか」もっとも適切な対象・規模を設定する。 ■事業の目的・内容から、適切な期間・回数を設定する。 その他、予算や地域特性等も考慮する。 ■千円単位で総額を記入する。 例) 実施主体、実施場所、連携協力先、評価の方法等
	区分の設定	事業設定の際の区分を設定する。	
	事業名の設定	事業を選定し、事業の名称を決定する。	
	事業の目的の検討	各事業の目的やねらいを定める。	
	事業内容の検討	各事業の内容を定める。	
対象者・定員の決定	各事業の対象者と定員を設定する。		
実施期間・回数 の決定	各事業の実施期間・実施回数を設定する。		
予算の設定 備考の検討	各事業の経費を設定する。 備考として、上記以外について必要と思われる事項や実施にあたっての留意事項を記入する。		

	段 階	手順・具体的視点	留意点及び参考事項
△△教育学習プログラム（個別事業計画）の作成	V △△教育学習プログラム（個別事業計画）【様式5】	年間事業計画の中から一つの事業を選択し、その事業について個別事業計画を作成する。	<ul style="list-style-type: none"> ■原則として、「学級・講座型」の事業を選択する。 ■実際に学習プログラムを作成する場合には、住民参加の観点から、参加者の代表を含むプログラム検討委員会やプログラム作成委員会等を組織すると有効である。
	事業名の表記	事業名を記入する。	■年間事業計画より転記する。
	事業の目的の表記	事業の目的を記入する。	■年間事業計画より転記する。
	実施主体の表記	事業の実施主体を記入する。	■主催だけではなく、共催、後援、主管等をも考慮し、連携・ネットワークによる効果的な事業の展開を考える。
	対象者・定員の表記	事業の対象者・定員を記入する。	■年間事業計画より転記する。
	学習期間・学習時間(回数)の設定	学習期間・学習時間(回数)を「○月～○月」「1回の学習時間×○回」の形で記入する。	■学習内容との関連を考慮するとともに、地域特性あるいは学習者の生活実態を尊重する。
	学習場所の設定	学習場所を記入する。	<ul style="list-style-type: none"> ■学習内容、学習方法等を考慮する。 ■原則として主要学習会場を表記し、回によって会場が変わる場合は「備考」欄にその旨記入する。
	学習目標の設定	学習目標を記入する。	<ul style="list-style-type: none"> ■上記「事業の目的」が、事業実施主体としての目的、ねらい、趣旨であるのに対し、「学習目標」は、学習者の最終達成目標として学習によって達成されるべき目標(成果・状態)を示す。 ■あくまでも学習者を主体とした表記とし、学習者にとってわかりやすい表現をする。 例) ×「～を理解させる」 → ○「～を理解する」 ■学習者の要求課題や必要課題を踏まえた目標とする。
	プログラムの展開の作成	プログラムの展開について、具体的な内容を作成する。	
	回(コマ)の設定	学習回数を記入する。	<ul style="list-style-type: none"> ■「学習テーマ」及び「学習の内容と方法」を配列した上で、学習の連続性、継続性を考慮し、もっとも学習の効果を高める回数を設定する。 ※事業内容にもよるが、概ね5～10回が望ましい。 ■「学習の内容と方法」に合わせ、親しみのもてるような表現とする。
学習テーマの設定	学習テーマ(主題)を記入する。	■「何について」(学習内容)、「どんな方法で」(学習方法)学習するのかがわかるような表記とする。	
学習の内容と方法の設定	学習内容及び学習方法を記入する。	<ul style="list-style-type: none"> 例) 講義 「——の現状と今後の課題について考える」 ロールプレイ 場面設定「——川の環境を考える住民の集会」 ■学習目標、学習内容に応じて、「参加型学習」の手法(参考1 p.123参照)を取り入れると有効である。 	
学習支援者の設定	学習支援者を記入する。	<ul style="list-style-type: none"> ■学習者のレベルに対応させるとともに、学習方法・形態との関連性を考慮する。 ■学習成果の活用という観点から、過去の学級・講座の修了者に依頼したり、地域の人材の発掘を図ったりすることも必要である。 	
<p>ここで「学習支援者」とは、学習の場において、いわゆる“講師”(知識・技術を教える人)、ファシリテーター(学びを促進する人)、企画立案者(学習プログラムを企画・立案する人)、学習者(学びの場に参加する人)等の役割を果たす人を指す。すなわち、従来の「教える」―「教えられる」(「指導者」―「学習者」という関係ではとらえきれない、様々なスタイルで学習を支援する人たちのことである。具体的には、社会教育主事、司書、学芸員等の社会教育指導者、教員、団体のスタッフ、企画運営委員会のメンバー、ボランティアが挙げられる。</p>			
備考の検討	上記以外について必要と思われる事項や実施にあたっての留意事項を記入する。	■プログラムの企画者、運営主体者の立場から表記する。 例) 学習場所(回によって変わる場合)/期日/時間数/教材・教具/評価の観点 等	

	段	手 ・ 具体的視点	留意点及び参考事
△△教育学習展 計画展 プログラムの作成	VI 学習展開計画(展開プログラム) 【様式6】	学習プログラム 個別事業計画の中から一つのコマを選択し、そのコマについて具体的な学習展計画を作成する。	
	事業名・学習テーマの記入	学習プログラム 個別事業計画から転記する。	
	学習目標の設定	当該時 の学習目標を記入する。	<ul style="list-style-type: none"> ■学習テーマに沿ったものとし、学習者主体の表現とする。 ■学習プログラムの学習目標との整合性に留意する。
	準備するものの検討	学習の展 に必要な物品を挙げる。	<ul style="list-style-type: none"> ■物品の数・ についても記入する。 ■準備のためのチェックリストとして活用する。
	会場図の作成	使用する会場の机・椅子、使用機器の配置等を作成する。	■グループ・ワークの場合、 グループの人数についても考慮する。
	導入→展 →まとめの検討	具体的な学習活動を時系列に沿って配置する。	<ul style="list-style-type: none"> ■「導入」部分では、アイスブレイクによって学習の場の 困気を和らげ、参加者相互の出会いの場とするとともに、学習への意欲を喚起するような学習活動を盛り込む。 ■「展 」部分では、各学習活動の配列と時 に留意しながら組み立てる。休憩時 については、全体の時 を考慮して設定する。 ■「まとめ」部分では、アクティビティ全体の学習をふりかえるとともに、学習成果を共有する時 とする。 ■時 は、 を起点とし、学習活動の内容ごとに分単位で記入する。

第2節 社会教育計画と学習プログラムの様式

計画立案の手順と様式との関係			様式	ページ
計画立案のためのワークシート	1 市町村の概要	→	分析シート1	・・・10
	2 社会教育の現状と課題	→	分析シート2	・・・11
中・長期計画	I 総論	→	様式1	・・・12
	II 基本方針	→	様式2	・・・13, 14
	III 施策の展開(△△教育年次計画)	→	様式3	・・・15
年間事業計画	IV 年間事業計画 (平成〇〇年度△△教育事業計画)	→	様式4	・・・16
学習プログラム	V △△教育学習プログラム(個別事業計画)	→	様式5	・・・17
学習展開計画	VI 学習展開計画(展開プログラム)	→	様式6	・・・18

平成 年度		演習 第 班		グループ	
番号	都道府県名	氏 名	番号	都道府県名	氏 名
			担当者名		

1 ○○市の概要

(1) 地勢・地域条件等

①

②

③ 人口

(2) 地域住民の生活状況の特徴

①

②

③

(3) 教育・文化的環境

◇ 学校等数

種 別	数
幼稚園(保育所)	
小 学 校	
中 学 校	
等 学 校	
大学・短大	
専 学 校	

◇ 生涯学習 連施設 民 を含む

種 別	数

◇ 教育・文化的環境の特徴

①

②

③

2 社会教育の現状と課題

区分	施策	現行の事業		現状の問題・課題	問題解決・課題達成のための方向性
		社会教育行政	学校・連行政・民・団体等		

〇〇市社会教育計画

タイトル

I 総 論

(1) 計画策定の趣旨

(2) 計画の性格

(3) 計画の期間

(4) 計画の構成

Ⅱ 基本方針

1 基本方針

- (1) 基本的な考え方

- (2) 計画の目標

- (3) 社会教育推進の基本方

2 上位計画との関連

3 施策の方向性と体系

目標	基本方	基本方策	施策の方向性

Ⅲ 施策の展開（△△教育年次計画）

施策	事業名	担当部局名	事業内容	評価指標	年次別目標値				
					〇〇年度	〇〇年度	〇〇年度	〇〇年度	〇〇年度

IV 年間事業計画（平成〇〇年度△△教育事業計画）

(1) 社会教育目標	
(2) △△教育目標	
(3) 社会教育行政目標	
(4) △△教育行政目標	

(5) △△教育年 事業計画表

区 分	事 業 名	事 業 の 目 的	事 業 内 容	対象者・ 定員	実施期 回数	予算 (千円)	備 考

V △△教育学習プログラム（個別事業計画）

(1) 事業名			
(2) 事業の目的			
(3) 実施主体			
(4) 対象者・定員			
(5) 学習期 ・学習時 回数	月 月	回の学習時	時 × 回
(6) 学習場所			
(7) 学習目標			

(8) プログラムの展

回	学習テーマ	学習の内容と方法	学習支援者	備考

VI 学習展開計画（展開プログラム）

(1) 事業名		第 回	月	日	曜日
(2) 学習テーマ					
(3) 学習目標					

(4) 準備するもの <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	(5) 会場図
--	---------

(6) 展

展	時	学 習 活 動	学習支援者	留 意 点	備 考
導 入					
展					
ま と め					

第 2 章 社会教育計画の事例

(分析シート 1, 2, 様式 1 ~ 3)

第1節 A市社会教育計画

<分析シート1>

1 A市の概要

(1) 地勢・地域条件等

① F県の最南部に位置し、豊かな自然と海産物の宝庫である有明海に面している。明治以降、石炭と石油化学関連コンビナートの興隆とともに中部有明地方における主都市として発展し、わが国産業・経済の発展に大きく貢献してきた。しかし、昭和30年代以降、石炭から石油へのエネルギー革命をはじめとした産業構造の激しい変化や平成9年のM炭鉱の閉山等により、地域社会経済は厳しい状況下にある。

② 産業構造は、第1次産業1,807人(3.0%)、第2次産業18,080人(29.9%)、第3次産業40,522人(67.1%)である。

③ A市の人口は、昭和62年をピークに、それ以後年々減少傾向にあり、平成17年3月現在で140,628人となった。その要因として、厳しい経済状況の中、就業の場が減少し、若年層の人口流出が急速に進んでいることが挙げられる。平成22年のA市人口が125,000人となることが予想されるなど、今後、さらに少子高齢化が進むと考えられる。

人口140,628人(平成17年3月現在) 高齢化率24.5%(平成17年10月現在)

(2) 地域住民の生活状況の特徴

① 自治会活動が盛んである。

② レジャーを中心とした個人・家族単位での活動は市外へ出向くことが多い。

③ 公共交通機関は鉄道と路線バスがあるが十分ではなく、自家用車を利用しないと移動は困難である。

(3) 教育・文化的環境

◇ 学校等数

種 別	数
幼稚園(保育所)	17 (10)
小 学 校	13
中 学 校	7
高 等 学 校	3
大学・短大	1
専 門 学 校	1

◇ 生涯学習関連施設(民間を含む)

種 別	数	種 別	数
中央公民館	1	武道館	1
地区公民館	8	市民会館	1
図 書 館 (中央)	1	市民ホール	1
図 書 館 (地区)	4	青少年会館	1
博 物 館	1	女性プラザ(併)	1
体 育 館	1		

◇ 教育・文化的環境の特徴

① 公民館等で行われる社会教育事業に積極的に参加する住民が多い。

② 学校教育における受験競争はあまり激しくなく、クラブ活動や社会教育施設の主催事業に参加する青少年も多い。

③ 学習した成果を生かし、ボランティア活動などに取り組む市民が増えた。
市立全小学校の施設を開放するなど、地域の学習拠点として学校施設の開放が進んでいる。
郷土博物館が建設され、市民向け学習講座なども開講されている。

2 社会教育の現状と課題

区分	施策	現 行 の 事 業		現状の問題点・課題	問題解決・課題達成のための方向性
		社会教育行政	学校・関連行政・民間・団体等		
推進体制	住民のニーズを行政施策に反映させる	<ul style="list-style-type: none"> ・社会教育委員の会議 ・公民館運営審議会 ・図書館協議会 		<ul style="list-style-type: none"> ・社会教育全体に対する意見が出てこない。 ・定例的な開催で報告中心に進められている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・審議機能の強化 ・計画性を持った会議の開催 ・社会教育の課題に関する諮問を行うとともに、専門委員会等を設けて審議を行う。
学習機会の提供	現代的課題を中心に市民一人ひとりが自ら学んで学習できる場の提供に努める	<ul style="list-style-type: none"> ・市民講座 ・高齢者学級 ・家庭教育学級 	<ul style="list-style-type: none"> ・企業内研修（企業） ・趣味教養講座（民間事業者） ・各種講演会（健康増進課、環境政策課、生活環境課） 	<ul style="list-style-type: none"> ・参加者の固定化 ・学習の成果を生かす場が十分でない。 ・学習の成果が地域活動につながっていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・住民に密着した講座の開催 ・人材バンク等のシステムを整備し、市民講師の活躍の場を広げる。 ・地域の課題に即した講座を行うとともに、地域活動につなげる支援を行う。
指導者の養成	住民の学習活動や社会参加活動を支援し、活性化するために、指導者の発掘・養成を行う	<ul style="list-style-type: none"> ・ジュニアリーダーの養成 ・青少年育成指導者の養成 ・体育指導員の養成 		<ul style="list-style-type: none"> ・指導者が固定されていて広がりが少ない。 ・指導者に必要な研修の機会が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新たな人材を発掘・養成する。 ・定期的に指導者講習を実施し、資質の向上を図る ・活躍の場を提供する。
学習情報提供・学習相談	市民の学習活動の充実のために、円滑な学習情報の提供と、相談体制の充実強化を図る	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯学習情報誌の発行（年2回全世帯配布） ・公民館情報誌の発行（年4回全世帯配布） ・公民館職員による学習相談 	<ul style="list-style-type: none"> ・インターネットによる講座情報提供（民間事業者） 	<ul style="list-style-type: none"> ・タイムリーな情報提供が十分にできていない。 ・インターネットによる情報提供が行われていない。 ・学習機会に関する相談が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習活動に関する情報収集体制を再構築する。 ・ITを活用したタイムリーな学習情報提供を行う。 ・公民館に学習相談窓口を開設し、地域住民に周知する。
社会教育施設の整備と充実	住民が主体的に地域活動や学習活動を展開できるよう、社会教育施設の整備・充実を図る	<ul style="list-style-type: none"> ・社会教育施設（公民館、図書館、博物館）の整備と活用の推進 ・施設情報の提供（市広報により年12回全世帯配布） 		<ul style="list-style-type: none"> ・老朽箇所の整備が十分に進んでいない。 ・インターネットによる利用予約を行っているが、十分に活用されていない。 ・施設間の連携がとれていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現存施設の有効活用に努力する。 ・住民の自主的な活動の場となるよう、積極的に施設利用に関する広報を行う。 ・施設間の事業のネットワーク化を図る。

区分	施策	現行の事業		現状の問点・課題	問解決・課題達成のための方向性
		社会教育行政	学校・連行政・民・団体等		
社会参加活動の支援	住民の主体的な社会参加活動を支援する	・学校・生涯学習支援ボランティアの設置		<ul style="list-style-type: none"> ・登録人数に比べて、活動できる人数が少ない。 ・住民のニーズに合うボランティア登録が少ない。 ・地域を場とした活動が少なくなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・活動の活性化を図るボランティアコーディネーターを配置する。 ・ボランティアにする学習の機会を提供する。 ・公民を核として、地域活動の活性化を図る。

〇〇市社会教育計画

A市社会教育中期計画（平成14年度～平成18年度）

－自立・共生・創造するまちづくり A市－

I 総論

(1) 計画策定の趣旨

A市の社会教育は、これまでの「第4期A市総合計画」の「未来を開く心豊かな教育と文化のまちA市づくりをめざして」という目標を踏まえ、「第2期社会教育振興中期計画」の具現化を図りながら、市民のニーズと社会の趨勢を見据え、施策を推進してきた。しかし、近年、国際化、情報化、少子高齢化、余暇時間の増大など、私たちを取り巻く状況の変化は著しく、価値観の多様化、生活意識の変化等がめまぐるしく進化・細分化してきている。

こうした状況の中で、これらの変化に対応するためには、より一層、生涯学習を振興していくことが求められるとともに、魅力と活力のある地域づくりを進めるためには、市民の学習活動の活発化が重要であり社会教育の果たす役割は大きい。こうしたことから21世紀を展望した、今後の社会教育行政の在り方を考え、社会教育の現状を踏まえるとともに、A市の特色を生かしながら、進めるべき施策の体系化を図り、社会教育事業推進の指針となる社会教育計画を策定するものである。

(2) 計画の性格

この計画はA市総合計画に基づき、他の計画と整合性を図りながら、A市民憲章並びにA市教育基本目標の理念を具現化し、生涯学習推進の観点に立った社会教育の推進に係る計画である。

(3) 計画の期間

この計画の期間は、A市第4期総合計画と整合性を図り、平成18年度から平成22年度までの5年間とする。

(4) 計画の構成

この計画は、次の4章で構成する。

第1章 第3期社会教育中期振興計画の基本的な考え方

第2章 市民憲章と社会教育目標と施策体系

第3章 生涯各期における社会教育施策

第4章 第3期社会教育中期振興計画の事業項目・指数

参考 市民の社会教育意識調査結果

社会教育施設及び利用状況・社会教育関係団体の状況

Ⅱ 基本方針

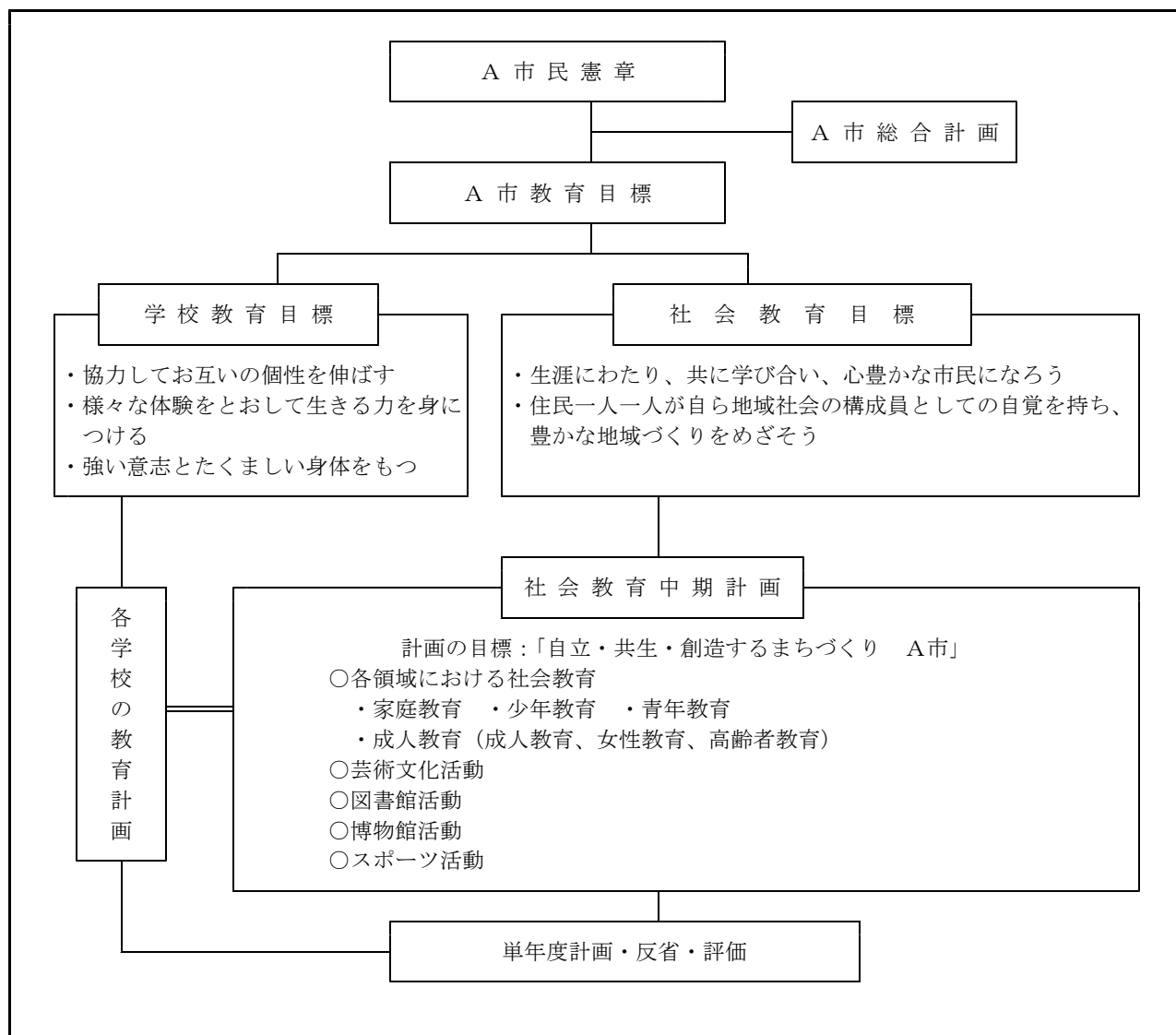
1 基本方針

(1) 基本的な考え方
 A市民は急激な社会環境の変化の中で、心の豊かさや生きがい、あるいは自らの生活や職業上の能力向上を願い、幅広い分野の学習を求めている。また、自分たちのライフスタイルに合った学習活動や、地域での学習交流など、様々な形の学習を求めている。このように、社会情勢の変化に対応して市民の学習に対する要望はますます多様化し、学習の必要性を強く認識しており、生涯学習社会の確立が急務になっている。こうした状況の中で、本市は、市民の生涯学習を支援するため、社会教育を重点的に推進することを目指す。

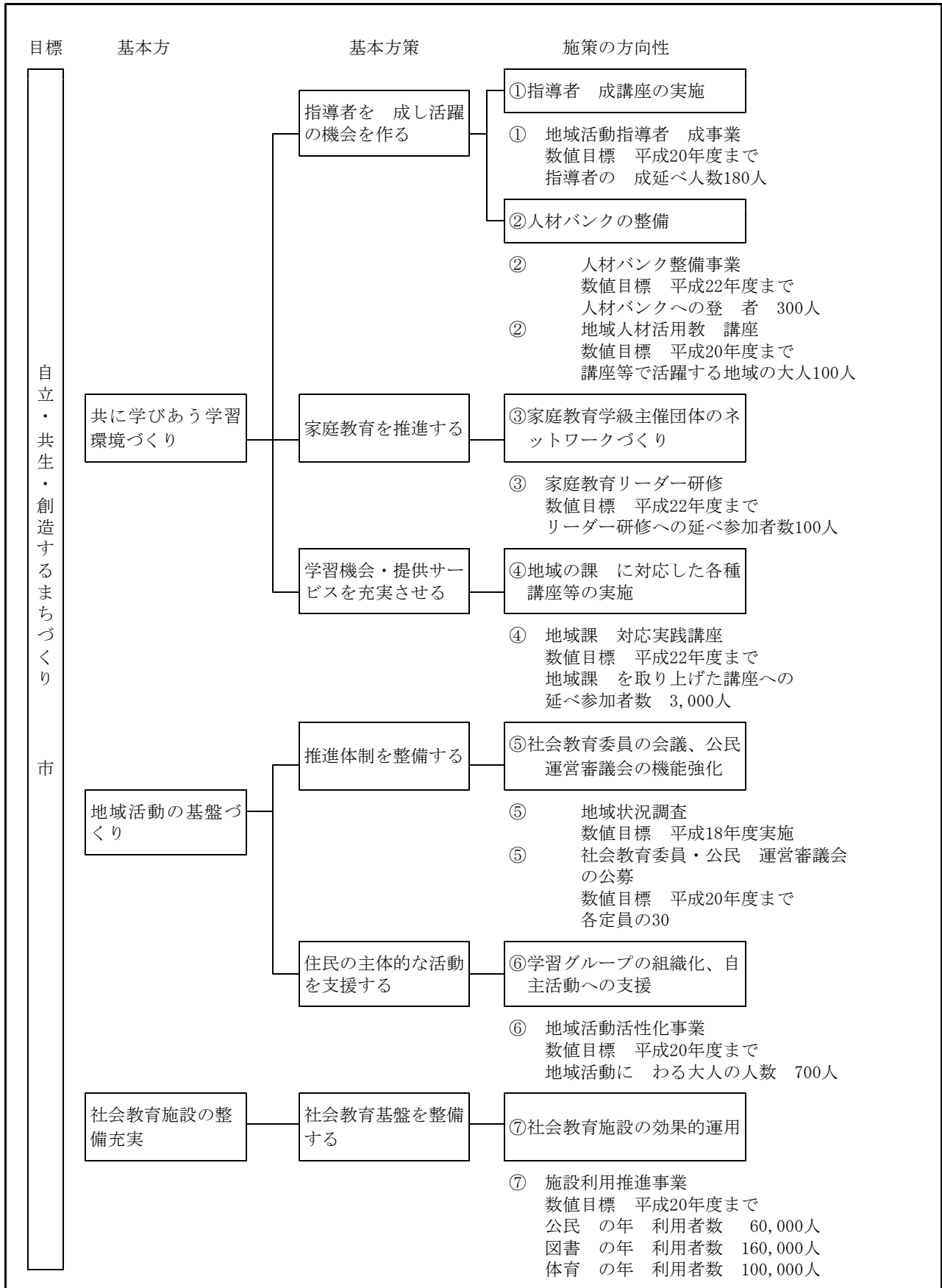
(2) 計画の目標
 基本的な考え方を土台として、計画を実施する目標を次のように定める。
 「自立・共生・創造するまちづくり A市」
 この目標を実現するためには、以下のような基本的視点にしたがって、社会教育を進めていくこととする。

(3) 社会教育推進の基本方針
 上記の計画の目標を達成するため、社会教育行政が推進すべき基本方針は以下のとおりである。
 ア 共に学びあう学習環境づくり
 イ 自ら学ぶ学習活動の基盤づくり
 ウ 対話と参加を重視した学習システムづくり

2 上位計画との関連



3 施策の方向性と体系



Ⅲ 施策の展開（成人教育年次計画）

施策	事業名	担当部局名	事業内容	評価指標	年次別目標値				
					18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
①	地域活動指導者成事業	社会教育課	地域活動を指導する大人を成する。	・指導者の成延べ人数	60	120	180		
				・成者のうち地域活動を指導している人数		30	60	90	100
②	人材バンク整備事業	社会教育課	講師として活躍できる大人を人材バンクへ登する。	・人材バンク登者数	100	150	200	250	300
				・登者のうち講師として活躍している人数	30	45	80	125	180
	地域人材活用教講座	社会教育課	地域の大人が講師として活動する機会をつくる。	・講座等で活躍する地域の大人の人数	20	60	100		
③	家庭教育学級事業	社会教育課	子どもを持つ親に対して、家庭教育に する学習の機会を提供する。	・家庭教育学級受講率	80	85	90	95	100
	家庭教育リーダー研修	社会教育課	団体やグループで家庭教育を指導するリーダーを成する。	・リーダー研修への参加者数	20	40	60	80	100
				・リーダーが実施する家庭教育にする取組への参加者数	800	2,000	3,600	5,600	8,000
④	地域課 対応実践講座	社会教育課 住民課	地域課 に する講座を実施し、地域住民の学習機会の提供を図る。	・地域課 に する講座数への参加者数	1,000	1,500	2,000	2,500	3,000
				・地域の課 に 心のある大人の割合	25			60	
⑥	地域活動活性化事業	社会教育課	地域活動の機会をつくり、大人の自主的な活動への参加を促進する。	・地域活動の取組数	20	40	70	110	160
				・地域活動に わる大人の人数	160	360	700	1,210	2,000

第2節 Y市社会教育計画

<分析シート1>

1 Y市の概要

(1) 地勢・地域条件等

- ① A県南部Y盆地に位置し、自然豊かなまちである。稲作中心の農業が主幹産業で、果樹・野菜作りもさかんである。近年は高速交通体系の充実により、Yインターチェンジ周辺の開発が進み、交通の拠点となっている。
- ② 産業構造は、第1次産業11.0%、第2次産業30.9%、第3次産業58.1%である。
- ③ Y市の人口は109,004人である（平成17年10月1日現在）。平成17年10月1日の合併により、県下第2位の人口を有する市となった。今後、少子高齢化が進み、人口は減少する傾向にある。

(2) 地域住民の生活状況の特徴

- ① 古くから米作りが盛んな地域ではあるが、最近は兼業農家や離農する住民が増えてきている。
- ② 買い物等は旧Y地区に出向くことが多く、レジャーは市外に行くことが多い。
- ③ 公共交通機関は、鉄道と路線バスがあるが十分ではなく、自家用車を利用しないと移動は困難である。

(3) 教育・文化的環境

◇ 学校等数

種 別	数
幼稚園(保育所)	4 (37)
小 学 校	27
中 学 校	14
高 等 学 校	5
大 学 ・ 短 大	0
専 門 学 校	0

◇ 生涯学習関連施設（民間を含む）

種 別	数	種 別	数
地区生涯学習センター	8	卓球場	1
地区公民館	31	総合運動公園	5
図書館	8	スキー場	2
資料館・(美術館)	11(1)	プール	2
体育館	8	児童館	3
武道館	1	女性センター	1

◇ 教育・文化的環境の特徴

- ① 公民館等の社会教育施設が多く、サークルによる創作活動及び発表、芸術・文化の鑑賞、文化財の保存など、地域に根ざした多様な活動が年々活発になっている。
- ② スポーツ少年団活動や学校の部活動に取り組む青少年が多い。
- ③ 公民館事業をきっかけとして、住民による地域活動や自主サークル活動が増えてきている。
- ④ 自然を活かした施設や、屋外の体育関連施設が充実しており、体験活動を行うための基盤が整備されている。

2 社会教育の現状と課題

区分	施策	現行の事業		現状の問題点・課題	問題解決・課題達成のための方向性
		社会教育行政	学校・関連行政・民間・団体等		
社会教育推進体制の整備	生涯学習推進体制の充実に努める	<ul style="list-style-type: none"> 社会教育委員の会議 社会教育指導員の会議 社会教育奨励員会議 公民館連合会 	<ul style="list-style-type: none"> 市政調整課との連携 青少年育成市民会議(女性青少年課) NPOセンターとの連携 	<ul style="list-style-type: none"> 生涯学習推進に係る人の交流・研修の場がない 定期的に住民の意見・ニーズを拾い上げていない 	<ul style="list-style-type: none"> 計画性を持った交流会・研修会を開催する 地区生涯学習センターに窓口を設置する
社会教育関連施設の整備	生涯学習関連施設の有効活用と整備・充実に努める	<ul style="list-style-type: none"> 生涯学習関連施設の整備と活用 地区生涯学習センターの設置 		<ul style="list-style-type: none"> 施設が老朽化し、整備が進んでいない 施設間の連携がとれていない インターネットによる利用予約や申請用紙等の統一ができていない 	<ul style="list-style-type: none"> 現存施設の有効活用に努める 施設間のネットワーク化を図る システムの構築を進める
学習資源の整備	学習資源を再編成し既存の組織や新たな人材の有効活用を図る	<ul style="list-style-type: none"> 生涯学習ボランティアバンクの整備 地域資源(文化・伝統・自然等)の整備 	<ul style="list-style-type: none"> 社会福祉協議会のボランティア団体との連携 市民活動団体(NPOなど)との連携 観光協会との連携 	<ul style="list-style-type: none"> ボランティアバンクの人材を有効に活用できていない 地域資源の整備が進んでいない 	<ul style="list-style-type: none"> コーディネーターを配置する 学習資源を活用しやすいように、バランス良く再編成する
学習情報・相談の充実	円滑な学習情報の提供と、相談体制の充実強化を図る	<ul style="list-style-type: none"> 情報センターの設置 広報誌の発行とホームページの開設 	<ul style="list-style-type: none"> インターネットによる学習情報提供(A県立生涯学習センター) 	<ul style="list-style-type: none"> 学習機会に関する相談が少ない タイムリーな情報提供が十分にできていない PRが浸透していない 	<ul style="list-style-type: none"> 地区生涯学習センターに学習相談窓口を、開設する 情報収集・発信の一元化を図る 効果的なPR方法を構築する
学習プログラムの提供	今日的課題や地域の特徴を活かしたプログラムを提供するとともに個人学習の推進を支援する	<ul style="list-style-type: none"> 市役所出前講座 公民館主催講座 青少年育成講座 地域子ども教室 	<ul style="list-style-type: none"> 趣味教養講座(民間事業者) 企業内研修(企業) 各種講演会(各課) 総合型地域スポーツクラブ 	<ul style="list-style-type: none"> 参加者の固定化・高齢化 住民のニーズに合ったプログラムが提供できていない 	<ul style="list-style-type: none"> 各年齢層のニーズに応じた講座を開設する 各地域の特徴を活かした魅力的なプログラムを再検討する
学習成果の評価と活用	学習者の学習成果を活かす場づくりに努め、主体的な社会参画活動を支援する	<ul style="list-style-type: none"> 地区公民館フェスティバル 	<ul style="list-style-type: none"> 市文化祭 市美術展 	<ul style="list-style-type: none"> 学習者の活動を評価する機会がない 学習成果を活かす機会が十分でない 学習成果を活かすためのシステム作りができていない 	<ul style="list-style-type: none"> 学習成果を賞賛するような手だてを工夫する 学校支援ボランティアや観光ボランティアガイドなどの活動機会を広げる ボランティアセンターの設置とコーディネーターの配置

Y市社会教育計画

市社会教育中期計画 平成 年度 平成 年度
学びあい めあう いきいき 市

I 総 論

(1) 計画策定の趣旨

市の社会教育は、これまでの「第 期 市総合計画」の「未来を く心豊かな教育と文化のまち 市づくりをめざして」という目標を踏まえ、「 市社会教育中期計画 学びあい めあう いきいき 市 」の具現化を図りながら、市民のニーズと社会の趨勢を見据え、施策を推進してきた。しかし、近年、国 化、情報化、少子 化、余暇時 の増大など、私たちを取り巻く状況の変化は著しく、価値観の多様化、生活意識の変化等がめまぐるしく進化・細分化してきている。

こうした状況の中で、これらの変化に対応するためには、より一層、生涯学習を振興していくことが求められるとともに、 力と活力のある地域づくりを進めるためには、市民の学習活動の活発化が重要であり社会教育の果たす役割は大きい。こうしたことから21世紀を展望した、今後の社会教育行政の在り方を考え、生涯学習の現状を踏まえるとともに、 市の特色を生かしながら、進めるべき施策の体系化を図り、社会教育事業推進の指となる社会教育計画を策定するものである。

(2) 計画の性格

この計画は 市総合計画に基づき、他の計画と整合性を図りながら、 市民憲章並びに 市教育基本目標の理念を具現化し、生涯学習推進の観点に立った社会教育の推進に係る計画である。

(3) 計画の期間

この計画の期 は、 市第 期総合計画と整合性を図り、平成19年度から平成23年度までの 年 とする。

(4) 計画の構成

この計画は、次の 章で構成する。

第 章 市社会教育中期計画の基本的な考え方

第 章 市民憲章と社会教育目標と施策体系

第 章 生涯各期における社会教育施策

第 章 市社会教育中期計画の事業 目・指数

参考 市民の生涯学習意識調査結果

生涯学習施設及び利用状況・生涯学習 係団体の状況

Ⅱ 基本方針

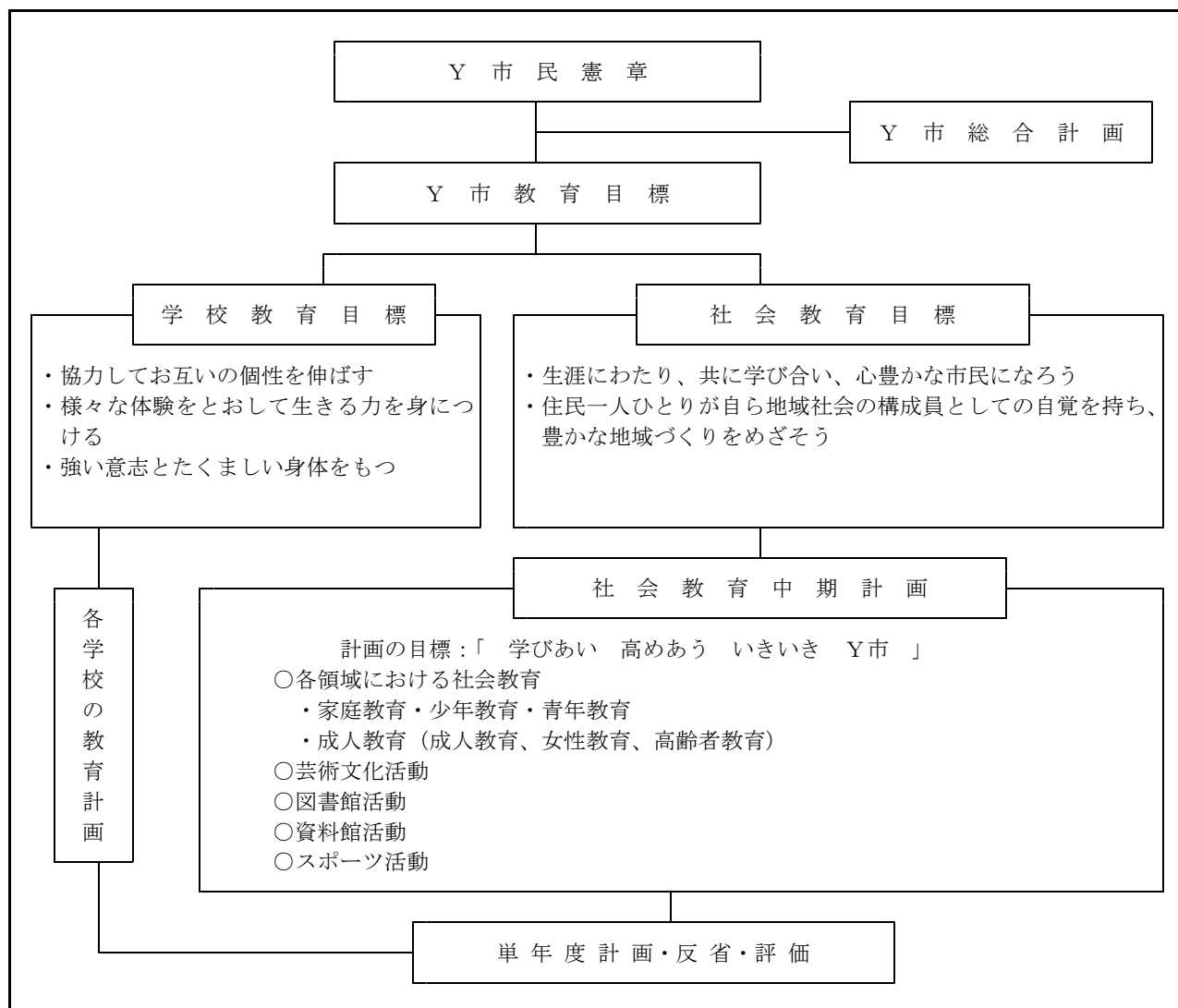
1 基本方針

(1) 基本的な考え方
 Y市民は急激な社会環境の変化の中で、心の豊かさや生きがい、あるいは自らの生活や職業上の能力向上を願い、幅広い分野の学習を求めている。また、自分たちのライフスタイルに合った学習活動や、地域での学習交流など、様々な形の学習を求めている。このように、社会情勢の変化に対応して市民の学習に対する要望はますます多様化し、学習の必要性を強く認識しており、生涯学習社会の確立が急務になっている。こうした状況の中で、本市は、市民の社会教育を重点的に推進し、市民が社会参画することを目指す。

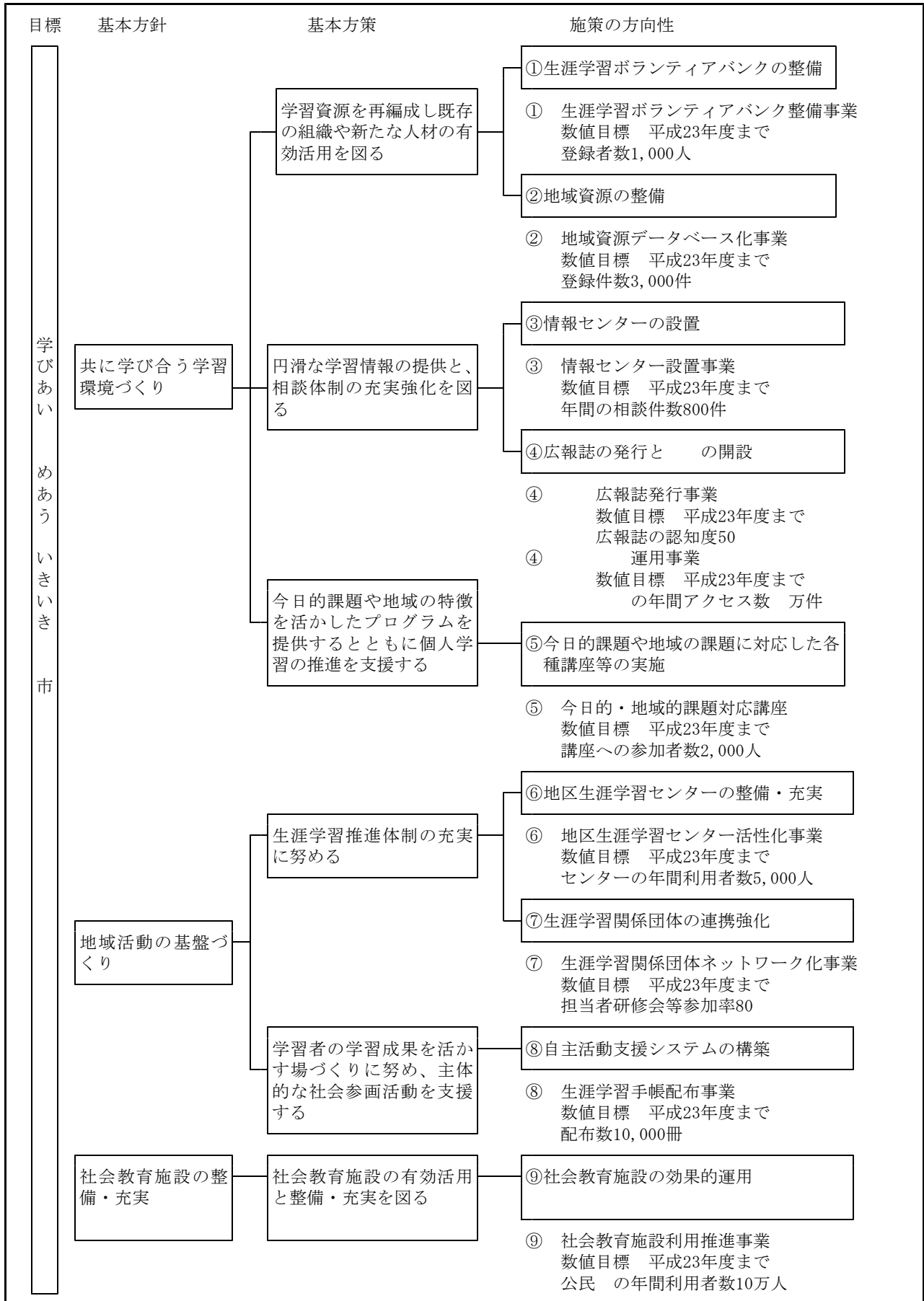
(2) 計画の目標
 基本的な考え方を土台として、計画を実施する目標を次のように定める。
 「 学びあい 高めあう いきいき Y市 」
 この目標を実現するためには、以下のような基本的視点にしたがって、社会教育を進めていくこととする。

(3) 生涯学習推進の基本方針
 上記の計画の目標を達成するため、社会教育行政が推進すべき基本方針は以下のとおりである。
 ア 共に学びあう学習環境づくり
 イ 地域活動の基盤づくり
 ウ 社会教育施設の整備・充実

2 上位計画との関連



3 施策の方向性と体系



Ⅲ 施策の展開（成人教育年次計画）

施策	事業名	担当部局名	事業内容	評価指標	年次別目標値				
					年度	年度	年度	年度	年度
①	生涯学習ボランティア整備事業	生涯学習課	学習支援者として活動できる人材をボランティアバンクに登録する。	・ボランティアバンク登録者数	300	500	700	900	1,000
				・登録者の中でボランティア活動した人の割合	30	40	50	55	60
②	地域資源データベース化事業	生涯学習課	人的・物的な地域資源をデータベース化する。	・地域資源の登録件数	2,000	2,400	2,600	2,800	3,000
③	情報センター設置事業	生涯学習課	地域住民の学習相談と情報を受発信する。	・地域住民の学習相談件数	200	400	600	700	800
⑤	今日的・地域的課題対応講座	生涯学習課	今日的・地域的課題に関する講座を実施し、地域住民の学習機会の提供を図る。	・今日的・地域的課題に関する講座への参加者数	1,000	1,250	1,500	1,750	2,000
				・今日的・地域的課題に関心のある大人の割合		25			60
⑥	地区生涯学習センター活性化事業	生涯学習課	センターの窓口機能を充実させ活性化を図る。	・センターの年間利用者数	2,000	2,750	3,500	4,250	5,000
⑦	生涯学習関係団体ネットワーク化事業	生涯学習課	生涯学習に関係する団体の交流・研修の機会を設け、相互の連携を強化する。	・担当者研修会等参加率	60	65	70	75	80
⑧	生涯学習手帳配布事業	生涯学習課	生涯学習手帳を配布することにより、自主的な活動を支援するとともに、学習者の社会参画を促進する。	・生涯学習手帳の配布数	5,000	7,000	8,000	9,000	10,000
				・生涯学習手帳取得者の社会参画率		5			10

第3節 K市S区社会教育計画

<分析シート1>

1 K市S区の概要

(1) 地勢・地域条件等

- ① S区はK市域の南部に位置し、A川とU川に挟まれた平野で、面積は10.09平方キロメートルである。Y線とN線が近接する所では、ハイテク企業や高層住宅が集中しているが、旧来の商店街や住居も混在している。
- ② 昭和初期は大手企業の工場が集中し、労働者の町というイメージが強かったが、近年はシンフォニーホールを中心に音楽のまちをアピールしている。また、A川や動物公園もあるKの森など緑あふれたエリアもあり、都市の利便性と豊かな自然を兼ね備えた空間を創造している。
- ③ S区の人口は、144,955人（男74,687人 女70,268人）で、世帯数は、63,640世帯である。うち、外国人登録者数は2,133（1.5%）となっている。人口割合は、0～14歳は、12.4%、15～64歳は、70.3%、65歳以上は17.3%であり、今後退職する年齢を迎える人口が多くなっている。人口密度は市の中で最も高い。

(2) 地域住民の生活状況の特徴

- ① S区住民は、隣接する東京都に通勤・通学している者が多い。また、K駅西口地区ではアメニティ豊かな住居系市街地の改善やT工場跡地に大規模な再開発が進められている。
- ② 複数の企業があり、産業は盛んである。K新産業創造センターやK大研究施設など、起業や研究開発の気運も高まっている。

(3) 教育・文化的環境

◇ 学校等数

種 別	数
幼稚園(保育所)	11 (14)
小 学 校	14
中 学 校	5
高 等 学 校	2
大学・短大	1
大学研究施設	1

◇ 生涯学習関連施設（民間を含む）

種 別	数
市民館（分館）	1 (1)
図書館（分館）	1 (1)
こども文化センター	6
老人いこいの家	6
武道館	1
スポーツセンター	1

◇ 教育・文化的環境の特徴

- ① 生涯学習社会の広がりの中で、自らの経験や知識を地域社会に生かしたいと思う人が増えている。S区も例外ではなく、市民館等では多くのボランティア団体が市民自主企画事業などに企画段階から参画し、主体的に事業に関わっている。
- ② 子ども文化センターにおいては、青少年対象の事業を実施しており、多くの子どもたちが利用している。
- ③ 数多くのボランティア団体があるものの、人権関係などの特定ボランティアに偏る傾向があり、活動の分野は決して広くない。

2 社会教育の現状と課題

区分	施策	現行の事業		現状の問題点・課題	問題解決・課題達成のための方向性
		社会教育行政	学校・関連行政・民間・団体等		
学びあ	<p>家庭や地域社会での役割を理解し、健康で豊かな生活を営むための学習を提供する。</p> <p>相互学習を基に地域社会に貢献する姿勢を養う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・S日本語学級（市民館） ・家庭教育学級（市民館） ・生涯学習交流集会（市民館） ・S区文化協会（市民館） ・S歴史の会 	<ul style="list-style-type: none"> ・Sリバーウォッチング事業（地域振興課） ・音楽のまち推進事業（地域振興課） 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習者のニーズと学習支援者の意図に差がある。 ・広報が十分に行き届いていない。 ・本来想定している対象者の参加が難しい。 ・学習者も学習支援者も男性の参加が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ニーズを具体化するしくみを構築する。 ・時代に適した広報のあり方を研究する。 ・男性のニーズを的確に把握する。
健康	<p>自らの健康に関心をもち、健やかな生活をするための知識を身につけさせる。</p> <p>運動・栄養・休養の基本的な生活を再認識し、軽運動を通じて明るく健康な区民の育成を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・心と体の健康教室（市民館） 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活習慣病予防教室 ・血圧の講座 ・健康講座(年数回)(健康福祉センター) 	<ul style="list-style-type: none"> ・健康についての学習機会が少ない。 <p>※健康・福祉関係の事業は首長部局で実施することとされている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各種学級・講座の中で健康について学ぶ時間を設けていく。
交流	<p>学習活動の過程において、学習者・学習支援者相互の交流を図り、まちづくりと豊かな人間関係づくりに寄与する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・S日本語学級（市民館）※再掲 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉協議会が主体となって、数々の事業を展開している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・シニア世代の活力を地域で活かすための基本的な人間関係を構築するための事業がない。 ・異世代間の交流を促す事業がない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個人と個人の人間関係を密にする事業を展開する。 ・他機関との連携も視野に入れた事業を展開する。
社会参加	<p>現代社会における課題に関する学習機会を提供することにより、共に生きる地域社会の形成に必要な力を培う。</p> <p>系統的かつ専門的な学習内容を提供し、地域活動の中心的役割を果たす人材を育成する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・平和人権学習（市民館） ・男女共生セミナー ・日本語ボランティア研修（市民館） ・保育ボランティア研修（市民館） ・ボランティア研修（市民館） 	<ul style="list-style-type: none"> ・まちづくり推進事業（地域振興課） ・Sテクノ塾事業（地域振興課） ・花と緑のS事業（地域振興課・建設センター） ・子育て支援ネットワーク推進事業（地域保険福祉課） 	<ul style="list-style-type: none"> ・セミナーへの参加者が少ない。 ・社会参加を促すための学習機会は数多くあるが、学習テーマに偏りがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・講座の充実を図るとともに、必要性をPRする。 ・ニーズの的確な把握に努める。 ・前期高齢者が持つ職業能力を活かせる事業を展開していく。

K市S区社会教育計画

K市S区社会教育中期計画（平成18年度～平成22年度）
－職住調和の未来空間を創造するまちづくり S区－

I 総論

(1) 計画策定の趣旨

S区の社会教育は、これまでの「第4期S区総合計画」の「活力とうるおいのある市民都市をめざして」という目標を踏まえ、「第2期社会教育振興中期計画」の具現化を図りながら、市民のニーズと社会の趨勢を見据え、施策を推進してきた。しかし、近年、国際化、情報化、少子高齢化、余暇時間の増大など、私たちを取り巻く状況の変化は著しく、価値観の多様化、生活意識の変化等がめまぐるしく進化・細分化してきている。

こうした状況の中で、これらの変化に対応するためには、より一層、生涯学習を振興していくことが求められるとともに、魅力と活力のある地域づくりを進めるためには、市民の学習活動の活発化が重要であり社会教育の果たす役割は大きい。こうしたことから21世紀を展望した、今後の社会教育行政の在り方を考え、社会教育の現状を踏まえるとともに、S区の特徴を生かしながら、進めるべき施策の体系化を図り、社会教育事業推進の指針となる社会教育計画を策定するものである。

(2) 計画の性格

この計画はS区総合計画に基づき、他の計画と整合性を図りながら、S区民憲章並びにS区教育基本目標の理念を具現化し、生涯学習推進の観点に立った社会教育の推進に係る計画である。

(3) 計画の期間

この計画の期間は、S区第4期総合計画と整合性を図り、平成18年度から平成22年度までの5年間とする。

(4) 計画の構成

この計画は、次の4章で構成する。

第1章 第3期社会教育中期振興計画の基本的な考え方

第2章 区民憲章と社会教育目標と施策体系

第3章 生涯各期における社会教育施策

第4章 第3期社会教育中期振興計画の事業項目・指数

参考 区民の社会教育意識調査結果

社会教育施設及び利用状況・社会教育関係団体の状況

II 基本方針

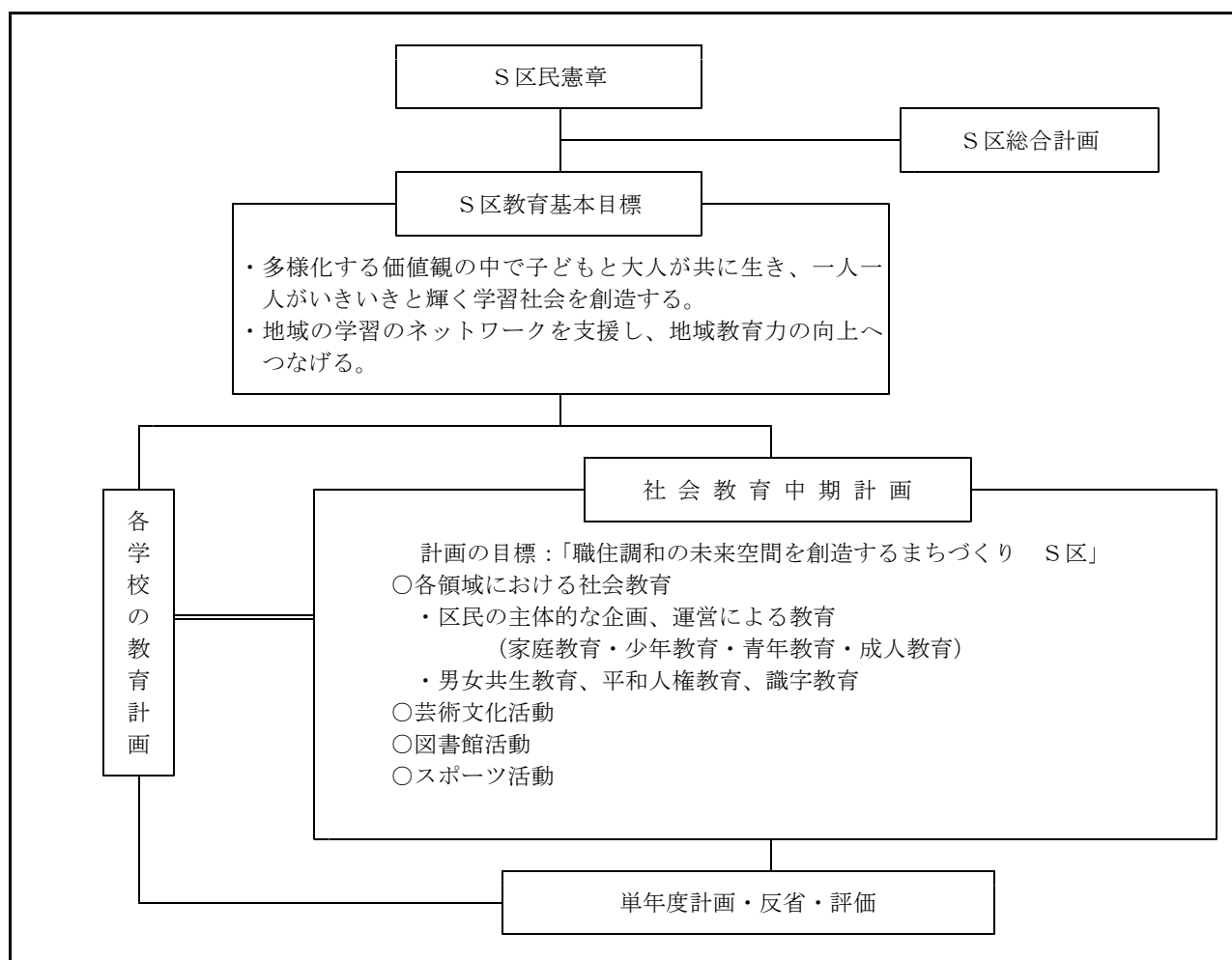
1 基本方針

(1) 基本的な考え方
 S区民は急激な社会環境の変化の中で、心の豊かさや生きがい、あるいは自らの生活や職業上の能力向上を願い、幅広い分野の学習を求めている。また、自分たちのライフスタイルに合った学習活動や、地域での学習交流など、様々な形の学習を求めている。このように、社会情勢の変化に対応して区民の学習に対する要望はますます多様化し、学習の必要性を強く認識しており、生涯学習社会の確立が急務になっている。こうした状況の中で、本区は、区民の生涯学習を支援するため、社会教育を重点的に推進することを目指す。

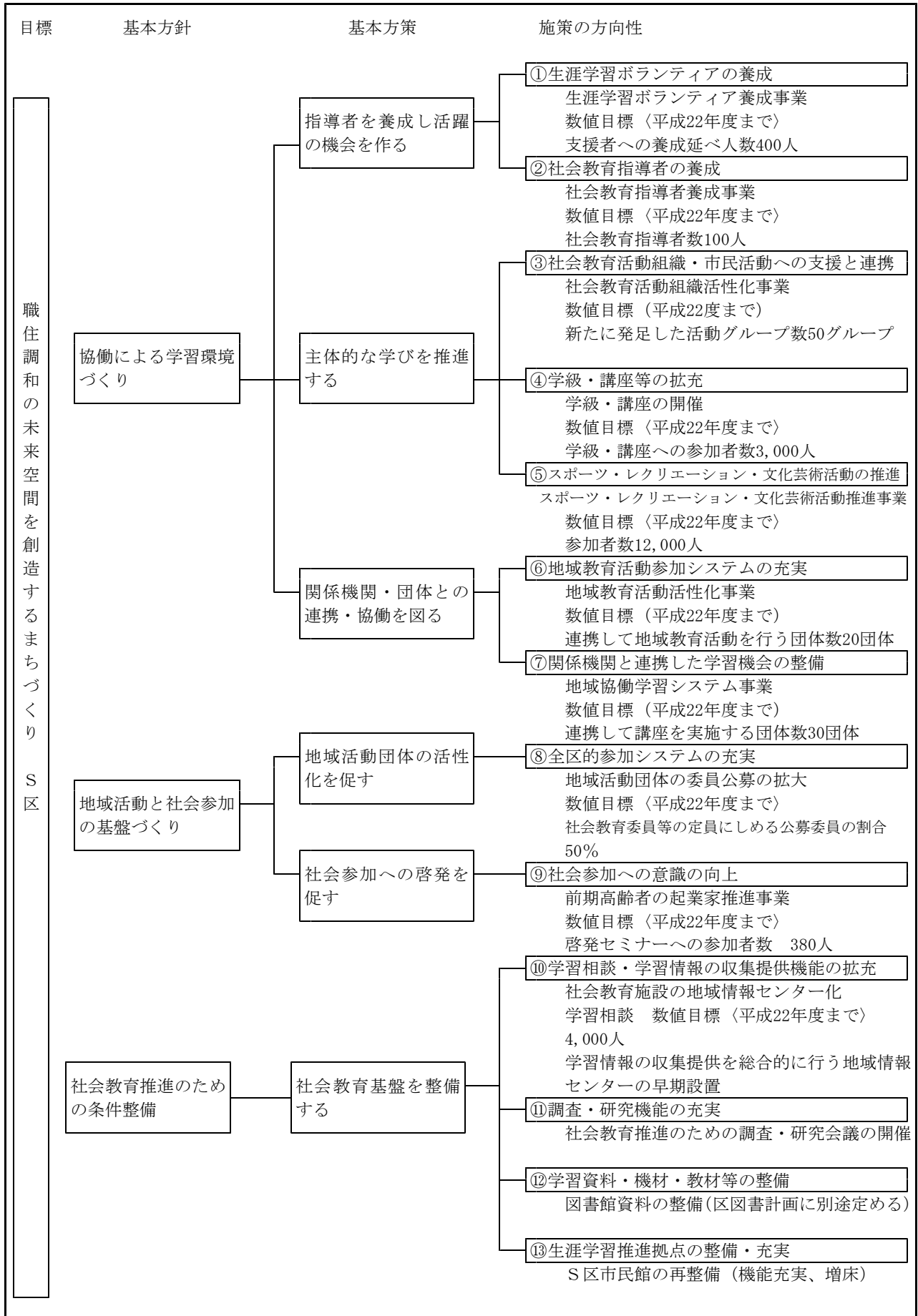
(2) 計画の目標
 基本的な考え方を土台として、計画を実施する目標を次のように定める。
 「職住調和の未来空間を創造するまちづくり S区」
 この目標を実現するためには、以下のような基本的視点にしたがって、社会教育を進めていくこととする。

(3) 社会教育推進の基本方針
 上記の計画の目標を達成するため、社会教育行政が推進すべき基本方針は以下のとおりである。
 ア 共に学びあう学習環境づくり
 イ 自ら学ぶ学習活動の基盤づくり
 ウ 対話と参加を重視した学習システムづくり

2 上位計画との関連



3 施策の方向性と体系



Ⅲ 施策の展開（前期高齢者教育年次計画）

施策	事業名	担当部局名	事業内容	評価指標	年次別目標値				
					年度	年度	年度	年度	年度
①	生涯学習ボランティア養成事業	市民	区民の生涯学習を支援するボランティアを養成する	・支援者の養成延べ人数	80	160	240	320	400
				・養成者のうち実際に支援活動をしている人数		25	50	75	100
②	社会教育指導者養成事業	教育委員会事務局	社会教育事業の充実を図る指導者を養成する	・社会教育指導者延べ人数	20	40	60	80	100
④	学級・講座等の開催	市民	主体的な学びの場を提供する	・学級・講座への参加者数	600	1,200	1,800	2,400	3,000
				・自主企画者数		70	150	240	340
⑤	スポーツ・レクリエーション・文化芸術活動推進事業	教育委員会事務局 市民	スポーツ、レクリエーション、文化、芸術活動への参加を促進する	・スポーツ、レクリエーション、文化、芸術活動への参加者数	2,000	3,500	6,500	9,500	12,000
⑧	地域活動団体の委員公募の拡大	教育委員会事務局 市民	公募委員の拡大	・社会教育委員等の定員に定める公募委員の割合	30	35	40	45	50
				・諮問答申数の増加率	30	35	40	45	50
⑨	前期者の起業家推進事業	市民 新産業創造センター 大研究施設	前期者の起業に関する啓発事業	・啓発セミナーへの参加者数	30	80	180	280	380
				・ベンチャー企業増加率	1	2	3	4	5

第 3 章 年間事業計画及び学習プログラムの事例

(分析シート 1, 2, 様式 4 ~ 6)

※ 様式 は、「第 節 家庭教育計画」「第 節 環境教育計画」にのみ掲載している。

第1節 家庭教育計画

＜分析シート1＞

K F市家庭教育計画

1 K F市の概要

(1) 地勢・地域条件等

- ① 本市はS県の南西部に位置し北部はK市、西部はO町、東部・南部はF市に隣接している。市の東南端をS川が流れ、土地の総面積は6.81km²、海拔18.7mの平坦な土地が広がっている。
- ② 東京都心から30kmに位置し、産業別就業人口割合は第1次産業が0.9%、第2次産業が30.6%、第3次産業が67.7%でほとんどが第2・3次産業就業者である。近年では、第2次産業から第3次産業へと就業構造が移行している。
- ③ 人口は平成17年3月現在54,545人となっている。昭和30年中頃から人口が急激に増加したが、平成4年を境に近年では核家族化、少子高齢化のため減少傾向にある。平成17年の1世帯あたりの人口は2.3人である。

(2) 地域住民の生活状況の特徴

- ① ほとんどの就労者が第2・3次産業に従事しているため昼間は流出人口は多い。
- ② S川の河川敷にわずかな自然が残っているのみで、余暇を過ごすための施設・設備が十分とはいえない。
- ③ 低年齢児対応の施設は少なく、対象児の多くは母親や祖父母が家庭で養育するか無認可の施設に頼らざるを得ない状況である。

(3) 教育・文化的環境

◇ 学校等数

種 別	数
幼稚園(保育所)	6 (6)
小 学 校	6
中 学 校	3
高 等 学 校	1
大 学・短大	0
専 門 学 校	0

◇ 生涯学習関連施設（民間を含む）

種 別	数
図 書 館	1
公 民 館	2
体 育 館	2
公 園 (運動公園)	1 (1)
歴史資料館	1
児 童 館 (児童センター)	6 (1)

◇ 教育・文化的環境の特徴

- ① 家庭と地域・学校などが協力し、長期的かつ総合的に子育て環境づくりに取り組むために、K F市児童育成計画（エンゼルプラン）を策定している。また、家庭教育支援としてセミナーや講演を実施したが父親の参加はほとんど見られなかった。
- ② 放課後の児童センターは開設しているが、施設の受け入れが希望者数の実態に追いついていない。
- ③ エンゼルプランの一環として、平成15年に開設された子育て支援センターは利用の仕方などで住民のニーズに応えきれていない。

2 家庭教育の現状と課題

区分	施策	現行の事業		現状の問題点・課題	問題解決・課題達成のための方向性
		社会教育行政	学校・関連行政・民間・団体等		
社会的な啓発	<ul style="list-style-type: none"> ○子どもの権利の尊重 ○家族ぐるみの子育ての推進 	<ul style="list-style-type: none"> ○パンフレットの配布ポスターの掲示（社会教育課） ○市民フェスティバル（体育課） 	<ul style="list-style-type: none"> ○いじめ・虐待などの問題がある。 ○父親の家事・育児への参加が少ない。 ○父親の役割が弱く家族の絆が薄くなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○いじめや虐待の早期発見・早期対策および予防啓発活動の推進を行う。 ○保健、福祉、医療、教育、警察など地域関係機関とのネットワークの充実を図る。 ○家庭児童相談室や子育て支援センターの機能の充実に努める。 ○父親の参画を啓発する父親学級を開設する。 ○土・日曜日に親子教室を開催する。 ○「家族ぐるみ」の子育て推進を行う。 	
保育サービスの充実	<ul style="list-style-type: none"> ○多様な保育サービスの充実 ○子育てと仕事が両立できる雇用環境づくり 		<ul style="list-style-type: none"> ○延長保育の推進 ○一時的保育の推進（児童福祉課） ○雇用機会の拡大と職業能力開発の促進（産業課） 	<ul style="list-style-type: none"> ○保育サービスを受けられる対象者が限られている。 ○保育サービス（場所・人材など）の充実が十分ではない。 ○社会的に男女共同参画社会への認識が不足している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○保育環境の調査のためのアンケートを実施する。 ○継続した子育てサークルの育成 ○男女共同参画社会の理解を企業や地域に働きかける。
家庭への支援	<ul style="list-style-type: none"> ○子育て相談・情報機能の強化 ○地域が育む子どもと子育ての支援 	<ul style="list-style-type: none"> ○はとぼっぼ教室 ○子育てサロン ○日本語教室（公民館） ○子ども映画会 ○ブックスタート（図書館） ○コスモスくらぶ ○地域の人と子どもの囲碁教室 ○おりがみくらぶ ○子ネットまつり（公民館） ○新春ロードレース大会（体育課） 	<ul style="list-style-type: none"> ○親子歯ッピー教室 ○育児学級 ○家庭教育手帳（保健センター） ○児童相談・教育相談（児童福祉課） ○子ども会活動（産業課） ○子育てひろば（児童センター） ○子育て支援センターの集い ○仲間作りキャンプ ○ファミリーサポート（児童福祉課） ○軽スポーツフェスティバル ○いろんなあそびアリーナ ○地域交流ひろば（保育所） 	<ul style="list-style-type: none"> ○ひとり親家庭に対する支援が十分ではない。 ○障害のある子どもがいる家庭への支援が十分ではない。 ○世代間交流事業があまり行われていない。 ○「地域ぐるみ」の家庭教育が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ひとり親家庭の親子が参加できる事業の企画を行う。 ○民生委員と児童委員による生活調査を生かした個別支援を進めていく。 ○相談体制の充実や学習機会の提供を行うためのシステムの充実を行う。 ○三世代交流や親子キャンプ等の事業を実施する。 ○「地域の声かけ運動」を行う。

区分	施策	現行の事業		現状の問題点・課題	問題解決・課題達成のための方向性
		社会教育行政	学校・関連行政・民間・団体等		
環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> ○ふれあいのある身近な自然環境の整備 ○子育てに優しい生活環境の整備 		<ul style="list-style-type: none"> ○花かおるまち育て事業（商工会議所）（ライオンズクラブ） ○S川の土手をコスモスでいっぱいにしよう（環境課） 	<ul style="list-style-type: none"> ○親子が外で安心して安全に遊べる場所が少ない。 ○道幅や歩道などの道路状況が整っていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○社会教育施設の柔軟な開放や、学校開放を積極的に推進する。 ○地域の中の公園を整備し、活用しやすくする。（遊具の充実と定期的な安全点検） ○ベビーカーや車椅子のための環境の整備（バリアフリー化）
教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ○家庭、地域、学校の連携を図った教育の推進 ○社会連帯感の育成 	<ul style="list-style-type: none"> ○すこやか子育て講座（社会教育課） ○おはなし会（図書館） ○ふくっ子くらぶ ○わんぱく教室（公民館） 	<ul style="list-style-type: none"> ○放課後留守家庭児童対策事業（児童福祉課） ○ビオトープを活用した自然体験 ○読み聞かせ教室（ボランティア団体） 	<ul style="list-style-type: none"> ○施設の老朽化に伴い事業の効率的な運営がなされていない。 ○学校との連携が十分ではない。 ○家庭や地域の教育力が低下している。 ○障害のある児童の放課後の支援が十分になされていない。 ○個々のニーズに事業内容が対応されていない。 ○中高生へ対応した事業が行われていない。 ○異年齢集団の中での遊びや自然体験活動が不足している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○児童館の機能の充実を図る。 ○家庭、地域、学校の連携を啓発する講演会を開催する。 ○児童センターの機能の充実を図る。 ○地域ボランティアの発掘とそのコーディネートを行う。 ○デイケアセンターとの連携を取り入れた新しい事業を実施する。 ○中高生がボランティアとして社会教育事業に参加できる場を提供する。 ○地域の人と中高生がスポーツなどを通して、共通体験をする場を提供する。 ○自然体験活動や異年齢交流を図るキャンプ等を実施する。

IV 年間事業計画（平成18年度家庭教育事業計画）

(1) 社会教育目標	○いつでも、どこでも、だれでも学べるまちをつくろう。
(2) 家庭教育目標	○心豊かでたくましい子どもを育て、ともに成長する親になろう。 ○まちぐるみで家庭教育への支援につとめよう。
(3) 社会教育行政目標	○市民、企業、関係団体の連携を深め、市民誰もが参加しやすい学習や文化活動の機会の拡充を図る。 ○社会教育団体の活動支援やグループ・サークル活動への事業助成及び指導・助言を行い、自主的な学習・文化活動などを奨励・援助する。 ○市民のさまざまなニーズに対応するため、社会教育施設の整備と機能の充実を図る。
(4) 家庭教育行政目標	○子育てに関する学習機会の充実を図り、家庭教育の支援に努める。 ○親の学習機会の拡充と子育てネットワークづくりの推進を図る。 ○地域ぐるみで子育て相談・支援体制を整備する。

(5) 家庭教育年間事業計画表

区分	事業名	事業の目的	事業内容	対象者・定員	実施期間・回数	予算(千円)	備考
学級・講座	「おとうさん」を楽しもう	・子ども理解や家庭教育の重要性について学習する。 ・家族ぐるみで子育てを推進することの重要性を再確認する。 ・親子のふれあいを深める。 ・父親同士の交流を図る。	講義・体験談視聴 妊婦体験 親子で体験活動（農業・ニュースポーツ体験）調理実習 CAP 陶芸教室 ラッピング教室 グループディスカッション 新年会	小学生以下の子どもを持つ父親30名とその子ども	年8回	70	講師：CAPコーディネーター 平日夜間実施（体験活動実施日は土・日曜日）
	すくすくひろば	・継続した子育てサークルの育成を図る。	ワークショップ 話し合い 保育環境のアンケート	サークル及び一般20名	随時	50	講師：支援センター職員・コーディネーター 協力：子育てサポーター
	わくわく未来のパパママ講座	・未来の親となる若者の自立支援を図る。	講義 若者育児体験 妊婦体験	中学生以上20名	年2回	0	講師：保健センター職員(助産婦) 協力：保育園
	なかよしタイム	・障害児と健常児の交流を図る。	共通体験 スポーツ交流	小学生30名	毎月1回 第2水曜日	60	協力：地域ボランティア・学生ボランティア
行事	「男女共同参画」講演会	・企業や地域と連携し、男女共同参画社会の推進を図る。	講演・シンポジウム	一般200名	年1回	150	講師：学識経験者 協力：企業・地域
	子育て講演会	・学校、家庭、地域の教育機能を見直し、連携を図る。	講演 地域での声かけ運動の啓発	幼、保、小の教職員・保護者・地域の人200名	年1回	10	講師：学識経験者
	シングル家庭交流会	・自然体験活動を通してひとり親家族の親睦を深める。	キャンプ・自然体験活動・交流会	親子20組	年1回	150	コーディネーター：学識経験者 協力：大学生ボランティア・NPO団体

区分	事業名	事業の目的	事業内容	対象者・定員	実施期間・回数	予算(千円)	備考
行事	三世代交流会	・スポーツ活動や料理作りを通して、三世代や親子の交流を図る。	グランドゴルフ(雨天時体育館にてヘルスパレー)豚汁、おにぎり作り	一般50名	年1回	30	協力：学校関係者・体育指導員 ※中学校区3カ所に分けて同時開催
	和菓子食べ比べ井戸端会議	・和菓子作りの共同作業を通して、世代を越えた交流を図り、子育てをテーマに話し合いを深める。	和菓子作りテーマに即した話し合い	一般30名	年1回	20	協力：地域ボランティア
情報提供	子ネット通信	・相談体制の情報提供を行う。 ・学習交流会の情報提供を行う。 ・地域ぐるみの子育ての推進を行う。	情報誌で相談体制の情報提供や子どもや親子の遊び体験・学び体験などの情報を掲載	子育てサークル 公民館・図書館・保健センター・保育園・児童センター利用者に配布	年1回	30	協力：子育てネットワーク連絡会
	子育てかわら版	・家庭教育に関する情報提供を行う。 ・いじめや虐待の早期発見・早期対策活動の推進を行う。	家庭教育に関する情報提供や子育てアドバイスなどを掲載	全戸配布	年6回	100	協力：子育てネットワーク連絡会
人材育成・活用	あなたも私もサポーター	・子育てサポーターの養成・活用を図り、子育て環境の整備を図る。	講義・実習 子育てに関する相談	子育て経験者20名	年5回 随時	25	講師：学識経験者・保健センター職員・ベテラン子育てサポーター
	児童センター支援ボランティア養成セミナー	・地域の教育力を生かした子どもの居場所づくりの充実を図る。	講義・実習	希望者	年3回	60	講師：学識経験者
連絡・調整	ふれあいトゥギャザー	・総合的な学習の時間において世代間交流を行い、高齢者の様子を知り、心豊かな児童の育成を図る。	体験活動	小学生(高学年)	年2回	45	協力：高齢福祉課・小学校
	子ネット	・子育て支援ネットワークや地域のネットワークづくりを推進する。	セミナーの開催 行事の開催 広報誌の作成	行政・地域などの関係者	随時	200	協力：子育てサークル

V 家庭教育学習プログラム（個別事業計画）

(1) 事業名	KF市家庭教育学級 「おとうさん」を楽しもう	
(2) 事業の目的	① 子ども理解や家庭教育の重要性について学習する。 ② 家族ぐるみで子育てを推進することの重要性を再確認する。 ③ 親子のふれあいを深める。 ④ 父親同士の交流を図る。	
(3) 実施主体	社会教育課	
(4) 対象者・定員	小学生以下の子どもを持つ父親30名とその子ども	
(5) 学習期間・学習時間（回数）	5月～1月	1回の学習時間 原則として2時間×8回
(6) 学習場所	KF公民館他	
(7) 学習目標	① 父親同士の交流を図り、父親の役割や家庭の大切さについて理解する。 ② 学習を通して子育てへの参加の自覚を高める。	

(8) プログラムの展開

回	学習テーマ	学習の内容と方法	学習支援者	備考
1 5月	「パパの輪を広げよう」	○開講式 ○オリエンテーション ○アイスブレイキング ○ワークショップ：「私の少年時代」	社会教育主事 地域在住の育児 経験のある父親	対象：父親 会場：KF公民館
2 6月	「いい汗かこう！親子で体験」 ①いもほり編 ②グラウンドゴルフ編	○農業体験活動：親子で農業体験（さつまいもの苗植え） ○ニュースポーツ体験：親子でグラウンドゴルフ	社会教育主事 地域の農家ボランティア 体育指導員 子育て支援サポーター	対象：父親と子 会場：畑・運動公園 時間：午前中4時間くらい
3 7月	「うきうき子育て体験」	○実習：妊婦体験 ○講義：子育て体験談を聞く。 ・母親の体験談 ・父親の体験談 ○グループディスカッション	社会教育主事 保健センター職員 子育てサークルの方 地域在住の父親	対象：父親 会場：KF公民館
4 10月	「わくわくいもほり体験」	○農業体験活動：さつまいもの収穫祭 ○調理実習：さつまいも料理に挑戦	社会教育主事 地域の農家ボランティア 公民館職員 子育て支援サポーター	対象：父親と子 会場：畑
5 11月	「CAP」ってなに？	○ワークショップ：暴力防止プログラムについて学ぶ。 ○講演：いじめや虐待の現状を知る。	社会教育主事 CAPなのはな（NP0） 児童相談所職員	対象：父親 会場：KF公民館 評価：アンケート
6 12月 前半	「家族への手作りプレゼント」	○実習：陶芸教室 ※2時間扱い	社会教育主事 陶芸サークル	対象：父親 会場：KF公民館
7 12月 後半		○実習：ラッピング教室 ○プレゼントカードを書こう ※1時間扱い	社会教育主事 ラッピング業者	対象：父親 会場：KF公民館
8 1月	『「おとうさん」を楽しもう』これからもよろしく・・・	○ワークショップ：「おとうさん」を楽しもうを終えて・・・ ○閉講式 ○新年会	社会教育主事	対象：父親 会場：KF公民館 （新年会会場は別） 評価：総合アンケート 自己負担 2000円

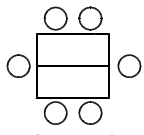
※ 父親のみのプログラムは、参加しやすいように夜間に行う。
 ※ 父親と子ども対象のプログラムは、土曜日の午前中に行う。

VI 学習展開計画（展開プログラム）

(1) 事業名	「おとうさん」を楽しもう	第 回 月 日水曜日
(2) 学習テーマ	「うきうき子育て体」	
(3) 学習目標	① 母親・父親の子育て体 を聞き子育てへの参加の自覚を深める。 ② グループディスカッションを通して父親同士の交流を深める。	

(4) 準備するもの <input type="checkbox"/> 妊婦体 用グッズ <input type="checkbox"/> ホワイトボード <input type="checkbox"/> マイク <input type="checkbox"/> 演 台	(5) 会場図 <div style="text-align: center;"> 演 台 はじめは講義型 </div> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="border: 1px solid black; width: 25%; height: 20px;"></td> <td style="border: 1px solid black; width: 25%; height: 20px;"></td> <td style="border: 1px solid black; width: 25%; height: 20px;"></td> <td style="border: 1px solid black; width: 25%; height: 20px;"></td> </tr> <tr> <td style="border: 1px solid black; height: 20px;"></td> <td style="border: 1px solid black; height: 20px;"></td> <td style="border: 1px solid black; height: 20px;"></td> <td style="border: 1px solid black; height: 20px;"></td> </tr> <tr> <td style="border: 1px solid black; height: 20px;"></td> <td style="border: 1px solid black; height: 20px;"></td> <td style="border: 1px solid black; height: 20px;"></td> <td style="border: 1px solid black; height: 20px;"></td> </tr> <tr> <td style="border: 1px solid black; height: 20px;"></td> <td style="border: 1px solid black; height: 20px;"></td> <td style="border: 1px solid black; height: 20px;"></td> <td style="border: 1px solid black; height: 20px;"></td> </tr> </table>																

(6) 展 開

展開	時間	学 習 活 動	学習支援者	留 意 点	備 考
導 入	10 30	① 講義 保健センター職員の話 ・活動のねらいと体 の方法説明 ② 妊婦体 ・体 の感想を話す。	社会教育主事 保健センター職員	・話す内容を事前に保健センター職員と打ち合わせておく。 ・希望がでない場合は指名する。	集会室
展 開	40 20 10	講義 私の子育て体 母親編・父親編 ・質疑応答を含む 話し合い グループディスカッション 発表 各グループごとに発表する。	社会教育主事 保健センター職員 体 談を話す母親・父親	・グループディスカッションには保健センター職員と体 談を話してくれた母親、父親にもはいてもらう。 ・グループディスカッションの最中に社会教育主事は発表の内容や活動の様子から、このプログラムが適切であったかどうかを評価する。	机の会場配置を変更する  グループ 人
ま と め	10	ふりかえり 父親としてできること 次回の内容について アンケート	保健センター職員 社会教育主事	・センターの職員はグループ発表の内容から感想を交えながら育児参加への意欲を促したり、問題提示をしたりする。	

第2節 青少年教育計画

＜分析シート1＞

〇市青少年教育計画

1 〇市の概要

(1) 地勢・地域条件等

- ① 〇市はK県西部に位置し、気候は温暖で風光明媚な自然環境を有している。南西部は大部分が山地で、東部は丘陵地帯になっている。中央部をS川が南北に貫流し、南はS湾に面している。
- ② 市域の面積は114.06平方キロメートルで、東京から約80kmの距離にあり、市内に18の駅を要するなど交通の要衝として大きな役割を持っている。
- ③ 人口 198,873人 世帯数 74,870世帯（平成17年5月1日現在）
 0～14歳：27,339人（13.7%） 15～64歳：132,779人（66.8%）
 65歳以上：38,639人（19.4%） 平均年齢43.2歳（平成17年1月1日現在）

(2) 地域住民の生活状況の特徴

- ① 平成17年国勢調査第2次基本集計による産業別人口構成比は、第1次産業に従事する者は3.2%、第2次産業従事者は30.9%、第3次産業従事者は65.5%である。
- ② 10年間の人口推移は、ほぼ横ばいであり、昼夜間人口比率は98.3%である。

(3) 教育・文化的環境

◇ 学校等数

種 別	数
幼稚園(保育園)	16(32)
小 学 校	25
中 学 校	13
高 等 学 校	6
大学・短大	2
専 門 学 校	0

◇ 生涯学習関連施設（民間を含む）

種 別	数	種 別	数
公 民 館	9	体 育 館	3
図 書 館	2	テニスコート	5
博 物 館	1	球場（野球・サッカー）	2
街かど博物館	16	陸上競技場	1
天 守 閣	1	スポーツ広場（多目的）	3
歴史見聞館	1	サイクリングコース（広場）	1
郷土文化館	1	市営プール	2
記 念 館	2	スポーツ会館（柔剣道場）	1
文学館・童謡館	1	弓 道 場	1
市民会館	1	ゲートボール	1
タウンセンター	1	キャンプ場	2
植物公園	2	学校体育館	38
公 園	4	学校グラウンド	38
		学校プール	36

◇ 教育・文化的環境の特徴

- ① 「〇〇〇〇ルネッサンス・再生と創造」をまちづくりの新たなキーワードとして豊かな自然や長い歴史に培われた伝統・文化といった恵まれた資源に新しい価値を融合させ、「活力にあふれ、人にやさしく、まちなみが美しいまち」づくりを目指している。
- ② 健やかに伸びる力を育てる教育環境をつくり、生きる喜びを実感する生涯学習・生涯スポーツを推進している。（きらめき☆〇塾・キャンパスシティ構想・城下町ツーデーマーチ等）
- ③ 市民活動の場や情報の提供、人材の育成など市民活動を総合的に推進するための取り組みをしている。

2 青少年教育の現状と課題

区分	施策	現行の事業		現状の問題点・課題	問題解決・課題達成のための方向性
		社会教育行政	学校・関連行政・民間・団体等		
野外・自然体験活動	<ul style="list-style-type: none"> ・青少年の体験活動の機会を充実させる。 ・日常経験しない洋上での生活を通して、連帯性、自立心、責任感を育み、心豊かで逞しい青少年を育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・少年少女オーシャンクルーズ 		<ul style="list-style-type: none"> ・単に体験することにとどまり学びへの発展性が乏しい。 ・自然条件を生かした事業が企画されていない。 ・キャンプ場施設を利用した事業が少ない 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業のねらいを明確にしながら発達段階に応じた学習プログラムを開発する。 ・事前研修に自然体験学習を組み込む。 ・環境を活かした野外体験活動事業を増やす。
文化活動	<ul style="list-style-type: none"> ・科学、趣味、生活技術などの講座を通して青少年の豊かな情操を育む。 ・郷土の偉人の教えや業績を学ぶことにより、日々の生活に生かしていくことを目的に生涯学習を展開する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・スタディーズプラザ ・ふれあい教育事業 ・児童文化行事 ・子ども人形劇団ニコニコ ・市民文化祭 ・全国児童フェスティバル白秋in〇〇 	<ul style="list-style-type: none"> ・市民大学報徳塾 ・ときめき国際学校(市民部) 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業名がわかりにくい。 ・参加者が固定化し、講座内容がマンネリ化している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・わかりやすい事業名を考え、魅力的なプログラムを開発する。 ・ホームページ等を生かした広報活動を充実させる。
スポーツ・レクリエーション活動	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツを愛好する多くの市民に日頃錬成した成果を発揮する機会を提供し、心身の健全育成と競技力の向上を図るとともに、各地区民の相互の親睦と明るい市民生活の向上に寄与する。 ・住民や全国のウォーカーが魅力あふれる「〇〇〇」を歩き、自然に親しみ、歩く喜び、ふれあいと感動を味わうとともに交流と友情を深めることを目的とする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・城下町ツデーマーチ ・ニュースポーツ普及推進講座 	<ul style="list-style-type: none"> ・市民総合体育大会 ・市民駅伝競走大会(体育協会) 	<ul style="list-style-type: none"> ・市民(青年層)の参加が少なくメンバーが固定化している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学社連携により参加率の増加を目指す。 ・市民への意識調査を行い時代のニーズに合ったイベントの開催について検討する。
地域活動	<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民との連携を図りながら、青少年の健全育成を推進する。 ・自然の中での共同生活を通して、仲間の輪を広げ、協調性を養い地域の少年リーダーを育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・善行青少年表彰事業 ・地域青少年リーダー養成講座(きらめきロビンフット) ・ジュニアリーダーズクラブ ・シニアリーダーズクラブ 	<ul style="list-style-type: none"> ・土曜ふれあい事業(学校・PTA連協) 	<ul style="list-style-type: none"> ・世代間交流の側面が少ない。 ・地域のまとまりよりもスポレク団体に重点が置かれ、子供会が衰退化している。 ・知識、理解が中心で実践に結びつかず、リーダーとしての活動の場が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの居場所作りを推進し、放課後児童クラブの設置数を増やす。 ・地域の課題を主体的に考え、地域に積極的に関わるリーダーを育成する。 ・地域の課題解決に向けて世代を超えた意見交換が行われるようにする。

IV 年間事業計画（平成18年度青少年教育事業計画）

(1) 社会教育目標	自然や地域との関わりの中で、活力にあふれ人に優しいまちづくりを進めよう。
(2) 青少年教育目標	交流活動を活発に行い、健やかでたくましく成長をしよう。
(3) 社会教育行政目標	① 多様な学習ニーズと地域の課題に対応した学習活動の機会を提供する。 ② 様々な学習を通して、住民がお互いを認め合い安心して生活できるように支援する。 ③ 豊かな心を育む自然体験活動を提供する。
(4) 青少年教育行政目標	① 家庭・学校・地域の連携を強化し、地域ぐるみで青少年の育成に努める。 ② 自然体験型の学習活動を進める。 ③ 地域活動への参加を促進し、郷土意識・社会奉仕の意識を高める。 ④ 指導者の育成と活用を促進する。

(5) 青少年教育年間事業計画表

区分	事業名	事業の目的	事業内容	対象者・定員	実施期間・回数	予算(千円)	備考
野外・自然体験活動	10daysアドベンチャーキャンプ 【新規】	・長期間の自然体験活動を通して、自立心や自己肯定感、思いやりの心を育む。	・沢遊びや登山、野外炊飯などの自然体験活動を行うことで、豊かな心を育む。	中学生 (30名)	9泊10日 (メインキャンプ) 1泊2日 (プレキャンプ)	200	長期間にわたるキャンプの不安を取り除くため、プレキャンプを実施する。
	親子ふれあい隊 【新規】	・親子のふれあいや家族間交流を通して感謝や思いやりの心を育むとともにコミュニケーション能力を育む。	・親子クッキングや昆虫採集等を行い、心の交流を育む機会を提供する。	小学生とその保護者 (20家族)	1泊2日 年6回 (5・7・8・9・10・1月)	120	地域素材を活かした食べ物を作る。季節に応じたプログラムを展開する。
	オーシャンクルーズ～ピーアンビジャス	・洋上での生活を通して協調性や責任感を育み、心豊かでたくましい青少年を育成する。	・船内探検ラリーや船上運動会を行い、協調していく心を育てる。	小学5、6年生 (500名)	2泊3日 (メイン研修) 1泊2日 (事前研修) 1日 (事後研修)	800	高校生や大学生のリーダー育成も合わせて図る。
文化活動	Kidsアカデミー 【新規】	・日頃なかなか体験できないことを経験する機会を通して子ども同士の交流や親子のふれあいを図り、未来を担う子ども達の情操を豊かにする。	・伝統芸能体験、実習、実験、観察などを通して自主性・創造性を育みながら、幅広い視野と知識、技能を身につける機会を提供する。	小中学生 1講座20名程度	各講座1回 通年土日曜日 夏・冬休み	300	現行事業の「児童文化行事」「スタディーズプラザ」「ふれあい教育事業」を一つにまとめる。
	Kids&Teensサークル 人形劇団ニコニコ	・人形作成から公演まで子ども達自らが参画することにより力を合わせて1つのことをやり遂げる達成感を感じるとともに、異年齢間の交流により心豊かでたくましい子どもを育てる。	・人形作成・練習・公演を通して、協調性、コミュニケーション能力を育む。	小中高生 20名	通年	100	広報活動の充実
エーション・レクリ活動	ふれあいウォーク 48h	・豊かな自然と歴史・文化の魅力あふれる〇〇路を歩き、健康の保持・増進を図る	・健康ウォーキングコースを3種設定して、各コースを完歩する充実感を味わい、自然にふれあう。	小中高生 (小学4年生以下は保護者もしくは責任者が同伴)	年1回2日 (10月)	800	ゴール後に完歩証授与豚汁サービス救急体制の確認

区分	事業名	事業の目的	事業内容	対象者・定員	実施期間・回数	予算(千円)	備考
スポーツ・レクリエーション活動	快汗！ニュースポーツ	・年齢を超えて楽しみながら新しいスポーツに取り組み運動の充実感を味わいながら参加者の交流を図る。	・ダーツ、ペタンク、フライングディスク等のニュースポーツを楽しむ。	小中高生 成人 100名	年3回 (6・8・10月)	100	体協・社会教育関係団体との連携救急体制の確認
	〇〇横断ウルトラクイズ 【新規】	・自らが育ち生活する地域について理解を深めるとともに、レクリエーションを通じた仲間づくりを図る。	・3人1グループで市の文化、歴史、名所、産業などに関するクイズを解き、コースに沿って市内を移動する。	小中高生 1000名	年1回 (5月)	2000	市民体育館をスタート&ゴールとする。CATVと連携
地域活動	わんぱくクラブ	・子どもの居場所づくりを推進する。	・放課後児童クラブの設置数を増やし、児童の居場所を確保する。	小学生 (1～3年生)	通年	30	全ての小学校に配置予定
	わいわいクラブ 【新規】	・子どもの居場所づくりを推進する。	・公民館を開放して、小中学生の放課後の居場所をつくる。	小中学生 (小4～中3)	通年	30	中央公民館 青少年ボランティア2名常駐
	ジュニア防災体験活動「きらめきレスキュー隊」 【新規】	・災害発生時に地域住民の安全確保、救済活動に関する知識・技能を身につけ有事の際に地域に貢献できるたくましい青少年を育成する。	・非常時の野外活動体験を通して、防災について学ぶ。	中学生36名 第5・7回のみ成人参加	・夏休みを利用して 1泊2日の宿泊体験1回 事前研修5回 事後研修1回	400	A中学校 中央公民館
リーダー育成	地域青少年養成講座(きらめきロビンフット)	・地域のリーダーとして成長し、実践する力を養成する。	・3泊4日の宿泊体験学習、野外炊飯、CF、グループワーク、奉仕活動等を通して、リーダー性を習得する。	中1～高2まで 30名	年2回 (5・8月)	30	市内キャンプ場
	青少年フォーラム(青春トーク塾) 【新規】	・青少年に関する社会的テーマを取り上げ意見交換する中で、問題解決の意識を高め、健全な生活のあり方について学ぶ。	・「いじめ、暴力追放」等のテーマについて、学校・地域等から参加者を募り、意見交換を行う中で、問題解決の方法を探る。一般公開をする。	行政・学校・PTA・社会教育団体・地域代表者等 50名	年3回 (6・9・12月)	100	中央公民館 企画・運営等事前研修を行った中高大生のリーダーが行う。

V 青少年教育学習プログラム（個別事業計画）

(1) 事業名	ジュニア防災体験活動「きらめきレスキュー隊」	
(2) 事業の目的	災害発生時に地域住民の安全確保、救済活動に関する知識・技能を身につけ有事の際に地域に貢献できるたくましい青少年を育成する。	
(3) 実施主体	〇市教育委員会生涯学習部青少年課・防災部	
(4) 対象者・定員	中学生・36名	
(5) 学習期間・学習時間（回数）	4月～10月	1回の学習時間 3時間×6回＋1泊2日
(6) 学習場所	市内中学校・グラウンド・体育館、公民館	
(7) 学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・地域防災に関する知識と心構えを身につける。 ・災害時における地域住民の安全確保、救済活動に関する技能を身につける。 ・青少年が積極的に地域貢献をしようとする態度を身につける。 	

(8) プログラムの展開

回	学習テーマ	学習の内容と方法	学習支援者	備考
第1回 4月	自然災害について知ろう	<ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション（全7回の内容説明） ・防災体験活動ガイダンス ①被災経験者による講話 ②VTR視聴（阪神淡路大震災記録） 	<ul style="list-style-type: none"> ・公民館主事 ・社会教育主事 ・青少年課職員 ・講話講師 ・A中学校職員 	公民館
第2回 5月	地域の実態をふまえ防災マップをつくろう	<ul style="list-style-type: none"> 〈講義〉 ・避難場所、避難経路、備蓄倉庫、病院、防火用水、危険箇所の確認 ・ひとり暮らしのお年寄りの住居を確認し、避難誘導の方法を確認 	<ul style="list-style-type: none"> ・市役所防災部職員 ・公民館主事 ・社会教育主事 ・青少年課職員 ・町内会長 	公民館
第3回 6月	災害を想定しシミュレーションしてみよう	<ul style="list-style-type: none"> 〈演習〉 ・起こりうる様々な災害の対策を地域の実情や自分の経験をもとに考える。（ワークシートの活用） 	<ul style="list-style-type: none"> ・市役所防災部職員 ・公民館主事 ・社会教育主事 ・青少年課職員 ・町内会長 	公民館
第4回 7月	災害時における応急処置の知識・技能を知ろう	<ul style="list-style-type: none"> 〈実習〉 ・応急処置、救急救命法の学習及び実習（止血法、包帯法、心肺蘇生法、運搬法、AED） 	<ul style="list-style-type: none"> ・市役所防災部職員 ・公民館主事 ・社会教育主事 ・青少年課職員 ・町内会長 ・消防署職員 	公民館
第5回 8月	災害発生！「きらめきレスキュー隊」出動せよ。	<ul style="list-style-type: none"> 〈実習：プログラムの展開〉 ・1日目①テント・仮設トイレ設営 ②炊き出し実習（野外炊事：おにぎり） ③消火活動体験 ④傷病者運搬実習 ⑤グループごとの振り返り（夜間） ・2日目①非常食分配、試食体験 ②A中学校の危険箇所を実際に確認 ③ロープワーク実習、用具撤収 	<ul style="list-style-type: none"> ・市役所防災部職員 ・公民館主事 ・社会教育主事 ・青少年課職員 ・町内会長 ・消防署職員 ・地区住民 ・A中学校職員 	グラウンド 体育館 ライフラインの制限 （水道・電気・電話は使用不可） 給水車配備
第6回 9月	体験のまとめをしよう	<ul style="list-style-type: none"> 〈演習〉 ・体験活動の成果のまとめ ・発表会の準備 ・防災啓発ポスターの作成 ・スローガン作成 	<ul style="list-style-type: none"> ・市役所防災部職員 ・公民館主事 ・社会教育主事 ・青少年課職員 	公民館
第7回 10月	「きらめきレスキュー隊からのメッセージ」	<ul style="list-style-type: none"> 〈発表〉 ・各グループごとに成果の発表 ・スローガンの発表 ・ポスターの発表及び掲示 	<ul style="list-style-type: none"> ・市長 ・広報担当 ・市役所防災部職員 ・公民館主事 ・社会教育主事 ・青少年課職員 	公民館

第3節 成人教育計画

＜分析シート1＞

Y市成人教育計画

1 Y市の概要

(1) 地勢・地域条件等

- ① Y市はK県M半島の中央部にあって、T湾とS湾に挟まれた温暖な地である。
- ② 明治40年（1907年）2月15日Y市となり、平成13年（2001年）4月1日中核市へ移行（県内初）する。
- ③ 面積100.67km²、人口424,049人。（平成18年8月1日現在）

(2) 地域住民の生活状況の特徴

- ① 65歳以上の高齢者人口が、92,329人（平成18年）であり、高齢化率は、14.1%（平成7年）、17.4%（平成12年）、21.4%（平成18年）と年々増えている。全国平均19.5%（平成17年）と比較しても高い傾向があり、特に65歳以上の単身世帯数が増加している。
- ② 産業別の就業人口の割合は、第1次産業が1.1%、第2次産業が24.7%、第3次産業が73.6%である。（平成17年）
- ③ 米軍基地もあることから、市民の防災・防犯への関心が高い。
- ④ 東京、横浜に隣接しているため、余暇を求めて市外へ出向くことが多い。

(3) 教育・文化的環境

◇ 学校等数（民間も含む）

種 別	数
幼稚園(保育所)	40 (36)
小 学 校	50
中 学 校	27
高 等 学 校	14
大 学 ・ 短 大	3
専 門 学 校	3

◇ 生涯学習関連施設（民間を含む）

種 別	数
生涯学習センター	1
公民館（分館）	9 (2)
高齢者施設（憩いの家等）	9
社会教育・文化施設（文化会館・図書館・博物館等）	30
運動施設（体育館・プール等）	5
福祉施設（福祉センター等）	3

◇ 教育・文化的環境の特徴

- ① Y市ならではの地域文化や新しい文化を創造するとともに、一人ひとりが、生涯を通じて学習でき、自己実現の機会を享受できる「個性豊かな人と文化が育つまち」をめざしている。
- ② 国際的な音楽コンクールやジャズ祭等の催しを芸術劇場等で行うことにより、新しい芸術文化が生まれるまちをめざしている。
- ③ 公民館・図書館・博物館等、生涯学習関連機関の数が多い。それぞれの施設が、生涯学習推進の施策を積極的に展開していて、市民も積極的に参加している。

2 成人教育の現状と課題

区分	施策	現行の事業		現状の問題点・課題	問題解決・課題達成のための方向性
		社会教育行政	学校・関連行政・民間・団体等		
学級・講座	<ul style="list-style-type: none"> 市民のニーズに対応した学習機会を提供し知識技能を身につける場とする。 	<ul style="list-style-type: none"> 家庭教育学級【生涯学習課】 家庭教育講演会【生涯学習課】 人権同和教育講座【生涯学習課】 	<ul style="list-style-type: none"> 学校開放講座【生涯学習財団】 親子工作教室【県土建労働組合】 	<ul style="list-style-type: none"> 指導者の不足と、講座内容のマンネリ化や、参加者の固定化。 	<ul style="list-style-type: none"> 指導者の育成（活用）及び学習の場の啓発。
学習情報提供・学習相談	<ul style="list-style-type: none"> 市民に成人教育に関する情報提供をする。 市民の自主的・自発的な学習意欲に応えるため指導者に情報を提供する。 学習相談等の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 広報誌【生涯学習課】 市のホームページ（講座案内）【生涯学習課】 公民館ニュース【公民館】 学習相談窓口【生涯学習課・公民館】 	<ul style="list-style-type: none"> まなび情報瓦版（HP・冊子）【生涯学習財団】 財団のホームページ【生涯学習財団】 まなびかんニュース【生涯学習財団】 学習センター窓口【生涯学習財団】 	<ul style="list-style-type: none"> 学習者に必要な情報が届きにくい。 学習相談の利用者が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> わかりやすく魅力ある広報誌、ホームページ等の作成。 学習相談の機能の見直しと周知。（インターネットを含む）
講習・研修・ボランティア	<ul style="list-style-type: none"> 実践力を身につけた熱意ある指導者を養成確保し、指導者の活用を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> わいわいスクール【生涯学習課】 高齢者人材派遣事業【生涯学習課】 生涯学習講座【生涯学習課】 3市(K・Y・Y)生涯学習連絡協議会 県公民館連絡協議会 生涯学習関係職員研修会【上記3事業は、生涯学習課】 	<ul style="list-style-type: none"> P T A指導者研修会【Y市P T A協議会】 	<ul style="list-style-type: none"> 小学校低学年児童の居場所作りの場が、少ない。（小学校50校のうち5校） スタッフの人材発掘と育成が不十分である。 13講座に72名の登録があるが、まだまだ少ない。 講座の回数が少ない。 生涯学習関係職員研修会の回数が少ない。 P T A全会員に、研修内容が伝わらない。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校への協力要請。 市民ボランティアの人材育成。 高齢者のボランティアの人材育成。 企画スタッフを育成し、講座の回数を増やす。 研修回数を増やし、広域化を図る。 P T A広報誌の充実。
関係機関との連携・協力	<ul style="list-style-type: none"> 成人教育をより幅広く展開するために他の関係機関との連携・協力を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ブックスタート事業【生涯学習課】 その他 公民館・図書館・博物館・婦人会館・万代会館の管理・運営【生涯学習課】 	<ul style="list-style-type: none"> 市立学校開放事業【各学校】 その他 生涯学習センターの管理・運営【生涯学習財団】 	<ul style="list-style-type: none"> 学校との連携をもっと充実させたい。 新生児全員を対象としているが、その後の読書体験に引き継がれない。 市の直接管理の施設と委託施設との役割分担が明確でない。 	<ul style="list-style-type: none"> 学社連携を推進していく。 健康福祉センターと図書館との連携を深める。 事業の見直しと、連携を深めていく。

IV 年間事業計画（平成18年度成人教育事業計画）

(1) 社会教育目標	市民一人ひとりが心豊かで、生きがいのある人生を送ろう。
(2) 成人教育目標	生涯にわたって心身ともに健康で、互いに生き生きと学び合い、豊かな毎日を送ろう。
(3) 社会教育行政目標	生涯学習の推進の基盤整備を図るとともに、社会教育の推進体制の充実に努める。
(4) 成人教育行政目標	生涯にわたって各時期に必要な学習の機会を提供する。 市民の自主的な学習ニーズに対応するため、施設、設備、人的な充実・整備を図る。

(5) 成人教育年間事業計画表

区分	事業名	事業の目的	事業内容	対象者・定員	実施期間・回数	予算(千円)	備考
学級・講座	○韓国を知るためのはじめての韓国語【継続】	・国際理解を深めるために韓国語を学ぶ。(現代的課題)	・韓国語通訳の基礎を学ぶ。韓国語の文化に触れる。韓国語の文法を学ぶ。	成人 30人	年3講座	58	生涯学習センター
	○男が楽しむちゃんこ鍋【継続】	・健康について知識を深め、食生活の改善を図る。	・ちゃんこ鍋の調理法を学ぶ。食生活の改善を図る。	成人 20人	年2講座	25	生涯学習センター
	○家族でホテル観光【継続】	・ホテルの身近な環境を学ぶ。	・ホテルの歴史や文化を学ぶ。	家族 30組	年3講座	12	生涯学習センター
	○親子でEnglish!!【継続】	・早期に異文化に触れ、英語の学習を促す。	・英語の基礎を学ぶ。	親子 15組	年2講座(各5回)	115	生涯学習センター
	○あなたの安心まちの安心【新規】	・防災に関する知識を高め、災害に備える。	・防災に関する知識を高め、災害に備える。	成人 30人	年3講座(各5回)	1,325	講習修了者による希望者登録してもらう。
学習情報提供・学習相談	○Y市まなび情報事業【継続】	・人生に役立つ情報を提供する。	・Y市広報誌を配布する。Y市財団広報誌を配布する。Y市ホームページに掲載する。Y市財団ホームページに掲載する。Y市にない施設を開放する。	全戸 市民 市民 市民 市民	月1回 月1回 随時 随時 年1回	0 7,000 0 100 200	市長部局 生涯学習財団 市長部局 生涯学習財団 生涯学習財団
	○まなびよろず相談事業【新規】	・学習相談を充実させる。	・学習相談員を配置する。	市民	年間	4,000	人件費
講習・研修・ボランティア	○あなたがリーダー【継続】	・様々な活動に積極的に参加する。	・「講座」「体験学習」を実施する。	成人 50人	年2講座	1,575	生涯学習センター
	○PTAの星【継続】	・PTAの活動を支援する。	・PTAの活動を支援する。	市P連	年4回	140	生涯学習センター
関係機関との連携・協力	○わいわい広場【継続】	・学校施設を開放し、地域住民の交流を深める。	・学校の体育館・図書室(和室)を開放する。	市民	随時	1,700	開放する学校との連絡・調整
	○おはなしルーム【新規】	・絵本の読み聞かせを促進する。	・絵本の読み聞かせを促進する。	親子 15組	年10回	89	生涯学習センター 健康福祉センター

V 成人教育学習プログラム（個別事業計画）

(1) 事業名	あなたの安心 まちの安心	
(2) 事業の目的	○防災・防犯の知識を身につけ、日常における個々の危機管理意識を高める。 ○災害に強く、安全で暮らしやすいまちづくりについて考える。	
(3) 実施主体	Y市生涯学習課	協力機関【Y市消防局・Y市警察署】
(4) 対象者・定員	成人30人	
(5) 学習期間・学習時間（回数）	6月～7月（5回） 9月～10月（5回） 2月～3月（5回）	1回の学習時間 3時間×5回
(6) 学習場所	Y市生涯学習センター ○○小学校校庭 あんしんかん（Y市民防災センター）	
(7) 学習目標	○防災・防犯の知識と技術を身につけることにより、安全で快適に暮らせるまちをともに作る。 ○安全で快適に暮らせるまちづくりの担い手となるため、指導者としての知識・技能を学ぶ。	

(8) プログラムの展開

回	学習テーマ	学習の内容と方法	学習支援者	備考
1	防災・防犯について考えよう！！	○開講式（オリエンテーション） ○多様化する犯罪の現状と対策について学習する【講義】 ○護身術を身につける【実技】	・市長 ・生涯学習課職員 ・Y市警察署員 ・Y市警察署員	3時間 Y市生涯学習センター
2	私たちにできる、救急救命！！	○災害時の救急救命の知識を学ぶ【講義】【ビデオ視聴】 ○心肺蘇生法・応急処置法等の実技を体験する【実技】	・Y市消防局職員	3時間 Y市生涯学習センター
3	災害現場で生きぬこう！！ （サバイバル体験）	○テントの設営の仕方を身につける【実技】 ○トイレの設置方法を学ぶ【実技】 ○飲み水のための濾過方法を学ぶ【実技】 ○アルミ缶でご飯を炊いて食べる【実技】	・Y市防災アドバイザー	3時間 ○○小学校校庭を借用する
4	『あんしんかん』で安心感！！ （あんしんかん見学）	○オリエンテーション ○『非常持ち出し品チェック』等を学習する【講義】 ○地震体験・消火体験・煙体験等をする【実技】	・Y市消防局職員	3時間 あんしんかん
5	つくろう！！『あなたの安心 まちの安心』	○防災・防犯について直面する問題を知る【講義】 ○防災・防犯について、私たちが身近にできることを話し合う【グループ討議】 ○ボランティアの必要性を学ぶ【まとめ】	・○○小学校校長 ・生涯学習課職員 ・Y市消防局職員 ・Y市警察署員 ・災害救援ボランティア	3時間 Y市生涯学習センター

第4節 女性教育計画

＜分析シート1＞

A市女性教育計画

1 A市の概要

(1) 地勢・地域条件等

- ① S川の右側に開けた扇状の地形であり、T山麓に連なる西北部の丘陵地帯と東南に緩やかに開けた平野部からなる。
- ② 面積は約94平方kmで、東京から46km、Y駅から32kmの位置にあり、K県の中央部の内陸都市である。
- ③ 人口は約22万人、人口に占める女性の比率は約48%である。1世帯あたりの人口2.6人。(平成17年9月)

(2) 地域住民の生活状況の特徴

- ① 平成17年度の1日平均で、出産5.99人、死亡2.72人 結婚3.72組 離婚1.09組。昼間人口が多く、人口移動が好不況に左右されやすい。
- ② 産業・交通の中核都市（生産性の高い農業、飛躍的に集積の進んだ商業、製造から頭脳型に転換しようとする工業）
- ③ 女性の社会参加状況（地方自治法第180条の5に基づく委員会）

名 称	委 員 数	うち女性	名 称	委 員 数	うち女性
教育委員会	5	1	固定資産評価審査委員会	3	1
選挙管理委員会	4	1	農業委員会	19	0
監査委員会	1	0			

(3) 教育・文化的環境

◇ 学校等数

種 別	数
幼稚園(保育所)	18 (6)
小 学 校	23
中 学 校	13
高 等 学 校	6
大 学 ・ 短 大	9
専 門 学 校	2

◇ 生涯学習関連施設（民間を含む）

種 別	数
公民館・地区市民センター等	18
スポーツ施設	29
児童館 老人憩いの家	各35
その他（女性センター1、中央図書館1、子ども科学館1、ヤングコミュニティセンター1）	

◇ 教育・文化的環境の特徴

- ① 社会教育関係女性団体は、趣味的活動にとどまっています、女性問題に踏み込んだものがない。
- ② 各地区の公民館単位に自主女性学級や、家庭教育学級を実施しているが、参加者が固定化している。
- ③ 年齢階級別労働力率では、女性は20～24歳の段階にピーク（70%）があり、30歳代で40%台に低下する。そして、45～50歳代に第二のピークがある。(国勢調査より)
- ④ 男女平等についての意識調べで「政治の場や政策決定の場で」「社会通念・観念しきりなどで」非常に男性優位と答えた割合が40%以上となっている。(A市男女共同参画社会に関するアンケートより)

2 女性教育の現状と課題

区分	施策	現行の事業		現状の問題点・課題	問題解決・課題達成のための方向性
		社会教育行政	学校・関連行政・民間・団体等		
男女共同参画	<ul style="list-style-type: none"> 男女が固定的な役割分業意識にとらわれることなく、共に自立・共生を目指す。 男女平等を基本として、男女それぞれが豊かな生き方ができるような学習を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> 市民大学教養講座 板前教室 リカレント学習推進事業 生涯学習シンポジウム (生涯学習課) 	<ul style="list-style-type: none"> 福祉ボランティア講座 (社会福祉協議会) 在宅介護講座 (福祉課) ホームヘルパー講座 (福祉課) 子育て支援セミナー (児童家庭課) 	<ul style="list-style-type: none"> ① 参加したくてもできない状況の人がいる。 ② 男女が意見を交換したり男性の意識の向上を図る場が少ない。 ③ リーダー的人材の不足 	<ul style="list-style-type: none"> ⇒誰でも参加可能な時間帯での開設 ⇒男女で参加できる講座の開設 ⇒リーダーの養成と経験を積んだ女性たちの中からリーダー的人材を掘り起こす。
生活・職業	<ul style="list-style-type: none"> 女性の自己実現へ向けた自発的な学習を推進する。 市民、主婦、母親、働く女性として豊かな人間性を培う学習を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> 資格取得講座 ワーキングセミナー テレビセミナー 市民企画講座 女性団体委託講座 地域婦人団体への支援 (女性センター) 		<ul style="list-style-type: none"> ④ 社会参加を望む人たちのための事業の不足 ⑤ 男女共同参画社会に向けた事業の不足 ⑥ 女性問題講座がない。 ⑦ 社会教育と首長部局との連携が図られていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ⇒社会参加を促進するための学習機会の提供 ⇒男女共同参画の実現を目指す講座の充実 ⇒ジェンダー講座等の開設 ⇒他機関等との連携による事業の推進
趣味・教養・健康	<ul style="list-style-type: none"> 女性の健康の保持・増進と母子保健の学習を推進する。 スポーツ・レクリエーションを通じた仲間づくりを図る。 現代社会の諸問題に対する学習を推進する。 高齢化社会を迎え、これからの人生をゆとりを持って豊かに生きるための学習を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> 女性の広場 家庭教育学級 生きがい教室 (公民館) 各種スポーツ教室 (スポーツ課) 		<ul style="list-style-type: none"> ⑧ 参加者の固定化 	<ul style="list-style-type: none"> ⇒インターネットメディアを使い、参加者の拡大を図る。

IV 年間事業計画（平成18年度女性教育事業計画）

(1) 社会教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ・自分を表現する効果的・的確な知識や技術を学ぼう。 ・地域を取り巻く現状を見つめ直してみよう。 ・自己を高め、自分自身の生き方をより豊かなものにしよう。
(2) 女性教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ・女性問題への理解と認識を広めよう。 ・女性の知識教養を高め、ゆとりある充実した生活を送ろう。 ・女性が働きやすい環境を創造しよう。
(3) 社会教育行政目標	<ul style="list-style-type: none"> ・未来を支える人材づくりに向けて、生涯学習、生涯スポーツの推進、青少年の健全育成に努める。 ・誰もが誇れる文化の薫るまちづくりに向けて、市民文化の創造や育成、国際化に対応し、また男女が共につくる地域社会を目指す。
(4) 女性教育行政目標	<ul style="list-style-type: none"> ・男女の自立・共生と社会参画を推進する。 ・男女平等を基本とした教育、学習を推進する。 ・健康の増進と福祉の向上、並びにあらゆる暴力を根絶する。

(5) 女性教育年間事業計画表

事業区分	事業名	事業の目的	事業内容	対象者・定員	実施期間・回数	予算(千円)	備考
講座・教室	おんな塾	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭内の男女の役割を見直しながら、生活技術を身につける。 ・地域の仲間づくりを推進する。 	DIY教室 ① ガーデニング ② 電化製品簡単修理 ③ 車の構造を知ろう ④ 木工教室	成人女性 30名	5～1月 (月1回) 全9回	消耗品費 5×13 講師謝金 5×13	公民館 13ヶ所
	おとこ塾		料理教室 ソーイング教室 介護体験	成人男性 30名	5～1月 (月1回) 全9回	消耗品費 5×13 講師謝金 5×13	
	ジェンダー講座	<ul style="list-style-type: none"> ・男女共同参画に関する認識を深め、ジェンダーに敏感な視点を身につける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・女性史を学ぶ ・男女のコミュニケーションのあり方を考える。 ・リプロダクティブヘルス/ライツに関する認識を深める。 	市民 各回 20名	9～11月 (月曜日) 全10回	講師謝金 20×7	女性政策課との合同開催 K公民館
	スポーツ・レクリエーション教室	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ・レクリエーションを通して、健康な心と身体をつくり同時に仲間づくりを目指す。 	ダンベル体操 チューブ体操 ヨガ 社交ダンス	成人女性 30名	5～9月 (月1回) 全5回	講師謝金 5×5 ×13	公民館 13ヶ所
	女性のための実務講座	<ul style="list-style-type: none"> ・働く女性および就労を希望する女性のために、教養を高め社会参加を促進する。 	パソコン教室 宅建主任資格取得講座 ホームヘルパー2級養成講座	成人女性 30名	5～6回 (10回)	講師謝金 4×2 ×10	
イベント	女性フォーラム 「男と女共に輝け21世紀」	<ul style="list-style-type: none"> ・男女共同参画社会の実現に向けて男女が共に素敵に生きるための社会を目指す。 	基調講演 パネルディスカッション アトラクション(発表の場) 井戸端会議(意見交換)	市民 1,000名	12月 1回	講師謝金 400 諸経費 600	保育室 設置 文化会館
相談	女性相談事業	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭、地域、職場等において女性のあらゆる相談に対応できるよう場所や学習情報の提供を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・相談窓口の設置 ・学習情報提供 		※	法律相談員 10×12	女性センター 生涯学習課、及び女性行政担当課で対応

※ 女性相談 月～土(祝日・休日を除く)午前10時～午後5時(土曜日は正午)

法律相談 毎月第3月曜日(祝日・休日の場合は第2月曜日)午前10時から午後3時

V 女性教育学習プログラム（個別事業計画）

(1) 事業名	おとこ塾	
(2) 事業の目的	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭内の男女の役割を見直しながら、生活技術を身につける。 ・地域の仲間づくりを推進する。 	
(3) 実施主体	A市教育委員会 生涯学習課	
(4) 対象者・定員	成人男性30名	
(5) 学習期間・学習時間（回数）	5月～1月	1回の学習時間 120分×9回
(6) 学習場所	公民館、学校、特別養護老人ホーム	
(7) 学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭内の男女の役割を見直し、生活技術を身につける。 ・地域に仲間をつくる。 	

(8) プログラムの展開

回	学習テーマ	学習の内容と方法	学習支援者	備考
1 5月	仲間づくり クッキングから (おんな塾と合同)	開講式（ワークシート） オリエンテーション 自己紹介（レク） グループ編成（5名×6グループ） 実習：チャーハン、スープ作り 試食、講評 片づけ、解散	公民館職員 館長 食改善グループ （3人）	午前10時～ [持参品] 米1人1合 エプロン三角巾 グループ等にネーミング 当番日直、塾長を決める
2 6月	縫い物体験 風呂敷の七不思議	実習：雑巾（手縫い） 講義：風呂敷（使い方、手品、救急法）	女性会員 公民館職員	午前10時～ [持参品] 使い古したオル 風呂敷
3 7月	文明の力のありがたさ	エコバッグの製作 （ミシン、布、糸）	女性会員 教員（家庭科）	午前10時～ [教材費] 実費1千円 学校施設利用
4 8月	映画フォーラム (おんな塾と合同)	映画視聴（ジェンダーに関する映画）30分 ディスカッション45分 懇親会	公民館職員 福祉課職員	午後7時～ [懇親会費] 自己負担2千円
5 9月	食事鑑定団	講義（献立作りについて） グループ毎に実際に献立を作る 食材の調達はグループ毎で行う。	栄養士 保健婦	午前10時～
6 10月	家庭の健康 俺についてこい	調理（前回の献立をベースに）	同上	午前10時～
7 11月	介護にチャレンジ	講義：介護の基礎知識 簡単な実技	特別養護老人ホーム職員 介護福祉士	午前10時～ [会場] 特別養護老人ホーム
8 12月	発表の場	発表：学習内容の発表を「女性フォーラム」の場で行う。 （2公民館）		午後1時～ [会場] 文化会館
9 1月	新たな自分の発見 (おんな塾と合同)	思い起こしと感想（ワークシート） 今後の学習について 閉講式 新年会	公民館職員 館長	午前10時～ [新年会費] 自己負担2千円

第5節 高齢者教育計画

<分析シート1>

〇町高齢者教育計画

1 〇町の概要

(1) 地勢・地域条件等

- ① 〇町は、M県の〇半島頸部にあり、太平洋に面した〇湾を囲むように位置している。
- ② 近海には、世界三大漁場の一つであるK山沖漁場が控えており、沖合漁業、養殖などが盛んである。
- ③ 明治22年〇村となり、大正15年〇町となる。
- ④ 面積は、6,578km²で、人口11,506人（平成17年3月現在）

(2) 地域住民の生活状況の特徴

- ① 65歳以上の高齢者 3,067人
（高齢化率 平成2年14.99%、平成14年26.66%、平成19年(推定)31.90%）
- ② 第1次産業（特に漁業）が主産業である。漁業就業者の内、65歳以上の高齢者が約25%を占めている。
- ③ 全世帯の内、約半数が高齢者がいる世帯である。高齢者の内、約10%が一人暮らしである。
- ④ 漁港を中心に、地域住民の共同作業をする機会が多く、地域的なつながりが保たれている。

(3) 教育・文化的環境

◇ 学校等数

種 別	数
幼稚園(保育所)	1 (5)
小 学 校	5
中 学 校	3
高 等 学 校	1
大 学・短大	0
専 門 学 校	0

◇ 生涯学習関連施設（民間を含む）

種 別	数
生涯教育センター	1
公民館（分館）	1 (2)
勤労青少年センター・自然活動センター	2
敬老施設（白寿荘、寿楽荘、憩いの家）	3
総合運動場（体育館・陸上競技場・野球場 等）	1
地域福祉センター	1

◇ 教育・文化的環境の特徴

- ① 生涯学習関連施設は、町の中心地に集中しており、地域によって差はあるが、社会教育事業・サークル活動等で比較的利用率は高い。
- ② 柔軟性に富んだ創造力・行動力を持った人づくりを目指し各種事業を展開している。
- ③ 地域の歴史に対する関心は高く、特に高齢者の講座等への参加者は多く、学習意欲が高い。

2 高齢者教育の現状と課題 ※区分は事業の目的内容別

区分	施策	現 行 の 事 業		現状の問題点・課題	問題解決・課題達成のための方向性
		社会教育行政	学校・関連行政・民間・団体等		
学びあひ	<ul style="list-style-type: none"> ○高齢者が、家庭や地域社会での役割を理解し、健康で豊かな生活を営むための学習を提供する。 ○互いに助け合う意識を高め、外向的で積極的な生き方を学び、地域社会に貢献する姿勢を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○老壮大学(公民館) ○離島老壮大学(公民館) ○すえひろ学級 <ul style="list-style-type: none"> ・講話 ・清掃奉仕活動 ・研修旅行 ・学芸会(公民館) ○町民パソコン教室(生涯教育センター) ○町民文化祭(生涯学習課) ○文化講演会(生涯学習課) 	<ul style="list-style-type: none"> ○高齢者生きがい講座(社会福祉協議会) ○高齢者及び障害者の趣味の作品展(社会福祉協議会) 	<ul style="list-style-type: none"> ・参加者が固定化し、排他的な状況もみられる。 ・講義形式で参加型学習が少ない。 ・学習者のニーズを把握していない。 ・ステップアップ講座が必要である。 ・講座修了生の自主グループ化がされていない。 ・今後、事業の予算措置が困難になってくる。 ・運営面への参画がない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・老壮大学院の設置を検討する。 ・ニーズを把握するため、プログラム作成段階から学習者が参画する。 ・プログラムの工夫を行う。 ・募集を老人クラブに依頼するだけでなく、他課との連携を深め、幅広く広報できるよう工夫する。 ・移動研修の在り方を見なおす。 ・実行委員を組織化する。
健康	<ul style="list-style-type: none"> ○自らの健康に関心を持ち、健やかで心豊かな生活をするための知識を身に付けさせる。 ○運動・栄養・休養の基本的な生活を再認識し、スポーツや体力づくりを通じ、明るく健康な町民の育成を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○氣功・太極拳教室 ○健康体力づくり町民の集い ○町民大運動会(体育振興課) 	<ul style="list-style-type: none"> ○あそびりテーション(健康福祉課) ○老人スポーツ大会(健康福祉課) ○健康相談(健康福祉課) 	<ul style="list-style-type: none"> ・内容が固定化しており、マンネリ化がみられる。 ・町民の健康に関する情報がまだ少ない。 ・他の課との連携がないまま事業が行われている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・他課との情報交換・連携を行う中で、継続的な健康教育事業を計画する。 ・健康に関する情報紙を配布する。
交流	<ul style="list-style-type: none"> ○高齢者の持つ、豊かな人生経験や優れた知識・技能を地域の中に生かし、声のかけ合えるまちづくりを推進する。 ○世代間交流や学社融合を推進する中で、豊かな人間関係づくりを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ウィークエンドサークルまなびっ子学校週5日制の対応事業。地域のボランティアが講師を務める。 ○うしお活動 中学校の総合的な学習の時間の一環として、地域のボランティアが講師を務める。(生涯学習課) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ふれあい高齢者(一人暮らし)の集い(社会福祉協議会) 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業プログラムの固定化がある。 ・継続的な活動につながらない状況がある。 ・児童生徒と高齢者との取組への温度差がある。 ・その場だけの取組となり、事業の効果が薄い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・既存の事業を見直し、三世代交流事業を実施する。 ・イベントとなりがちな取組を日常化できるように学校と社会教育関係課との話し合いを定期的実施する。 ・児童生徒が高齢者に教えたり、高校生が参画する事業を実施する。 ・コーディネイトを公民館が中心に行っていく。
社会参加	<ul style="list-style-type: none"> ○町民に系統的かつ専門的な学習内容を提供し、地域活動の中心的役割を果たす人材を育成する。 ○郷土に伝わる歴史や文化に誇りを持ち、伝承者としての役割を学び、地域社会の活性化につなげる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○シニアセミナー 地域の歴史を学び歴史ボランティアガイドをめざす。(公民館) ○生涯学習指導者名簿(生涯学習課) ○町民神楽講座(公民館) 		<ul style="list-style-type: none"> ・生涯学習指導者名簿(人材バンク)登録者の活躍の場が無く、積極的な活用が成されていない。 ・伝統芸能の継承者の不足がみられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯学習指導者名簿への登録と啓発を行う。 ・学校に人材バンクコーディネーターを設置する。 ・コーディネーターに対する研修会を実施する。 ・伝統芸能の発表の機会を増やし、参加体験できる場(三世代交流等)を設定する。 ・人材バンク等のアピールの工夫とうしお活動での活用を検討する。

IV 年間事業計画（平成18年度高齢者教育事業計画）

(1) 社会教育目標	1 生涯にわたり、共に学び合い、心豊かな町民になろう。 2 豊かな自然を愛し、「やすらぎとおいしいのある町」にしよう。 3 健康な心と体をつくり、「声かけあえる町」にしよう。
(2) 高齢者教育目標	1 いつまでも、イキイキと、仲間と共に、楽しく学び合おう。 2 愛する郷土、歴史と文化、豊かな自然を、次の世代に伝えよう。 3 楽しく、汗を流し、心身ともに、明るく健康で充実した毎日を送ろう。
(3) 社会教育行政目標	1 生涯学習推進体制の整備・促進と、学習活動の支援に努める。 2 社会教育関連施設の整備・充実に努める。 3 柔軟性に富んだ、創造力・行動力を持った人材の育成に努める。
(4) 高齢者教育行政目標	1 多様な学習機会を提供し、自主的な活動を推進する。 2 世代間交流を推進するとともに、郷土の歴史・文化を継承する人材の育成を図る。 3 健康教育事業の充実を図るとともに、スポーツ活動の拡充を図る。

(5) 高齢者教育年間事業計画表

区分	事業名	事業の目的	事業内容	対象者・定員	実施期間・回数	予算(千円)	備考
学 び あ い	○さくら大学	○健康で生きがいのある豊かな生活を営むための学習や体験を提供する。また、地域の歴史や文化に対する理解を深め、地域社会に貢献する姿勢を養う機会を提供する。	○企画への参画を募集し、高齢者自身による課題の発掘に努める。 ・地域の課題、健康、文化等について、講義、実習、グループ討議等、多様な形態で学習する。	60歳以上 150人	年10回	1,000	原則として3年で卒業健康福祉課町民課、社会福祉協議会○町学校等と連携
	○さくら大学院	○さくら大学卒業後のステップアップとして、地域の特色ある分野の学習を深め、地域のリーダー的な人材を育成する。	○さくら大学卒業生の企画運営の参加により、自主的な運営を進める。 ・おらほの町歴史ガイド科 ・郷土料理おらほの味科 ・町の環境を守ろう科 ・町の語り部になろう科 ・おらほの土で焼物科 ・パソコンの達人になろう科	63歳以上 20人×6クラス	各科 年10回	1,200	健康福祉課町民課、社会福祉協議会○町高校等と連携
	○潮彩フェスティバル	○文化講演会や作品展をとおして地域の芸術・文化活動の活性化・サークル間の交流を図る。	○企画への参画を募集し、実行委員会形式で実施する。 ・作品展 ・伝統芸能発表会 ・○町文化フォーラム	町民	11月上旬	1,500	健康福祉課と連携
健 康	○おらほも元気・おめほも元気塾	○自らの健康について関心を持ち、栄養生活習慣を改善し、健やかな生活を送るための、知識や態度を育成する。	○食生活と健康に関する懇談会（健康相談） ○介護に関する知識の習得と実技の体験 ○レクリエーションとトレーニング	60歳以上 50人	年9回	200	保健福祉課と連携 社会福祉協議会と連携 体育振興課と連携
	○長寿ペナントレース	○運動や遊びを通じ、地域間の交流を深め、楽しみながら健康増進を図る。	・ニュースポーツチーム対抗定期競技会	60歳以上 60人	年5回	250	体育振興課と連携 多目的運動場、体育館の備品整備

区分	事業名	事業の目的	事業内容	対象者・定員	実施期間・回数	予算(千円)	備考
健康	○さくら通信	○高齢者に係わる学習機会や健康・行事等の情報を提供する。	○行政各課の主催する健康に関する講座や行事等の情報を掲載した情報紙を作成、配布する。 ○栄養や運動に関する啓発活動	全戸数配布	月1回	100	印刷配布ボランティア
交流	○ウィークエンドわらしっ子	○学社融合の一環として、地域の中の豊かな人生経験や優れた知識を有する者を講師に活用するとともに、高齢者の活躍の場を創る。	○学校、高齢者との協議によりプログラムを作成し、広く子どもたちに学習の場を提供する。 ・小学生、中学生ごとに実施(書道教室、手芸教室)	小中学生 40人 高齢者 40人	年9回	300	小中学校学校教育課と連携
	○めんこいタイム	○学社融合の一環として、高校生を対象に地域の中の豊かな人生経験や優れた知識を有する者を講師に活用するとともに、高校生、高齢者が互いに学びあうことで、交流を図る。	○高校の授業の中で、学校と高齢者との協議により、プログラムを作成し、互いに教えあう場とする。 ・漬物講習 ・魚の捌き方講習 ・新しい歌の合唱	高齢者 40人 高校生 40人	年3回	100	高校学校教育課と連携
	○わいわい市場	○地域における豊かな人間関係づくりを目指し、異世代交流の推進を図る。	○三世代が一同に会い、各世代が持つ経験・知識等を生かして、異世代との交流事業を行う。 ・昔の遊びコーナー ・孫が先生、パソコン体験コーナー ・ふれあい高齢者コーナー等	高齢者 50人 子ども 50人 町民	年2回	500	健康福祉課と連携
社会参加	○うしおネット	○高齢者のスムーズな社会参加を支援し、円滑な事業推進を図る。	○社会参加の情報提供、人材の発掘、人材バンクの整備を行う。 ○コーディネーターの育成のための組織づくり	高齢者 学校 町民	定例会 年12回 随時	500	学校教育課と連携
	○プラチナ工房	○高齢者のボランティア活動等とおして社会参加を推進する。	○さくら博士院卒業生等により、学校や地域で環境美化を行い、地域に環境の大切さを伝える。	さくら博士院 卒業生を中心とした 高齢者 40人	年24回 随時	100	健康福祉課と連携
	○えびす倶楽部	○高齢者の語り部を育成し、その知識、技能を発揮することで豊かな地域社会の向上を図る。	○さくら博士院卒業生等により、幼児から高齢者まで語りを行う。	さくら博士院 卒業生を中心とした 高齢者 40人	年24回 随時	100	幼稚園、各学校、健康福祉課と連携
	○〇町舞スターズ	○地域の伝統技術の素晴らしさを再発見しその普及と伝承を推進する。	・法印神楽、獅子舞等の伝承を行う。 ・各地での公演 ・小中高校への訪問指導、道具の整備	高齢者 40人 町民	年24回 随時	100	文化振興課と連携

V 高齢者教育学習プログラム（個別事業計画）

(1) 事業名	さくら大学（高齢者学級）	
(2) 事業の目的	1 健康で、生きがいのある豊かな生活を営むための学習や体験を提供する。 2 地域の歴史や文化に対する理解を深め、地域社会に貢献する態度を養う機会を提供する。	
(3) 実施主体	さくら大学運営委員会、生涯学習課	
(4) 対象者・定員	60歳以上の高齢者 150人	
(5) 学習期間・学習時間（回数）	5月～2月	1回の学習時間 2時間×10回
(6) 学習場所	生涯教育センター 他	
(7) 学習目標	1 仲間と共に、学び合う喜びを知り、心身ともに、明るく健康で豊かな日常生活を営むための学習を行う。 2 郷土の歴史と文化に対する理解を深め、豊かな自然を守り育てる態度を身に付ける。	

(8) プログラムの展開

回	学習テーマ	学習の内容と方法	学習支援者	備考
1 (5月)	出会い講座 「わくわく入学式」	○オリエンテーション ○実行委員紹介 ○プログラム内容の説明(運営委員代表) ○講義(交通安全と防犯) ○アトラクション(○町舞スターズ)	・さくら大学運営委員 ・○町交番 ・○町舞スターズ	・生涯教育センター
2 (6月)	趣味講座1 「なつかしっちゃ 唄う っちゃ」	○鑑賞(昔の○町の風景スライドを見ながら朗読を聞く) ○実技(童謡合唱)	・地元コーラスグループ ・えびす俱樂部 ・アコーディオン奏者	・生涯教育センター ・スライド ・懐かしい曲
3 (7月)	健康講座 「散るまで満開、健康講座」	○講義(栄養、生理学、生活習慣等) ○実技(座ってできる軽体操、自分でできる健康チェック)	・町立病院医師・看護師 ・体育振興課 ・体育指導員 ・保健師	・生涯教育センター ・玄米ダンベル ・手ぬぐい
4 (8月)	ボランティア講座1 「おらがまちを自慢しよう!？」	○講義(「自慢できるまちとボランティア活動」) ○グループ討議(「まちづくりをとおして○町を見なおそう」)	・プラチナ工房 ・町民課 ・地元NPO	・生涯教育センター ・10グループ
5 (9月)	ボランティア講座2 「きらきらいキイキ ○町ちょボラ隊」	○実技(グループごとのボランティア体験) ・海岸、鳴り砂清掃 ・花いっぱい運動 ・老人ホーム、学校清掃	・プラチナ工房 ・町民課 ・地元NPO ・老人ホーム、各学校	・現地集合、一部バス送迎 ・10グループ ・プラチナ工房との事前打ち合わせ
6 (10月)	若者講座 「知って得する若者くん」	○パネルディスカッション(「うまくいくの!?三世代」高校生vsおやじ世代vsさくら大学生) ○講義(「三世代、うまくいくんです〜う!」) (I大学教授)	・高校 ・実業団(40～50代) ・I大学	・生涯教育センター ・コーディネーター、パネリスト等との打ち合わせ
7 (11月)	交流・スポーツ講座 「孫になんか負けないぞ!」	○実技 ・ニュースポーツ(ペタンク、グランドゴルフ等) ・昔遊び(独楽回し、竹馬、お手玉等) ・フォークダンス	・体育指導員 ・小学校 ・保健師	・小学校 ・10グループ ・健康チェックコーナー
8 (12月)	趣味講座2 「腕自慢集まれ」	○実技 ・手芸、陶芸、パソコン、料理、書道、絵画、彫刻等	・さくら大学博士院 ・サークル活動者 ・食生活改善員 ・一般企業	・生涯教育センター ・グループ(自由選択)

回	学習テーマ	学習の内容と方法	学習支援者	備考
(1月)	趣味講座 「腕自慢集まれ」	○実技 ・手芸、陶芸、パソコン、料理、書道、 絵画、彫刻等	・さくら大学博士院 ・サークル活動者 ・食生活改善員 ・一般企業	・生涯教育センター ・グループ 自由選択
10 (2月)	ふりかえり講座 「キャリアアップ 終業式」	○グループ討議「さくら大学を振り返って」 ・自己評価 ・学んだことを今後どう生かすか。 ○修了証・皆勤賞授与 ○オリエンテーション ・さくら大学博士院入学説明 ・実行委員応募について ○講話 さくら大学学長	・さくら大学運営委員 ・保健師	・生涯教育センター ・作品・活動風景展示「見て見ておらほの力作を」 ・健康チェックコーナー

※ 前年度に、企画への参画を募集して運営委員会を組織し、 者自身による課題の発掘に努める。

※ 人間関係が偏らないように、第 回講座よりグループ編成を配慮する。

※ さくら大学博士院への入学は、さくら大学修了生を原則とする。

第6節 生涯スポーツ振興計画

<分析シート1>

T市生涯スポーツ振興計画

1 T市の概要

(1) 地勢・地域条件等

- ① 本市は、G県の中西部に位置し、日本列島のほぼ中心にある。平成18年1月にK村、M町、G町、S町と合併し、総人口は県内最大となる。
- ② 古くから交通の要衝として発展した商都である。現在は新幹線2路線、JR在来線5路線、私鉄1路線、高速自動車道2路線、そして、国道4路線が集中する全国有数の内陸交通の拠点性を有している。東京へ約100km新幹線で約50分という位置にある。
- ③ 人口は、平成18年3月1日現在321,702人（男158,819人、女162,883人）、世帯数127,789世帯である。

(2) 地域住民の生活状況の特徴

- ① 平成17年現在の就業人口は、新市で155,982人である。内訳は、第1次産業（農業、林業等）が3.3%、第2次産業（建設業、製造業等）が30.7%、第3次産業（運輸業、小売業、金融業、サービス業等）が65.5%となっている。
- ② 地域別の特徴としては、K地域では他の地域に比べ第1次産業の比率が高く、その他の地域では第3次産業の比率が高くなっている。
- ③ 推移を見ると、第1次、第2次産業では近年の農工業離れの影響による従事者数の低下が見られる。その一方で第3次産業は、職種の多様化や第1次、第2次産業からの移行等により、増加の傾向にある。就業人口全体では、昨今の経済情勢の影響を受け、平成7年から減少している。

(3) 教育・文化的環境

◇ 学校等数

種 別	数
幼稚園(保育所)	25(公立)56(私立)
小 学 校	45
中 学 校	21
高 等 学 校	12(公立)4(私立)
大学・短大	6(大学)5(短大)
専 門 学 校	4

◇ 生涯学習関連施設（民間を含む）

種 別	数	種 別	数
体 育 館	9	弓 道 場	1
野 球 場	5	図 書 館	4
プ ー ル	7	公 民 館	42
テニスコート	4	社会教育施設	4
多目的運動場・広場	18	資 料 館	2
競 技 場	1	交流館(体育館等の複合施設)	14
相 撲 場	1		

◇ 教育・文化的環境の特徴

- ① 生涯スポーツの振興を図るため、体育施設の充実と保守・管理及び整備に努めている。
- ② スポーツ指導者の養成や資質向上を図り、指導体制の充実に努めている。
- ③ 市民の多様なニーズに応える為、市教育委員会スポーツ課の主催するスポーツ教室の充実に努めている。
- ④ 子どもフェスティバルへの支援や多様な活動情報の提供によって、子ども達の学校外活動や体験活動への参加を促進している。

2 生涯スポーツ振興の現状と課題

区分	施策	現 行 の 事 業		現状の問題点・課題	問題解決・課題達成のための方向性
		社会教育行政	学校・関連行政・民間・団体等		
市民健康スポーツ	<ul style="list-style-type: none"> 生涯スポーツの普及と推進 市民参加型のスポーツ・レクリエーション大会の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 各種健康スポーツ教室の開催（スポーツ課・公民館・その他） 市民健康マラソン 市民体育祭 	<ul style="list-style-type: none"> 学校施設の開放 	<ul style="list-style-type: none"> ①余暇時間の増大やライフスタイルの変化への対応ができていない。 ②体力が低下している。 ③学童期児童の運動機会が減少している。 ④子どもの食事・睡眠・休養など生活習慣が乱れている。 ⑤スポーツ・レクリエーション活動への参加者が少ない。 ⑥参加者に偏りがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ①学習者のニーズにあった事業を企画する。 ②継続的な事業を展開する。 ②③放課後の学童保育における遊び・スポーツの機会を増やす。 ④保護者向けの学習機会を提供する。 ⑤広報活動を充実させる。 ⑤⑥誰もが参加できる運動機会を増やす。
競技スポーツ	<ul style="list-style-type: none"> 指導体制の強化と充実による競技スポーツの普及 スポーツイベントの誘致・開催 	<ul style="list-style-type: none"> 各種スポーツ教室の開催 指導力向上のための研修会 市民体育大会 国際大会・全国大会の誘致 	<ul style="list-style-type: none"> 各種競技大会開催 学校施設の開放 プロ野球イースタンリーグ開催 	<ul style="list-style-type: none"> ①競技者の発育発達に応じた適切なプログラムの構築がされていない。 ②競技人口が減少している。 ③チーム編成が困難な状況にある。 ④指導者が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ①④競技力向上のため指導プログラムのシステム化を図る。 ②③運動離れを食い止めるために学童期における多様なスポーツ普及活動を充実させる。 ③学校・各競技団体間の連携を図る。 ④指導者を育成する。
施設の整備充実	<ul style="list-style-type: none"> 体育施設の整備・充実 開かれた生涯スポーツ施設の開設 	<ul style="list-style-type: none"> 東南部運動公園（仮称）整備事業 城南野球場整備事業 		<ul style="list-style-type: none"> ①市の北西部に体育施設が偏っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ①東南部に総合運動公園の整備をする。 ①学校施設を開放する。
総合型地域スポーツクラブ	<ul style="list-style-type: none"> 総合型地域スポーツクラブ設立のための基盤整備 		<ul style="list-style-type: none"> S町にある総合型地域スポーツクラブ サッカー バレーボール バスケットボール（小・中・高校生） 	<ul style="list-style-type: none"> ①総合型地域スポーツクラブに対する理解が不足している。 ②社会教育、学校教育との連携ができていない。 ③指導者・リーダーが不足している。 	<ul style="list-style-type: none"> ①②総合型地域スポーツクラブに関する住民・学校への理解を図る。 ③クラブマネージャー養成講習会を開催する。 ③指導者・リーダーの資格取得支援をする。

IV 年間事業計画（平成18年度生涯スポーツ振興事業計画）

(1) 社会教育目標	誰もがともに学び、生きがいを見出すことのできる生涯学習社会を目指そう。
(2) 生涯スポーツ振興目標	いきいきとしたスポーツライフを目指そう。
(3) 社会教育行政目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ともに学ぶ学習を推進する。 ・幅広い交流活動を推進する。 ・市民の学習活動を支援する。
(4) 生涯スポーツ振興行政目標	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯スポーツを普及・推進する。 ・市民参加型のスポーツ・レクリエーション大会を実施することにより、住民相互の親睦を図る。 ・指導体制の強化と充実を図り、競技スポーツの普及に努める。 ・競技人口を増やすために、スポーツイベントを誘致し、開催する。 ・総合型地域スポーツクラブ設立のための基盤整備を行う。

(5) 生涯スポーツ振興年間事業計画表

区分	事業名	事業の目的	事業内容	対象者・定員	実施期間・回数	予算(千円)	備考
市民健康スポーツ	・各種健康スポーツ教室の開催 (継続)	・市民の自主的参加によって様々なスポーツを体験し、スポーツの楽しさを体験する機会を提供する。	・陸上競技、フェンシング、体操、水泳、ソフトテニス、スキーなど(22種目)を実施する。	在勤在学在住者 各講座 30名	22講座 年450回	220	・体協と各競技団体との連携を図る。
	・市民健康マラソン (継続)	・マラソンを通して、市民の健康増進を図るとともに、親睦を深める場とする。	・親子(2km)、3km、5km、10kmの部門ごとにマラソンを行う。	在勤在学在住者 1,500名	年1回 (11月)	2,000	・体協と各競技団体・ボランティアとの連携を図る。 ・救急体制には十分に配慮する。
	・市民体育祭 (継続)	・スポーツを通して、住民相互の親睦を図るとともに体力の増進を図る。	・各地区ごとに大会を行い、市民スポーツフェスティバルに代表チームが出場する。 ・綱引き、フライングディスクゴルフ、ターゲットパードゴルフ、グラウンドゴルフ、スマイルボウリングの5種目を行う。	市民	年1回 (10月)	3,000	・体育指導員との連携を図る。
	・学校施設の開放 (継続)	・学校体育施設を開放することで市民にスポーツの場を提供する。	・市内全小中学校の体育施設を無料開放する。	市民	通年	0	・学校との連携を図る。
	・いきいきエクササイズ (新規)	・高齢者を対象に健康づくり・体力づくり・生きがいづくりを目指す。 ・年齢の近い仲間と交流の場とする。	・いきいき体操、ウォーキング、ハイキング、その他ニユースポーツなどを実施する。 ・健康に関する講義を行う。	61歳以上 40名	年10回	500	・体育指導員・体協各競技団体と連携を図る。 ・医師、看護師、学校との連携を図る。

区分	事業名	事業の目的	事業内容	対象者・定員	実施期間・回数	予算(千円)	備考
市民健康スポーツ	・集まれわんぱくキッズ(新規)	・様々な遊び、スポーツを体験させることで、体を動かすことの楽しさを体験させる。	・体育指導員や各競技団体指導者を学童保育に派遣する。	小学生	通年	4,000	・体育指導員や各競技団体指導者との連携を図る。
	・子育てわくわくクラブ(新規)	・親子で楽しめる軽スポーツを紹介し、運動不足解消と、仲間との交流を深める。	・軽スポーツ・ゲームを通じた交流や子育てに関する講座を行う。	未就学児保護者 30組	年6回	100	・児童福祉課などとの連携を図る。
競技	・各種スポーツ教室の開催(継続)	・競技選手を目指して各種目の基礎練習と基礎体力・技能の向上を図る。	・陸上競技、水泳、柔道を実施する。	小学生 各講座 30名	3講座 年48回	300	・体協と各競技団体との連携を図る。
	・指導力向上のための研修会(新規)	・組織的に指導者を育成し、資質向上を図る。	・トレーニングとリハビリについての講習会を開催する。 ・選手の健康安全管理についての講習会を開催する。	各競技団体指導者	年2回	80	・体協と各競技団体、大学との連携を図る。
	・市民体育大会(各種競技大会開催)(継続)	・競技大会を開催し、競技力を高める。 ・他団体との交流を図る。	・各競技ごとに競技大会を開催する。	在勤在学在住者	各競技 年1回	600	・体協と各競技団体との連携を図る。
	・学校施設の開放(継続)	・学校体育施設を開放することで市民にスポーツの場を提供する。	・市内全小中学校の体育施設を無料開放する。	市民	通年	0	・学校との連携を図る。
	・国際大会・全国大会の誘致・開催(継続)	・多くの市民に高度なプレーを観戦する機会を提供し、競技人口の拡大、競技力の向上を図る。	・国際女子ソフトボール大会・全日本実業団ソフトボール選手権大会・Vリーグ大会等を誘致・開催する。	一般	各年1回	3,000	・体協と各競技団体との連携を図る。
	・プロ野球イースタンリーグ開催(継続)	・多くの市民にプロ野球の醍醐味を観戦する機会を提供し、競技人口の拡大、競技力の向上を図る。	・プロ野球イースタンリーグ公式戦を開催する。	一般	年1回	6,000	・体協と各競技団体との連携を図る。
総合型地域スポーツクラブ	・アンケート調査(新規)	・市民の現状を把握し、ニーズを確認する。	・市民にアンケート調査を実施する。	市民	年1回	5	・ホームページを活用する。
	・総合型地域スポーツクラブの広報・啓発活動(新規)	・総合型地域スポーツクラブの理解を図る。	・総合型地域スポーツクラブを理解するための情報を提供する。	市民	年10回	10	・ホームページ、広報誌を活用する。
	・総合型地域スポーツクラブ設立準備委員会の立ち上げ(新規)	・総合型地域スポーツクラブの必要性について、理解を深めるとともに課題を明確にする。	・総合型地域スポーツクラブ設立準備委員会を開催する。 ・情報交換・意見交換を行い、課題解決を図る。	スポーツ関係団体指導者 30名	年10回	10	・体協と各競技団体との連携を図る。

V 生涯スポーツ振興学習プログラム（個別事業計画）

(1) 事業名	いきいきエクササイズ		
(2) 事業の目的	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者を対象に健康づくり・体力づくり・生きがいづくりを目指す。 ・年齢の近い仲間との交流を深める。 		
(3) 実施主体	T市教育委員会スポーツ課		
(4) 対象者・定員	61歳以上・40名		
(5) 学習期間・学習時間（回数）	5月～11月	1回の学習時間	2時間×9回 4時間×1回
(6) 学習場所	T市H総合運動公園他		
(7) 学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・自分自身の体力にあわせた無理のない運動を心がけ、体力の維持増進を図る。 ・運動を通して、日常的な運動習慣を習得する。 ・運動をしながら、仲間と交流し、社会へ積極的に参加する。 		

(8) プログラムの展開

回	学習テーマ	学習の内容と方法	学習支援者	備考
第1回 5月	みんなで楽しく健康作り	<ul style="list-style-type: none"> ○開講式・オリエンテーションをする。 ○講義：「健康と運動」 ○健康診断をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・問診・身体測定・血圧測定・尿検査・視力・聴力 ○アイスブレイキングをする。 	社会教育主事 大学教授など 医師、看護師 体育指導員	<ul style="list-style-type: none"> ・事業全体のねらいと展開についての周知を行う。 ・学習者の健康について配慮し、自己管理に努めるように指導する。 【会場】 第1会議室 【教材・教具】 測定機器・音響機器
第2回 5月	いきいき生活始めよう	<ul style="list-style-type: none"> ○講義：「ストレッチと体操・ウォーキングの効果」 ○ウォーキング・いきいきストレッチをする。 ○体力測定を行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・握力・長座体前屈・上体起こし・閉眼片足立ち・6分間歩行 	大学教授など 体育指導員	【会場】 第1会議室・体育館 【教材・教具】 測定機器・音響機器
第3回 6月	ナイスバーディー！？ ～ニュースポーツに チャレンジ1～	<ul style="list-style-type: none"> ○ウォーキング・いきいきストレッチをする。 ○グラウンドゴルフのルールを学び、各自の力にあわせて楽しくプレーする。 	社会教育主事 体育指導員 グラウンドゴルフ協会	【会場】 グラウンド (雨天時)体育館 【教材・教具】 グラウンドゴルフセット 音響機器
第4回 6月	子どもと遊ぼう	<ul style="list-style-type: none"> ○ウォーキング・いきいきストレッチをする。 ○グラウンドゴルフを指導するとともに、子どもと一緒に楽しむ。 	学童保育士 社会教育主事 体育指導員	【会場】 学童保育（市内小学校）校庭（雨天時）体育館 【教材・教具】 グラウンドゴルフセット
第5回 9月	これからの「食」	<ul style="list-style-type: none"> ○ウォーキング・いきいきストレッチをする。 ○講義：「スポーツと食事」 ～カルシウムの上手な取り方～ ○実習：「骨太クッキング」として、調理実習をする。 	社会教育主事 体育指導員 栄養士	【会場】 中央公民館調理室 【教材・教具】 食材・音響機器

回	学習テーマ	学習の内容と方法	学習支援者	備考
第6回 9月	エースをねらえ ～ニュースポーツに チャレンジ2～	○ウォーキング・いきいきストレッチ をする。 ○ミニテニスのルールを学び、各自の 力にあわせて楽しくプレーする。	社会教育主事 体育指導員 ミニテニス協会	【会場】 体育館 【教材・教具】 ミニテニスセット 音響機器
第7回 10月	しゃるういーダンス	○ウォーキング・いきいきストレッチ をする。 ○さわやかダンスをする。 簡単ステップで、歌謡曲・ポップス ・演歌など、色々な曲で楽しく踊る。	社会教育主事 体育指導員 さわやかダンス 協会	【会場】 体育館 【教材・教具】 音響機器
第8回 10月	すいすいアクアプログラム	○いきいきストレッチをする。 ○水中エクササイズをする。 水中エクササイズ（ウォーキング、 エアロビクス、スイム）で体に無理 なく持久力をつける。	社会教育主事 体育指導員 スポーツクラブ インストラクタ ー	【会場】 温水プール 【教材・教具】 アクアグローブ、ビート板 など・音響機器
第9回 11月	K山いきいきチャレンジウ ォーク	○いきいきストレッチをする。 ○K山ハイキング 自然とふれあいながら、仲間と共に 歩き、達成感を味わう。	社会教育主事 体育指導員	【会場】 K山ハイキングコース (4時間)
第10回 11月	みんなで語ろう	○ウォーキング・いきいきストレッチ をする。 ○健康診断をする。 ・問診・身体測定・血圧測定・尿検 査・視力・聴力 ○振り返り・各自の発表をする。 ワークシートに振り返りを記入し、 発表する。 ○閉講式をする。	社会教育主事 体育指導員 医師、看護師	【会場】 第1会議室 【教材・教具】 測定機器・音響機器 振り返りワークシート

第7節 環境教育計画

＜分析シート1＞

MD市環境教育計画

1 MD市の概要

(1) 地勢・地域条件等

- ① C県の北西部、都心より20km圏に位置し、首都圏の典型的な住宅都市として発展してきた。
- ② JR線が市の市街西部をほぼ南北に走り、これを境にE川に至る低地とS台地の一部に属する起伏の多い台地とに分割されている。
- ③ 人口は現在約47万人である。近年は、地域の大規模開発もなく、人口流入も抑制されつつある。

(2) 地域住民の生活状況の特徴

- ① MD市は市域の約72%が市街化され、多くが住宅地として利用されている。そのため、緑地とオープンスペースが少ない。
- ② 家庭内のゴミ分別や節電に対する住民の意識が高い反面、ゴミのポイ捨てなどモラルの低下が見られる。
- ③ 市民生活に直接係わりのあるごみ処理施設の整備を中心とした生活環境整備と清掃事業が推進されてきた。

(3) 教育・文化的環境

◇ 学校等数

種 別	数
幼稚園(保育所)	40 (49)
小 学 校	47
中 学 校	21
高 等 学 校	10
大 学 ・ 短 大	4
専 門 学 校	18

◇ 生涯学習関連施設（民間を含む）

種 別	数
公 民 館（分館を含む）	20
青少年会館	2
図 書 館（分館を含む）	20
市民会館・ホール・劇場	3
博物館・歴史館	2
スポーツ施設	19

◇ 教育・文化的環境の特徴

- ① 市内に20の公民館と3の市民会館等を整備し、地域のコミュニティー活動の拠点として生涯学習を振興している。
- ② 環境教育については、主に環境計画課及び学校教育課を中心に推進している。
- ③ 市民がゆとりや生きがいを実感できるように、市民の文化活動への参加を積極的にすすめるとともに、優れた文化・芸術に気軽に親しめる機会を提供するなど、文化ホールや市民会館を活用した文化活動のための環境を整えている。
- ④ 人権尊重都市宣言を行い、一人一人の人権が尊重される社会を目指して、積極的に取り組んでいる。

2 環境教育の現状と課題

区分	施策	現行の事業		現状の問題点・課題	問題解決・課題達成のための方向性
		社会教育行政	学校・関連行政・民間・団体等		
家庭	<ul style="list-style-type: none"> ・エコロジーに対する消費者の意識の向上を図る。 ・生活排水やゴミの減量化・資源化を推進する中で、環境意識の向上を図る。 ・住民に緑を育てる心を養う。 	<p>身近なことから始めてみませんか(講座)(社会教育課)</p> <p>エコロジー講座 身近な地球温暖化防止対策講座(公民館)</p> <p>緑のまちづくりに向けて(講座)(公民館)</p>	<p>ゴミ減量啓発・促進事業(環境計画課)</p> <p>花いっぱい運動(みどりと花の課)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・一般に周知されておらず、一部の参加者にとどまっている。 ・家庭から出るゴミの分別化はできているが、地域における実践に繋がっていない。 ・参加者だけの楽しみに終わり、市全体への広がりが見られない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所等からの協力を得る。 ・インターネット等を使って情報を発信する。 ・NPOや関係機関との連携の中で、市全体として取り組む。 ・花作り講座の開設 ・住民参加コンクールの創設
地域	<ul style="list-style-type: none"> ・散乱ゴミを出さない住民の意識づくりを行う。 ・地域ゾーンの特色にあわせた緑化を推進する。 ・豊かな自然が残る魅力ある河川の保全の大切さを啓発する。 ・トンボや蛙などが生息する水辺環境を創造する。 ・安全で快適な地域づくりを目指す住民の意識を高めさせる。 	<p>貝塚を考える(教室)(社会教育課) 環境情報の提供(広報・冊子・ネット)講演会・観察会の開催(社会教育課) 地域生態学入門(講座)(社会教育課) 市内巨樹古木ツアー(教室)(社会教育課) 竹炭づくり(教室)(社会教育課) リーダーキャンプ(公民館)</p> <p>水生生物による河川調査(調査) 自然環境講座(公民館)</p>	<p>E川クリーン作戦(環境計画課) 水辺環境整備(環境計画課)</p> <p>環境ボランティア活動への参加(環境保全課)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学習者に必要な情報が手に入りにくい。 ・単発的事業であるので、一過性であることが多い。 ・参加者の目的意識がそれぞれ違うことが多く、参加者が限られている。 ・調査活動に終わることが多く、次の活動に発展することが少ない。 ・首長部局との連携体制がない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・HPのコンテンツの内容充実を図る。 ・学習者のニーズに合った情報提供をする。 ・博物館等と連携した総合的講座の企画 ・広報の充実 ・ボランティアリーダーの養成 ・調査結果の2次、3次的利用の促進 例) ホームページの作成 データを生かした講座の開設等
学校	<ul style="list-style-type: none"> ・自然に対して豊かな感性や周囲の環境を保全しようとする態度を育てる。 ・環境問題や環境に対する人間の責任や使命について理解を深める。 ・環境問題を解決するための技能を身につけ、自分でできることを実行したり、情報を発信したりする。 		<p>林間学校(学校教育)環境チェックノート(環境計画課) 小中学校合同S川調査(学校教育課) 「わたしたちの環境」 ・「身近な自然」冊子配布(学校教育課) ・子どもエコクラブ育成事業(環境省)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学習スタート時でのつまづきから継続が難しい。 ・子ども達の主体的活動のため、時間がかかる。 ・現状と内容の食い違いがある。 ・エコクラブサポーターの不足 ・学社連携・融合による取り組みが不十分である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・チェックノートの柔軟な活用方法を周知する。 ・継続調査を行う。また、調査対象河川を拡大する。 ・現状に合わせた内容に改訂する。 ・サポーター養成講座の開設 ・ビオトープづくりを通して、水辺環境の保全のための実践力を身につけさせる。 ・NPOや民間等関係団体との連携を図る。
企業・団体	<ul style="list-style-type: none"> ・既存エネルギーの見直しを行い、環境意識の向上を図る。 ・エコエネルギーやリサイクルの利用を促進する。 ・地域環境づくりへの積極的参画を促す。 		<p>エコオフィス行動プラン(環境計画課)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・企業毎の取り組みが把握されていない。 ・企業が地域と結びついた学習機会がない。 ・企業との連絡協議会等の連絡機関が設置されていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・企業の取り組みを調査し、把握する。 ・企業等のリーダーのエコマインド養成講座を充実させる。 ・公民館等と共催して学習機会を提供する。 ・PR館を活用した事業を行う。

IV 年間事業計画（平成18年度環境教育事業計画）

(1) 社会教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ・学ぶ習慣を身につけた市民を目指そう。 ・自ら問題を見つけ、解決する力を身につけた市民を目指そう。
(2) 環境教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ・自然を理解し、自らの役割のなかで環境と調和した生活を築こう。 ・自然を大切にし、その出会いを喜びと感じる豊かな心を育てよう。 ・身の回りの環境を振り返り、よりよい環境づくりに努めよう。 ・「地球市民」として、環境問題に積極的に取り組もう。
(3) 社会教育行政目標	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯にわたる学習活動を推進する。 ・家庭・地域の教育力回復の施策を推進する。 ・学習機会・場、情報提供の充実を図る。 ・地域文化の保護・継承・創造に向けた支援を行う。 ・人権意識の高揚を図る。
(4) 環境教育行政目標	<ul style="list-style-type: none"> ・環境政策への住民参画体制を整備する。 ・環境を配慮した生活や事業活動の実践を促進する。 ・環境ボランティア育成に努める。 ・独自の取組を実践するための地域活力を増進する。 ・庁内各部門の環境政策への参画と環境実績を確保する。 ・環境推進体制の整備と評価システムづくりに努める。

(5) 環境教育年間事業計画表

区分	事業名	事業の目的	事業内容	対象者・定員	実施期間・回数	予算(千円)	備考
総合	3つのRでゴミを減らそう	ゴミ減量、資源化に関する広報活動を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ポスター、パンフレットの作成、配布 ・マスコミ等を使った広報活動 	市民一般	年間	1,000	環境計画課 社会教育課 共催
	環境・リサイクルフェスティバル	地球環境保護の視点に立ち、循環型社会の構築を目指して、その啓発・推進を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・エコ商品づくり体験 ・環境エコカーの試乗会 ・おもちゃの病院 ・記念講演会 ・環境エネルギー展 ・MD市の自然写真展 	市民一般	年1回 2月	5,000	首長部局 各関連部局
	花いっぱい運動	花いっぱい運動を通して、環境美化への意識の高揚を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・苗、土づくり講座 ・ガーデニング教室 ・花いっぱいコンクール 	市民一般	年間	2,000	社会教育課 みどりと花の課 共催 コンクール：6月開催
市民大散歩会	MD市の環境に触れ、自然に親しむ心を養う。	<ul style="list-style-type: none"> ・市民大散歩会 	市民一般	9月	500	環境計画課 健康福祉課 共催	
成人	「これがわたしのおすすめびゅ～」をつくろう！	環境学習やマップづくりを通して、環境保全や改善への関心を高め、実践力の向上を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・現地調査 ・マップ作成 ・ウォークラリー ・ワークショップ ※事業終了後市民大散歩会に向けての準備（環境マップを使って）	成人 50人	5～8月 全10回 2～3h	300	環境計画課 河川清流課 社会教育課 共催 各環境施設

区分	事業名	事業の目的	事業内容	対象者・定員	実施期間・回数	予算(千円)	備考
成人	エコエコ・ママ&パパ (地域のママとパパです)	エコロジーに係わる講座を通して、環境保全への意識の高揚と実践力を養う。	<ul style="list-style-type: none"> ・エコ商品の紹介 ・エコッキング教室 ・リサイクル商品の開発 	成人 40人 男女性各20人	2ヶ月 5回 2h	50	社会教育課 消費者友の会共催
	あなたの姿が手本です	環境問題解決のためのリーダーを養成する。	<ul style="list-style-type: none"> ・環境全般に関する講話 ・ワークショップ ・ボランティア活動の実践 	成人 20人	2ヶ月 5回 2h	50	社会教育課 子育てNPO
	大人のためのビオトープづくり	自然と共生した生活を目指し、地域の環境に配慮した態度を養う。	<ul style="list-style-type: none"> ・ビオトープづくり ・観察(動植物の環境変化) ・手入れ 	成人	年間	500	環境計画課 社会教育課共催
	ゴミはどこへ?	ゴミ処理の方法の実体を知り、環境問題への関心を高くさせる。	<ul style="list-style-type: none"> ・ゴミ処理について学ぶ(昔と今) ・焼却場、処分場見学 	成人 50人	2ヶ月 4回	50	環境計画課 社会教育課共催
青少年	MDクリーンアップキャンペーン	新しく施行された「安全で快適なまちづくり条例」の普及を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア募集 ・ノーポイ運動 ・街頭キャンペーン 	成人50人 (ボランティア)	4月1日～ 4月7日	130	環境計画課 社会教育課共催 各関連部局
	チャレンジ・マイ・リヴァーinMID市	野外活動を通して、自然に親しみ、河川の浄化と愛護に努める心を育てる。	<ul style="list-style-type: none"> ・動植物についての学習 ・河川流域環境調査 ・探検ツアー 	小中学生 40人	3ヶ月 7回 2h	100	河川清流課 社会教育課 学校共催
企業・団体	かんきょうをチェックするノート	よりよい環境づくりをしようとする態度を育てる。	<ul style="list-style-type: none"> ・チェックノート配布 ・生活環境の自己評価 	市内小学5年生	年1回配布	60	学校教育課 環境計画課共催
	企業環境奨励制度	企業・団体の環境への取り組みに対する奨励制度の整備を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・奨励制度の創設 	企業・団体	年間	500	環境計画課 商工観光課 社会教育課共催
	エコ・マイインド講座	環境について幅広い視野を持ち、環境学習についてのリーダーを養成する。	<ul style="list-style-type: none"> ・地球環境・環境保全活動についての学習 ・自然観察・水質調査等の体験活動 ・プログラム作成・体験 	地域、企業・団体のリーダー 30人	年8回 5～2月 2h	100	民間事業者 環境計画課 社会教育課共催

V 環境教育学習プログラム（個別事業計画）

(1) 事業名	「これがわたしのおすすめびゅ～」をつくろう！	
(2) 事業の目的	環境学習やマップづくりを通して、環境保全や改善への関心を高め、実践力の向上を図る。	
(3) 実施主体	環境計画課、河川清流課、社会教育課共催	
(4) 対象者・定員	成人・50人	
(5) 学習期間・学習時間（回数）	5月～8月	1回の学習時間 2～3時間×10回
(6) 学習場所	博物館、図書館、MD市内各所（公民館・分館含む）	
(7) 学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・環境学習やマップづくりを通して、環境保全や改善への関心を持つ。 ・環境改善の実践を身につけよう。 	

(8) プログラムの展開

回	学習テーマ	学習の内容と方法	学習支援者	備考
1	MDの自然Ⅰ いまとむかし	<ul style="list-style-type: none"> ・開講式（オリエンテーション） ・アイスペーキング（グループ分けを行う） ・講座（MD市の50年前と今の自然環境全般） ・ふりかえり（感想発表、環境チェック） 	環境計画課職員 社会教育主事 博物館職員	博物館 視聴覚機器等 環境チェックカード （1～5回使用） 2 h
2	MDの自然Ⅱ 野鳥ウォッチング	<ul style="list-style-type: none"> ・講座（MD市の野鳥を中心に） ・ふりかえり（感想発表、環境チェック） 	MD野鳥の会会長 社会教育主事	博物館 視聴覚機器等 2 h
3	MDの自然Ⅲ 身近な草木を見に行こうよ	<ul style="list-style-type: none"> ・講座（MD市の植物を中心に） ・ふりかえり（感想発表、環境チェック） 	C大学園芸学部教授 社会教育主事	博物館 視聴覚機器等 2 h
4	MDの自然Ⅳ だれがわたしをくるしめるの？	<ul style="list-style-type: none"> ・講座&参加体験型学習（MD市の生活公害について：水質、騒音、大気汚染etc） （参加体験型学習は水質について行う） ・ふりかえり（感想発表、環境チェック） 	C県環境研究センター職員、 環境ボランティア 社会教育主事	博物館 視聴覚機器等 水槽等実験セット 2 h
5	22世紀の森と広場でミニミニマップをつくろう！	<ul style="list-style-type: none"> ・フィールドワーク（現地にて） ・模擬マップ作成（現地にて） ・ふりかえり（感想発表、環境チェック） 	環境計画課職員、 河川清流課職員、 森と広場ボランティア、 生き物調査調査員	22世紀の森と広場 デジカメ 3 h
6	おすすめマップづくりⅠ 環境びゅ～ポイントを決めよう！	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ協議 （希望により3～6のエリアに分かれ調査を行う場所、内容、手順、方法等を決定する） 	環境計画課職員、 社会教育主事	博物館 参考資料「生きもの調査報告書」 3 h
7	おすすめマップづくりⅡ びゅ～ポイントの蟻ん子隊調査	<ul style="list-style-type: none"> ・フィールドワーク（グループ毎に現地にて） ・現地調査 	環境計画課職員、 河川清流課職員、 環境ボランティア、 町内会長	MD市内各所 デジカメ、MD市マップ 3 h
8	おすすめマップづくりⅢ バードびゅ～	<ul style="list-style-type: none"> ・フィールドワーク（グループ毎に現地にて） ・調査のまとめ 	環境計画課職員、 河川清流課職員、 環境ボランティア、 町内会長	MD市内各所 デジカメ、MD市マップ 3 h
9	おすすめマップづくりⅣ ビストロびゅ～	<ul style="list-style-type: none"> ・マップ作成 （地図、コメント、写真を工夫しながら作成する） 	環境計画課職員、 環境ボランティア	図書館 3 h
10	これがわたしのおすすめびゅ～	<ul style="list-style-type: none"> ・発表会（マップ） ・ワークショップ （環境チェックカードをもとにして～環境に対する気づき～） ・閉講式 	環境計画課職員、 社会教育主事 他講座等学習支援者	博物館 環境チェックカード 視聴覚機器 3 h

※ 事業終了後市民大散歩会に向けての準備（環境マップを使って）

VI 学習展開計画（展開プログラム）

(1) 事業名	「これがわたしのおすすめびゅ～」をつくろう！	第4回（6月4日 金曜日）
(2) 学習テーマ	MDの自然Ⅳ ～だれがわたしをくるしめるの？～	
(3) 学習目標	身近な環境問題について関心を持つとともに、自分の生活が環境にどうかかわっているかを理解する。	

<p>(4) 準備するもの（チェックリスト）</p> <table style="width: 100%;"> <tr> <td><input type="checkbox"/> 色つきシール</td> <td><input type="checkbox"/> 水槽等実験セット</td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/> 旗</td> <td><input type="checkbox"/> アンケート用紙</td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/> レジュメ</td> <td><input type="checkbox"/>マジック</td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/> プロジェクター</td> <td><input type="checkbox"/> 新聞紙</td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/> パソコン</td> <td><input type="checkbox"/></td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/> 模造紙</td> <td><input type="checkbox"/></td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/> 付箋紙</td> <td><input type="checkbox"/></td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/> はさみ</td> <td><input type="checkbox"/></td> </tr> </table>	<input type="checkbox"/> 色つきシール	<input type="checkbox"/> 水槽等実験セット	<input type="checkbox"/> 旗	<input type="checkbox"/> アンケート用紙	<input type="checkbox"/> レジュメ	<input type="checkbox"/> マジック	<input type="checkbox"/> プロジェクター	<input type="checkbox"/> 新聞紙	<input type="checkbox"/> パソコン	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> 模造紙	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> 付箋紙	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> はさみ	<input type="checkbox"/>	<p>(5) 会場図</p> <div style="text-align: center;"> <input type="radio"/> 演 台 </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <table style="border-collapse: collapse;"> <tr><td style="text-align: center;">○</td><td style="border: 1px solid black; width: 40px; height: 40px;"></td><td style="text-align: center;">○</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">○</td><td style="border: 1px solid black; width: 40px; height: 40px;"></td><td style="text-align: center;">○</td></tr> </table> <table style="border-collapse: collapse;"> <tr><td style="text-align: center;">○</td><td style="border: 1px solid black; width: 40px; height: 40px;"></td><td style="text-align: center;">○</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">○</td><td style="border: 1px solid black; width: 40px; height: 40px;"></td><td style="text-align: center;">○</td></tr> </table> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">教材置場</div> </div>	○		○	○		○	○		○	○		○
<input type="checkbox"/> 色つきシール	<input type="checkbox"/> 水槽等実験セット																												
<input type="checkbox"/> 旗	<input type="checkbox"/> アンケート用紙																												
<input type="checkbox"/> レジュメ	<input type="checkbox"/> マジック																												
<input type="checkbox"/> プロジェクター	<input type="checkbox"/> 新聞紙																												
<input type="checkbox"/> パソコン	<input type="checkbox"/>																												
<input type="checkbox"/> 模造紙	<input type="checkbox"/>																												
<input type="checkbox"/> 付箋紙	<input type="checkbox"/>																												
<input type="checkbox"/> はさみ	<input type="checkbox"/>																												
○		○																											
○		○																											
○		○																											
○		○																											

(6) 展 開

展開	時間	学 習 活 動	学習支援者	留 意 点	備 考
導 入	10	1 アイスブレイク ①「同じ色に集まれ!!」 ・コミュニケーションとグループ分け	社会教育主事	・コミュニケーションがうまく取れない人はいないか注意する。	[会議室] 色つきシール
		②「旗揚げアンケート」 ・身近な環境についての質問し、学習の下地を作る。		・身近な質問からはじめて、環境に関する質問を行い講義につなげる。	旗（グループ数分）
展 開	50	1 講義・演習 ①講義「C県の環境問題」 ②演習「O川の水質検査」 学習支援者の説明にしたがって、各グループごとに水槽実験を行う。 最後に、学習支援者からのまとめの話をを行う。	C県環境研究センター職員 環境ボランティア	・レジュメの配布と機器の動作確認を行っておく。 ・グループ内で演習に参加できない人がいないか注意する。 ・演習中に薬品等の取り扱いに注意を促す。	レジュメ、プロジェクター、パソコン 水槽等実験セット
	25	2 話し合い 「身近な生活公害について考える」～日常生活の中で環境を汚染しているものは何でしょう～ ①グループ内自己紹介、役割分担 ②KJ法による問題点の抽出	社会教育主事	・話し合いのポイントを板書して明示する。 ・巡回して必要に応じて助言する。	模造紙、マジック、付箋紙、はさみ、新聞紙
ま と め	15	3 発 表 各グループごとに発表する。	社会教育主事 学習リーダー	・発表の視点を確認する。 ・発表する順番を参加者に決めてもらう。	
	10	1 ふりかえり ①この時間で考えたこと ②環境を守る日常生活とは	社会教育主事	・学習目標に関わる質問をし、気づきを促す。	
	5	2 次回の内容について	社会教育主事	・次回の学習に対して興味を持つようにする。	
	5	3 アンケート	環境ボランティア		アンケート用紙

第8節 人権教育計画

<分析シート1>

T市人権教育計画

1 T市の概要

(1) 地勢・地域条件等

- ① T市はI県の南部にあり、K浦の西に位置し、市域は、S川がK浦に注ぐ一帯の低地と周辺の広大な大地とで形成され、123.54km²の面積を有している。
古くから県南地方の政治、経済、文化の中心をなし、県南随一の商都として発展してきた。
- ② 首都Tから60km圏内にあり、T研究学園都市に隣接しN国際空港やK港に近接するなどその地理的優位性から、国のグレーターT構想の中でも重要な地域として位置づけられている。
平成12年度には、21世紀初頭のT市づくりとの指針「第6次T市総合計画」を策定し、「心豊かな市民生活の創出」「活力あふれるまちの実現」を基本理念に、将来像である「生き生きと輝く人と環境に優しいまちT市」づくりを目指した努力が続けられている。

③ 人口

T市の人口は、平成18年4月現在、143,262人（男71,250人 女72,012人）で、世帯数は53,633世帯である。
うち、外国人登録者数は3,348人、就業人口は67,642人となっている。人口割合は0～14歳は14.6%、15歳～64歳は70.1%、65歳以上は15.2%である。

(2) 地域住民の生活状況の特徴

- ① 豊かな自然環境を生かし、業務機能等の近接性に配慮した住宅の整備を進めるなど、ゆとりとうるおいのある職住近接型の住環境づくりに取り組んでいる。T市駅前地区は、商業・業務・住居・福祉施設等の複合施設を備えている。
- ② 産業は、第3次・第2次・第1次（但し、兼業農家が多い）の順で就業人口が多く、経済成長率は、わずかなかマイナスの状況になっている。れんこんの生産が日本一である。
- ③ 日帰りレジャー、国内観光旅行、散策・ウォーキングをする市民が50%を超え、80%以上の市民がスポーツ、趣味・娯楽、旅行等を楽しんでいる。活動形態は個人的活動が最も多い。

(3) 教育・文化的環境

◇ 学校等数（私立を含む）

種 別	数
幼稚園(保育所)	22 (19)
小 学 校	20
中 学 校	10
高 等 学 校	8
大学・短大	2
専 門 学 校	5

◇ 生涯学習関連施設（民間を含む）

種 別	数
地区公民館	8
図 書 館	1
市民会館	2
青少年の家	1
博 物 館	2
社会体育施設	15
広域社会教育施設	2
その他の社会教育施設	7

◇ 教育・文化的環境の特徴

- ① 生涯学習に対する関心が高く、公民館や社会教育に関する施設などハード面が充実している。
- ② 人権意識の高揚を図るために、行政では6つの人権課題に関する出前講座や、20本の人権に関する視聴覚教材の貸し出しを中心に行い、市民の学習に寄与している。
- ③ 以前に比べて、社会教育関係団体からの人権に関する出前講座や、視聴覚教材の貸し出しが増えており、人権に対する関心が高くなってきているが、個人の関心度は高いとは言えず、市全体を見据えた人権意識の高揚が課題である。

2 人権教育の現状と課題

区分	施策	現 行 の 事 業		現状の問題点・課題	問題解決・課題達成のための方向性
		社会教育行政	学校・関連行政・民間・団体等		
啓発・広報	○人権問題の理解、差別の解消に努めるため、市民の人権問題に関する学習意欲の向上を目指し、広報紙等を通して啓発活動を促進する。	<ul style="list-style-type: none"> 人権擁護の街頭活動 (生涯学習課) 紙芝居や絵本、パネルシアターを使ったおはなし会 (図書館) ビデオの貸し出し (生涯学習課) 図書館・社会教育センター・各地区公民館における啓発 人権教育ビデオ(約20本)を所蔵し、研修時等に使用 (生涯学習課) 人権啓発資料の配布 (生涯学習課) 	<ul style="list-style-type: none"> 小学生を対象とした人権教室の開催 (広報広聴課) 学校における人権尊重教育の推進 (指導課) 男女共同参画センターフェスティバル (男女共同参画課) 広報紙 (広報広聴課) 市のホームページ (広報広聴課) ケーブルテレビ (民間) 	<ul style="list-style-type: none"> ①啓発・広報が地域の人々に十分伝わっていない。情報を受け取りづらい人への配慮。 ②市民の人権に対するイメージが抽象的で、人権が身近な問題であるという意識が低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ①テレビやインターネット、市報等の既存の活動に加え、社会教育施設や民間との連携を促進し、様々な機会を有効に活かす。 ②とりあげる人権課題や対象者(子ども、大人、外国人等)を明確にした啓発活動を行い、地域の人々が人権問題を身近に感じるようにする。
学級・講座	<ul style="list-style-type: none"> ○人権問題、差別問題に関する理解を深めるため、学習者の実態、地域の実情等をふまえたうえで学習機会の提供に努める。 ○各種の学級・講座等で人権尊重の学習を取り入れるよう提言していく。 	<ul style="list-style-type: none"> パソコンIT講習会 (生涯学習課) 障害者向けパソコンIT講習会 (生涯学習課) 「世界の友達と話そう」事業 (生涯学習課) いきいき出前講座 (生涯学習課) 家庭教育学級での人権学習会 (生涯学習課) 学級・講座等での人権・同和問題学習会 (生涯学習課) 	<ul style="list-style-type: none"> 要約筆記講座事業 (障害福祉課) 自己表現トレーニング (男女共同参画課) 女性のための生活セミナー (男女共同参画課) 男性のための生活セミナー (男女共同参画課) 	<ul style="list-style-type: none"> ①講義型の講座が多い。 ②参加者の開拓。 ③人権を主題とした事業が団体向けの事業に偏っている。 ④大学・専門学校との連携。 	<ul style="list-style-type: none"> ①参加体験型学習をはじめとした、多様な学習機会を提供する。 ②公民館講座の内容の充実を図る。 ③個人向け事業の充実を図る。 ④学生と連携したプログラムを設ける。
研修	○人権問題に関して深い知識と理解を持つ指導者を養成するため、各種研修会へ積極的に参加する。	<ul style="list-style-type: none"> 学級・講座等での人権同和問題指導者研修会 (生涯学習課) 教育委員会、学校教職員への人権同和問題研修会 (生涯学習課) 各種研修会への職員の参加 (行政職員・学校職員) 	<ul style="list-style-type: none"> 手話奉仕員養成研修会 (障害福祉課) 	<ul style="list-style-type: none"> ①講習した内容を実際の現場で生かされる機会が少ない。 ②研修者が学習した事柄を、自分の所属する各機関へ伝達する機会が不十分である。 	<ul style="list-style-type: none"> ①人材バンクを中心とした受け皿作りを多く設定する。 ②研修者が所属する各機関で研修報告会を行うよう促す。
相談・連携	○人権学習に関する相談体制を整え、関係機関と協力して市民の人権感覚を涵養する。		<ul style="list-style-type: none"> 人権相談 (広報広聴課) 女性問題相談 (男女共同参画課) 教育相談及び学校内の相談窓口 (指導課) ふれあい訪問電話サービス (障害福祉課) 	<ul style="list-style-type: none"> ①人権学習に特化した相談の窓口がない。 ②民間・団体との連携が不十分である。 ③人権学習の相談に関する指導者の不足 	<ul style="list-style-type: none"> ①人権学習の相談窓口を開設する。 ②人権学習を扱う民間・団体への支援を行う。 ③人権学習の相談に関する指導者育成を図る。

IV 年間事業計画（平成18年度人権教育事業計画）

(1) 社会教育目標	一人ひとりが尊重され、お互いを尊重しあう、「誰もが健やかに暮らせるやすらぎに満ちた社会」を実現しよう。
(2) 人権教育目標	人権意識の高揚を図るとともに、人権問題に対する理解を深めるため、人権尊重の教育を基盤とした人権教育を、様々な学習機会等を通して効果的に推進しよう。
(3) 社会教育行政目標	市民一人ひとりが、お互いを尊重し、学習を通して、地域社会の一員として相互支援を育む学習ができるよう、また、学習を通して、学ぶことの楽しさや生きがい共有できる場づくりができるよう支援する。子どもから高齢者、障害のある方まで、すべての市民が、いつでも、どこでも、誰もがともに学べる学習機会を提供できる環境を整備する。
(4) 人権教育行政目標	<ol style="list-style-type: none"> (1) 人権に対する関心を高めるため、他部局と協力して効果的な啓発を行う。 (2) 市民の誰もが人権に関する学習を行えるよう、多様な学習機会の提供に努める。 (3) 市民の自発的な学習活動を支えるため、相談体制を整備し、指導者の育成に努める。 (4) 関係機関と連携し、人権に対する理解のある社会を構築する。

(5) 人権教育年間事業計画表

区分	事業名	事業の目的	事業内容	対象者・定員	実施期間・回数	予算(千円)	備考
啓 発 ・ 広 報	人権啓発広報活動 (12の人権課題) (拡充)	・具体的な事例を通じた啓発活動を行うことで、市民が人権を身近に感じられるよう促し、更に人権活動につながるよう人権意識の形成を図る。	・12ある人権課題を月毎にクローズアップし、広報紙、冊子、ケーブルテレビ、ホームページ、ポスター等のメディアで広報するとともに、人権活動参加支援として人権教育活動を市民に紹介する。	市民	随時	3,500	
	T市人権啓発フェスティバル 2006！（新規）	・一人ひとりが人権を身近な問題として捉え、相手の立場を理解できる人権意識の養成を図る。	・パネル、ステッカー、テキストブックの作成。 ・生涯学習センターにおいて、民間との連携による啓発活動の実施。（絵画展、講演、演劇、映写会等） ・人権を身近に体験できるイベントの開催。	市民 2,000人	年1回 12月10日から一週間（人権週間）	1,500	NPO等の民間団体の活用と、参加者の体験活動を重視。
	みんなで作ろう 人権標語！ (新規)	・市民から人権標語を募集することで、市民の人権意識の高揚を図る。	・人権標語の募集と、標語採用者への表彰。 ・採用された標語を様々な機会を活用する。	15歳以上（中学生を除く）	期間 10月～11月	300	

区分	事業名	事業の目的	事業内容	対象者・定員	実施期間・回数	予算(千円)	備考
学級・講座	『ココロ』をつなぐふれあい講座～人権ってなに？～(新規)	・人権についての多様な捉え方・認識を学習し互いの交流を通して、豊かな人権感覚を磨く。	・フィルムフォーラム、ロールプレイング、パネルディスカッション、アサーティブトレーニング、ブレインストーミング等のワークショップを通して人権感覚を豊かにする。 ・地域の優先課題を5つ設け、適したワークショップを取り上げて各講座を構成していく。	地域住民 50名	6回	90	
	ココロちゃんの人権講座(新規)	・地域課題である人権問題の現状について理解を深める。 ・大学・専門学校の学生ボランティアを募り、ホームページの共同作成を通じて人権問題に対する理解を図る。	・県の人権啓発キャラクター「ココロちゃん」を起用した人権教育に関するホームページの開設。 ・掲示板、チャット、Eメールを内容に盛り込み、地域住民の意見交流の場とする。	市民	通年	0	ホームページの開設を広報紙により広く市民に知らせ、アクセス数の増加につなげる。
研修	「共生」コーディネーター養成塾<研修>(拡充)	・障害を持つ人が、日常生活の中でバリア負担を少なくするために、様々な場面で活動・支援・調整ができる人材を育成する。	・障害者がかかえる社会的背景と「共生」の意義を学びながら、ボランティア活動支援と人材バンクを中心に調整や斡旋などの活動を行う。	社会福祉・行政関連団体指導者 20名	6回	120	市長部局予算修了者は相談窓口で活用
	「みんなにやさしい街づくり」プログラマー養成塾<研修>(拡充)	・人権問題を扱う団体・行政職・教育職などを対象に指導者を養成し「みんなにやさしい街づくり」を目指す。	・人権、同和問題に関する教育を社会教育・学校教育などの実際の現場で、有効に指導できるように研修報告会を含めた実践的プログラムを作成し、理解や啓発を促す。	行政・教育・関連団体指導者 20名	6回	120	修了者は相談窓口で活用
相談・連携	ネット人権学習相談支援窓口(新規)	・関連行政・民間・団体に呼びかけ、人権学習相談支援のネットワーク化を図り、上記各機関からの情報収集・情報提供も可能にしていく。	・人権学習相談支援窓口の設置 ・ネットワーク化した各施設における情報収集や情報提供	関連行政 民間団体 市民	随時	100	パンフレットの作成
	人権学習チームカウンセリング(新規)	・ネットワーク化した関連行政・民間団体から指導者を募り、チームを組み、多様な学習相談支援への対応を図る。 ・多様な相談活動を通し、指導者自身の力量を高めていく。	・チームによる情報収集や情報提供 ・人材を求めている人への橋渡し ・相談を通じた指導者の資質・能力の向上	指導者 市民	月2回	500	人権学習指導者の配置

V 人権教育学習プログラム（個別事業計画）

(1) 事業名	『ココロ』をつなぐふれあい講座～人権ってなに？～	
(2) 事業の目的	人権についての多様な捉え方・認識を学習し互いの交流を通して、豊かな人権感覚を磨く。	
(3) 実施主体	T市教育委員会 生涯学習課	
(4) 対象者・定員	地域の成人一般 定員50名	
(5) 学習期間・学習時間（回数）	9月～11月	1回の学習時間 2時間×4回、3時間×2回
(6) 学習場所	公民館	
(7) 学習目標	人権問題について広範な知識を習得するとともに、参加型学習を通して実生活に即した人権感覚を養い、人権に対する理解のある市民を育成し、地域社会の人権に対する意識高揚を図る。	

(8) プログラムの展開

回	学習テーマ	学習の内容と方法	学習支援者	備考
1 9月	ウォーミングアップ 『人権』って何だろう？	・オリエンテーション ・アイスブレイキング ・講義『12の人権課題』 ・ワークショップ	社会教育主事 県人権・同和教育室職員	日曜日 10：00～12：00
2 9月	同和問題を考える 『すべての人が輝くために』 ～身近にある差別～	・ビデオ視聴 （県制作映画『3人兄弟』を視聴） ・講師によるレクチャーと質疑	社会教育主事 総務課職員	日曜日 10：00～12：00
3 10月	高齢者・障害者差別 「かわいそう？その前に…」 ～ノーマライゼーションの 社会を目指して～	日常生活（散歩・通勤・家事等）や就職・結婚などの場面設定をして、高齢者（高齢者体験スーツの着用）・障害者（アイマスク・車いすなどの利用）の疑似体験を行う。その後、参加者全員で高齢者や障害者差別について考える。最後にまとめの話を聞く。	社会教育主事 高齢福祉課職員 障害福祉課職員 人権教育プログラマー	日曜日 9：00～12：00
4 10月	子どもと人権 「となり・近所から 見つめる子どもの人権」	日常生活の中で、隣近所などの自分の身近な地域で、子どもに対しての暴力や虐待を見つけた場合、どのように対処すべきか、具体的な事例を交えながら意見を交換する。 また、「子どもの人権」とは何か、子どもの心を健全に育てるための大人の役割について考える。 ＜ワークショップ・パネルディスカッション＞	社会教育主事 児童相談室相談員 スクールカウンセラー 民生委員 地区長 PTA代表 研修修了者など	日曜日 9：00～12：00
5 11月	インターネットと人権 「ネチケットってなに？」	・インターネットによる人権侵害について考える。 （例：掲示板への誹謗・中傷の書き込みについて考える。） ・講義 ・グループによる事例研究	社会教育主事 A山学院大学助教授 （情報）	日曜日 10：00～12：00
6 11月	まとめ 「想いを形に」	・グループごとに学習成果の出し方を討議する。 ・発表・質疑・応答 ・修了証の交付を受ける ・学習成果を活用する場の情報提供を受ける ・閉会式	社会教育主事 人権活動団体	日曜日 10：00～12：00 ・アンケートの実施

第9節 国際理解教育計画

＜分析シート1＞

S市A区国際理解教育計画

1 S市A区の概要

(1) 地勢・地域条件等

- ① M県の中央部に位置し、北西方向に帯状に広がっている。H川（全長35km）が区内を東西に貫いている。
- ② 近代的な都市機能と豊かな自然環境が共存する。
- ③ 人口は、282,199人であり、20代の占める割合が高い。
0～14歳（12.8%）、15～64歳（70.5%）、65歳以上（16.8%）

(2) 地域住民の生活状況の特徴

- ① 区の中央に行政機関・金融機関・事務所・商店が集中し、新旧の住宅団地群が丘陵地帯に広がる。
- ② 東部は、宅地開発と区画整理が行われ人口が急増、北西部では畜産・農林業などが営まれている。
- ③ 外国人登録者は約1万人（平成17年）で、そのうち留学生数は1,800人である。

(3) 教育・文化的環境

◇ 学校等数

種 別	数
幼稚園(保育所)	32 (28)
小 学 校	31
中 学 校	21
高 等 学 校	15
大 学・短大	8
専 門 学 校	27

◇ 生涯学習関連施設（民間を含む）

種 別	数
公 民 館（市民センター）	16
博物館・資料館	21
コミュニティ・センター	13
文化会館	10
美 術 館	6
国際センター	1

◇ 教育・文化的環境の特徴

- ① T大学をはじめ多くの大学、研究機関、専門学校があり、文教ゾーンを形成しているとともに、国際文化交流の拠点施設である国際センターが設置されている。
- ② SLLプラン21（平成6年）で市民一人一人が生きがいのある充実した学習を実現するため、「市民による市民のための生涯学習」を基本理念として掲げている。
- ③ 生涯学習に関する調査の結果、住民が希望する学習内容は以下の通りである。1位：パソコン（37%）
2位：英語・英会話（12%）。年齢別に見た英語・英会話の希望状況は、20代では1位、30～40代では2位、50代は4位となっている。また、60～70代は5位以内にランクされていない。 *平成17年調査

2 国際理解教育の現状と課題

区分	施策	現行の事業		現状の問題点・課題	問題解決・課題達成のための方向性	
		社会教育行政	学校・関連行政・民間・団体等			
青少年	教室・講座	<ul style="list-style-type: none"> 国際社会に積極的に対応する教育と子供の個性を尊重する教育を充実する。 	<ul style="list-style-type: none"> 英語で遊ぼう (小学1・2年生) (生涯学習課) チャイルドスクール (小学4・5年生) (生涯学習課) キッズクラブ (小学1～3年生) (生涯学習課) 子ども自由塾 (小学3～6年生) (生涯学習課) 	<ul style="list-style-type: none"> 小学校英語活動サポート事業 (学校教育課) 青少年国際理解講座 (S国際交流協会) 	<ul style="list-style-type: none"> 社会教育と学校教育の連携が不十分であり、系統的でない。 帰国子女対策が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> 関係機関のネットワークを強化し、連携を図っていく。 地域人材等を活用し、帰国子女の心のケアをする。
	交流事業	<ul style="list-style-type: none"> 様々な分野において、海外都市との多様で重層的な交流を作り出す。 	<ul style="list-style-type: none"> 国際交流事業 青少年の海外派遣、受け入れ (生涯学習課) 	<ul style="list-style-type: none"> ホームステイプログラム(ユネスコ) アメリカ交換留学生(ユネスコ) 	<ul style="list-style-type: none"> 交流の場面で、派遣先での治安に対する不安が残る。 	<ul style="list-style-type: none"> インターネットを積極的に活用し派遣先の情報の収集を図る。 新たな国際交流プログラムを開発する。
成人	教室・講座	<ul style="list-style-type: none"> 外国の文化・生活について学ぶとともに国際理解を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> タイについての井戸端会議(公民館) 国際交流講座(公民館) ボンジョールノイタリア(公民館) 私のスペイン(スペイン料理)(公民館) 	<ul style="list-style-type: none"> 国際理解教育支援事業(MIA) エスペラント語講習会(市民活動サポートセンター) 日本語教育市民講座(民間団体) 	<ul style="list-style-type: none"> 取り上げる題材が表面的であるとともに、継続的でない。 学ぶ国が偏っている。 講座開催時間が昼のため、参加者が限定されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 多様な講師を開拓する。 地域を限定し、長いスパンで世界の各地域を紹介する。 市民の関心がある講座を参加可能な時間に開催する。
	リーダー研修	<ul style="list-style-type: none"> 国籍・文化・言語など異なる人々が快適に暮らせるよう国際化を推進する。 		<ul style="list-style-type: none"> 日本語ボランティア育成講座(国際交流協会) 災害(語学)ボランティア養成(国際交流協会) 	<ul style="list-style-type: none"> 外国人に対する差別や偏見をなくすプログラムが少ない。 教授法だけではなくボランティアとしての意識を高めるプログラムが不足している。 	<ul style="list-style-type: none"> 文化・民族・習慣に関しての講座を開く。 生涯学習ボランティアの育成プログラムの積極的な導入を図る。
	交流事業	<ul style="list-style-type: none"> 交流活動や情報の発信を通して、コミュニケーションへの関心を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> Let's話すっちゃ(公民館) 	<ul style="list-style-type: none"> 英語日本語スピーチフォーラム(民間団体) 誰かに教えたくない日本語(民間団体) 	<ul style="list-style-type: none"> 情報の発信を通してコミュニケーションへの意欲を高める講座が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> 座学だけでなく、参加体験型のプログラムを組む。
高齢者	教室・講座	<ul style="list-style-type: none"> 国際化社会のニーズに合わせて世界で最も幅広く使われている英語を学ぶ。 外国の文化・生活について学ぶとともに国際理解を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> SHALL WE ENGLISH(公民館) シニアのための英会話、度胸だめし(公民館) 老荘学園(公民館) 		<ul style="list-style-type: none"> 高齢者は語学学習へのニーズが低い。 生活習慣を学ぶ場がない。 学んだ成果を発揮する機会が少ない。 参加者は固定している。(経済的に恵まれていない人のためのプログラムがない。) 	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者側から見たニーズを把握し、企画する。

IV 年間事業計画（平成18年度国際理解教育事業計画）

(1) 社会教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な人との関わりを通して、主体的に学ぶ力を身につけよう。 ・生きがい作りや学び直しを通して、自分に合った方法で学ぼう。
(2) 国際理解教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な国の文化を理解し、自らの生活に活かしていける力を身につけよう。 ・文化の違いを超えて、互いに尊重し合い、ともに生きていく態度を身につけよう。
(3) 社会教育行政目標	<ul style="list-style-type: none"> ・市民一人ひとりの学ぶ力をはぐくむために、生涯学習施設の機能の充実を図る。 ・人材、資料、施設などの学ぶ環境を市民が活用できるようにする。
(4) 国際理解教育行政目標	<ul style="list-style-type: none"> ・異文化理解に関する情報提供に努め、生活経験を生かし、社会の変化に対応できる人材を育成する。 ・国際交流の場の提供を通して、コミュニケーション能力の育成を図る。

(5) 国際理解教育年間事業計画表

区分	事業名	事業の目的	事業内容	対象者・定員	実施期間・回数	予算(千円)	備考	
青	教室・講座	・英語であそぼう	・コミュニケーションへの関心を高める。	・海外のTVを見る。 英語の歌、漫画、ゲームに触れる。	小学生 (1~3年生、20人)	隔週1回 (3ヶ月)	120	博物館 学校へ出前 学校から出前 大学への依頼
		・英語を使おう	・表現力を高める。	・英語の歌、漫画などを和訳、日本の歌を英訳して楽しむ。	中学生 20人	隔週1回 (3ヶ月)	120	
		・キッズスクール	・外国の文化についての理解を図る。	・言葉、歴史、衣服、食文化、遊び、日常生活についての学習をする。	小学生 (4~6年生、20人)	隔週1回 (3ヶ月)	120	
少年	交流事業	・見るっちゃA知るすぺ世界Part1	・自分の住んでいる地域についての理解を深める。	・フィールドワークを中心とした地域調べをする。 ・地域に居住する外国人へのインタビューを行う。	小学生 (5~6年生、10人) 中学生 10人	5~8月 夏季休業中合宿を含め10回	40	図書館 公民館
		・見るっちゃA知るすぺ世界Part2	・外国の人の目を通して、日本の現状を見つめ直す機会とする。	・地域についての英語での情報を発信する。 ・海外(外国人、日本人学校に通う日本人)とのインターネットを活用した交流を行う。	小学生 (5~6年生、10人) 中学生 10人	隔週1回 (3ヶ月)	20	公民館
成人	教室・講座	・世界を身近に感じたい(韓国編)	・韓国文化の様々な側面に触れて「近くて遠い国」という既存のイメージを払拭する。	・食文化、伝統民族衣装を紹介し合う。 ・韓国のドラマのビデオ鑑賞をする。 ・鑑賞後、ディスカッションを行う。(恋愛観、家族観、人生観について) ・パネルディスカッション(在日韓国人の日本観)を実施する。 ・ハングル文字の学習をし、講師に簡単な礼状を書く。	一般市民 50人	月1回 計10回	80	公民館 年度ごとにテーマを設定

区分	事業名	事業の目的	事業内容	対象者・定員	実施期間・回数	予算(千円)	備考
成人	リーダー研修	<ul style="list-style-type: none"> 日本語ボランティア実践講座 災害(語学)ボランティア実践講座 	<ul style="list-style-type: none"> 外国人に対する差別や偏見をなくすため異なったものの見方価値観との出会いを試みる。 災害発生時に外国籍市民を支援するボランティアを育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> 対象国の言葉および文化に対する学習を深める。 防災知識習得のための研修会や市主催防災訓練に参加する。 	<ul style="list-style-type: none"> ボランティアおよび希望者 30人 ボランティアおよび希望者 50人 	<ul style="list-style-type: none"> 6時間を10講座 研修会2回 訓練1回 	<ul style="list-style-type: none"> 200 国際交流協会との共催 公民館 40 公民館 市消防局、警察署との連携
	交流事業	・エンジョイいんぐりっしゅ	・英語圏の生活を疑似体験し、文化交流を図り国際理解を深める。	・外国人の教員、留学生とともに日本語を使わずにロールプレイ、ティーパーティー、ゲームなどを通して楽しみながらコミュニケーションを図る。	一般市民 30人	通年 計10回	70
高齢者	教室講座	<ul style="list-style-type: none"> 歳の差なんて... やるっちゃグラウンドゴルフ やるすべ BONSAI 	<ul style="list-style-type: none"> 話し合いを通して異文化理解を図る。 帰国子女の心のケアを図る。 グラウンドゴルフを通して臆せずコミュニケーションを図ることができる度胸をつける。 ガーデニングを通して英国の歴史や文化に触れる。 	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者と小中学生の帰国子女とのディスカッションをする。 地域に居住する外国人と一緒にグラウンドゴルフをすることを通して交流を深める。 英国の歴史、文化について学ぶ。 ガーデニングに関する知識技術の習得を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 小中学生帰国子女 高齢者 50人 高齢者 居住外国人 各20人 高齢者 20人 	<ul style="list-style-type: none"> 年4回 年2回 年4回 	<ul style="list-style-type: none"> 0 学校教育課 0 学校グラウンドゴルフ協会との連携 60 公民館

V 国際理解教育学習プログラム（個別事業計画）

(1) 事業名	見るっちゃA地区 知るすぺ世界 Part 1	
(2) 事業の目的	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の住んでいる地域についての理解を深める。 ・外国の人の目を通し、地域・日本の現状を見つめ直す機会とする。 	
(3) 実施主体	S市教育委員会 生涯学習課	
(4) 対象者・定員	小学生（5～6年生）10人、中学生10人	
(5) 学習期間・学習時間（回数）	5月～8月	1回の学習時間 2時間×8回 宿泊（1泊2日）9時間
(6) 学習場所	図書館 公民館（宿泊時）	
(7) 学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・地域調べを通し、郷土についての理解を深める。 ・外国人へのインタビューを通し、自分たちの住んでいる地域の現状について考える。 	

(8) プログラムの展開

回	学習テーマ	学習の内容と方法	学習支援者	備考
1 5月	やっぺ (入学式)	<ul style="list-style-type: none"> ・開講式 ・オリエンテーション、アイスブレイキング 班分け（小学生2人、中学生2人）5班 学習内容の確認 	居住外国人 図書館司書 社会教育主事 嘱託社会教育主事 ボランティア	2時間
2～4 5・6月	なんたりかんたり調べっちや (調べ学習)	<ul style="list-style-type: none"> ・地域調べ（班別活動） フィールドワークは外国人も一緒に活動（H川、B山、史跡、たなばた、伝統芸能） グループディスカッション、協議 ・発表準備 	居住外国人 社会教育主事 歴史保存会 教職員 図書館司書 嘱託社会教育主事 ボランティア	2・3回：フィールドワーク 各2時間 4回：図書館 2時間
5 7月	まず聞くっちゃ (発表会その1)	<ul style="list-style-type: none"> ・中間発表会 互いに発表 質疑応答 	居住外国人 地域振興課職員 社会教育主事 図書館司書 嘱託社会教育主事 ボランティア	2時間 実物投影機
6 7月	準備すっぺし (宿泊事前準備)	<ul style="list-style-type: none"> ・ふりかえり ・インタビューの事前準備 	居住外国人 社会教育主事 図書館司書 嘱託社会教育主事 ボランティア	2時間
7～8 7・8月	泊まりにあべ 聞きにあばいん (宿泊学習交流会)	<ul style="list-style-type: none"> ・公民館で宿泊（一泊二日）しながら、地域に居住する外国人へのインタビューをし、自分たちの住んでいる地域の姿について知る。 <1日目午後> ・アイスブレイキング ・外国人へのインタビュー（A地区の住みやすさ、住みにくさについて） <1日目夜> ・外国人と一緒にバーベキューをして交流を深める。（含：すずめ踊り） ・インタビューのふりかえり <2日目午前> ・協力してもらった外国人の方へ礼状作り ・インタビューをもとに発表準備 	居住外国人 公民館長 社会教育主事 嘱託社会教育主事 ボランティア	公民館 1日目午後4時間 1日目夜 2時間 2日目午前3時間 図書館 銭湯へ行くためのバスを市より借用

回	学習テーマ	学習の内容と方法	学習支援者	備考
9 8月	いまっと思ってみっぺ (発表会その2)	<ul style="list-style-type: none"> ・インタビューの成果の発表会 互いに発表 質疑応答 ・外国人からの発表 質疑応答 	居住外国人 国際交流協会 社会教育主事 嘱託社会教育主事 ボランティア	2時間
10 8月	んでまず (とりあえず卒業式)	<ul style="list-style-type: none"> ・全体のまとめ ・Part 2の概要を知る ・閉講式 	居住外国人 生涯学習課長 社会教育主事 嘱託社会教育主事 ボランティア	2時間

第10節 健康教育計画

<分析シート1>

A市健康教育計画

1 A市の概要

(1) 地勢・地域条件等

- ① A市はK県のほぼ中央に位置し、都心から約40kmのところにある。
- ② 地形は、市内を北から南へ緩やかに流れるT川・H川・M川の3河川による河岸段丘と平坦地によって形成されていて、気候は比較的温暖である。
- ③ 人口は、平成18年6月現在、81,803人(男41,856人、女39,947人)、世帯数が30,209世帯である。この10年間は、人口・世帯数ともほぼ横ばい状態で、1世帯平均2.70人である。

(2) 地域住民の生活状況の特徴

- ① 65才以上の高齢者率が16%と県内でも大変低く、平均年齢が41才と若い街である。
- ② 「産業マスタープラン」・「タウンセンター計画」等が進められ、活力に満ちた特徴ある産業を育み、豊かで多彩な産業都市として成長しつつある。
- ③ 県下で唯一「生涯学習宣言」をし、市内6ブロックに地区センターを配置し、市民の学習の場となっている。

(3) 教育・文化的環境

◇ 学校等数

種 別	数
幼稚園(保育所)	10(6)
小 学 校	10
中 学 校	5
高 等 学 校	2
大 学・短大	0
専 門 学 校	3

◇ 生涯学習関連施設(民間を含む)

種 別	数
公 民 館	1
文化会館	1
地区センター等	8
スポーツ施設	13
図書館等	4
児 童 館	3
福祉会館	3
保健医療センター	1

◇ 教育・文化的環境の特徴

- ① A健康プラン21に基づき、出張健康講座を開催し、健康づくりを支援するとともに、「Aいきいき体操」の普及に努め、健康づくり運動を展開している。
- ② 市総合スポーツ大会や駅伝大会の開催をするなど、競技意欲の高揚を図るとともに、子どもから高齢者まで参加できるニュースポーツの普及や体育施設の充実に取り組んでいる。
- ③ 「生涯学習推進大会」を実施したり、現代的課題に対応した学習機会「お届けバラ講座」を開催したりして、生涯学習を支援している。

2 社会教育における健康教育の現状と課題

区分	施策	現行の事業		現状の問題点・課題	問題解決・課題達成のための方向性
		社会教育行政	学校・関連行政・民間・団体等		
広報・啓発	<ul style="list-style-type: none"> 「A健康プラン21」を広く、市民に周知し、市民の健康づくり運動を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> 生涯学習情報紙「かがやき」に年4回掲載 	<ul style="list-style-type: none"> 健康教育の関連事業の啓発（インターネット、広報紙、健康普及員の活動）をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 広報は配布しているが、市政への関心は低く、施設の利用状況は横ばい状態である。 市の広報紙と生涯学習情報紙との関連が図られていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 地区センターを利用してPR活動を多くするとともに、学校、地域との連携を図り、課題意識を持たせる。
講座	<ul style="list-style-type: none"> 「A学びプラン響（生涯学習基本構想・推進計画）」による学習活動を提供する。 ①休養、心身の健康づくり ②運動、身体活動の推進 ③栄養、食生活の改善 ④禁煙、分煙と適正飲酒の推進 ⑤地域の仲間づくり ⑥高齢者の生きがいづくり 	<ul style="list-style-type: none"> 健康づくりPART1 アトピー講座 成人学級「新時代の感染症」 フットサルにチャレンジ 正しいウォーキング ピラティス（ヨガ） 乳幼児期の食教育 バランスのとれた食生活と健康（落語口演） 健康づくりPART2 きれいな血液で健康な身体づくり 高齢者の生きがいづくりと安心サービス 	<ul style="list-style-type: none"> 心と身体の学び塾（幼・小・中対象）（幼2校、小3校、中3校） 健康普及員活動で健康の輪を広げる（保健医療センター等） ショートテニス・カローリング教室（体育指導委員協議会） 「誰でも作れる豚肉料理～ミートローフとハンバーグ～」 発酵食品で健康に～キムチ作り～（婦人会） いきいき健康フェスティバル（保健医療センター） 	<ul style="list-style-type: none"> 学び塾では、PTA役員が中心になっている。 運動に対する関心は高いが、講座数が少なく、ニーズに対応できていない。 食生活に対する関心は高いが、参加ニーズに充分対応しきれていない。 喫煙、飲酒している未成年者の割合が多い。 参加者が400名を超え成功したが、Aいきいき体操の普及まではいかなかった。 参加者が少なく、広報活動やニーズについて再考する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習内容を工夫し、健康に対する意識を高める。 市民ニーズを取り上げて、講座の時期・内容等を工夫していく。 内容と機会を充実させ、指導者養成を行っている。 小学生から参加できる講座を企画し、保護者とともに学べるようにする。 健康アドバイザー等のボランティアを養成する場づくりを行っている。 高齢者と若者、子どもが触れ合う場や機会を作る。
相談		<p>注：社会教育サイドでは行っていない。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 健康相談室（子ども、成人対象）（保健医療センター） 新生児訪問（保健医療センター） 	<ul style="list-style-type: none"> 健康相談のサービスを知らない人が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 広報活動の充実を図る。 健康に関する学習相談を実施する。
調査	<ul style="list-style-type: none"> 市民の意見調査結果をもとにH13～H22までの10年間にわたる「A学びプラン」を策定。 お問い合わせメールを活用し、市民のニーズを取り上げる。 	<ul style="list-style-type: none"> 健康づくりのための学習ニーズ収集（生涯学習課） 	<ul style="list-style-type: none"> 市民健康生活アンケート調査の実施（事業ごと） ヘルスアセスメント（健康度評価）の実施 	<ul style="list-style-type: none"> アンケート調査の結果の広報の仕方、及び事業への生かし方が明確でない。 	<ul style="list-style-type: none"> 「A健康プラン21」のための事業をアンケート結果により検討する。 お問い合わせメールに対する誠実かつ適切な回答をする。

IV 年間事業計画（平成18年度健康教育事業計画）

(1) 社会教育目標	・市民一人一人が主体的な学習を通じて、健康づくりを促進するまちづくりを目指そう。
(2) 健康教育目標	・A健康プラン21に基づく市民による「いきいき健康のまちづくり」に努めよう。
(3) 社会教育行政目標	・ライフステージに対応した学習機会の提供や自主的な学習活動への支援を行う。 ・各施設の有効利用や誰もが利用しやすい魅力的な施設の充実を図る。 ・社会教育事業を推進し、社会教育団体や指導者の育成を図る。
(4) 健康教育行政目標	・健康に関する学習機会を提供し、健康に対する正しい知識の普及、啓発を図る。 ・健康づくりの視点から、生涯スポーツの推進を図る。 ・関係団体と連携を図り、市民の健康づくりを図る。

(5) 健康教育年間事業計画表

区分	事業名	事業の目的	事業内容	対象者・定員	実施期間・回数	予算(千円)	備考
広報・啓発	・生涯学習情報紙「かがやき」掲載(年4回)(継続)	・案内紙を通し、市民に講座のねらいや内容を広く、周知する。	・案内紙を配布する。 ・A市広報紙での事業案内を行う。	全家庭	4回	0	・生涯学習課発行
	・青少年向け事業案内チラシ「きらきら」掲載(新規)	・案内紙を通し、小・中学生に講座のねらいや内容を広く周知する。	・案内紙を配布する。	小・中学生	1回	0	・生涯学習課発行
	・あなたの「健康大事典」(新規)	・健康度のチェックと講座を周知する。	・リーフレットやインターネットによる健康チェック(携帯サイト等)と講座案内を行う。			0	・保健福祉部主管
講座	①休養、心身の健康づくり事業 いきいき健康教室(継続)	・健康に関する正しい知識を提供することにより生活習慣病の予防を図る。	○健康教室を行う。 ・血液の話 ・糖と塩分と身体の話 ・歯の話 ・肝心な話	成人・高齢者 30名	3回(4、5、6月)	42	・健康福祉部との連携
	アトピー教室～アトピーさんと語ろう～(新規)	・原因が明らかになっていないアトピーについて、誰もがもっている自然治癒力について理解を深める。	○アトピー自然治癒力教室を行う。 ・アトピーについて知ろうⅠ ・アトピーについて知ろうⅡ ・自然治癒力と体操Ⅰ ・自然治癒力と体操Ⅱ	成人 20名	4回(7月－2回、8月－2回)	59	・健康福祉部との連携(保育付き)
	ウイルス予防大作戦!!(新規)	・ウイルスの脅威にさらされている現代において様々な視点から感染症予防を図る。	○感染症予防教室を行う。 ・現代のウイルスと感染 ・インフルエンザ ・動物とウイルス ・免疫力を高める料理づくり ・予防と対策 ・ウイルスとこれから	成人、高齢者 30名	6回(9月－2回、10月－2回、11月－2回)	117	・健康福祉部との連携
	②運動、身体活動の推進事業 親子わくわくスポーツまつり(継続)	・仲間とニュースポーツを楽しむことにより親子の交流を図る。	○スポーツまつりを行う。 ・フットサル ・フライングディスク ・バウンドテニス ・フロアーカーリング	親子	1回(夏休み中)	90	・体育指導員とボランティアの協力 ・参加賞 ・スタンプラリー
Beウォーキング(継続)	・歩くことに注目し、正しい歩行がダイエット、老化防止につながることを学ぶことで健康への意欲を高める。	○健康教室を行う。 ・正しい姿勢と歩き方 ・美しい歩き方 ・スタイルアップと身体トラブル改善 ・「美」&「安全」ウォーキング	成人、高齢者 30名	4回(9月～12月)	56	・体育指導員の協力	

区分	事業名	事業の目的	事業内容	対象者・定員	実施期間・回数	予算(千円)	備考
講	③栄養、食生活の改善事業 楽々ピラティス(継続)	・体操を通して、日常の疲れをとり、健康的な体づくりを促進する。	○心と身体の健康教室を行う。 ・呼吸法 ・ピラティスの基本姿勢 ・バランスボール	成人 40名	4回(1～3月)	59	・健康福祉部との連携(保育付き)
	ひよこクラブの食育教室(継続)	・乳幼児期で大切な食事について学ぶことにより子育て支援を図る。	○食育教室を行う。 ・幼児期の食育について ・乳幼児期の食育について	乳幼児を持つ保護者 30名	地区5カ所へ出前する(各1回)	3	・健康福祉部との連携(保育付き)
	落語で食と健康を斬る(継続)	・落語という日本の文化の視点から食と健康を考える機会を提供する。	○楽しい食生活講座を行う。 ・落語口演「新春! バランスのとれた食生活と健康」	一般 200名	1回(1月)	100	・健康福祉部との連携
座	④禁煙、分煙と適正飲酒の推進事業 食生活見直し隊(新規)	・安全で豊かな食生活について実習を通して学ぶことにより意識啓発を図る。	○ヘルシー料理教室を行う。 ・誰でも作れる肉料理～ミートローフとハンバーグ～ ・誰でも作れる魚料理～さんが焼き～ ・発酵食品で健康に～とうふづくり～ ・発酵食品で健康に～キムチづくり～	成人 40名	4回(9～12月)	56	・保健福祉部との連携
	元気はつらつプラン(継続)	・健康に関する学習機会を提供し、一人一人の健康と生活の質の向上を図る。	○出前健康教室を行う。 ・飲酒、喫煙の防止 ・薬物乱用の防止 ・食習慣の見直し	中・高 240名 小・中 240名	年2回 年2回	20 20	・小・中・高との連携(出前講座)
室	⑤地域の仲間づくり事業 ⑥高齢者の生きがいがづくり事業 生き生き健康フェスティバル2007(継続)	・地域における異世代間の交流の場づくりを通して、生きがいがづくりを支援する。	○いきいき健康フェスティバルを開催する。 ・生きがいがづくり講座の開催 ・ボランティア養成 ・Aいきいき体操	一般 400名	1回(2月)	100	・保健福祉部との連携 ・文化会館 ・地区センター
	市民大学「ひびき」創設(新規)	・生活習慣病を予防するための知識・技能の習得を目指す。 ・健康アドバイザー(生活習慣病予防だけでなく、健康に関する支援を行う人)を養成する。	○各種健康講座を開催する。 ・健康に関する指導者や健康普及員、ボランティアの養成 ・プログラム開発 ・サークル活動	成人・高齢者	7回	400	・保健福祉部との連携 ・体育指導員の協力
相談	いつでも、どこでも健康学習(新規)	・健康学習のニーズに対する学習相談を実施する。 ・インターネットによる健康学習相談サービスを提供する。	○健康に関する学習相談を行う。 ○健康学習に関する情報提供する。	随時	随時	100	・保健福祉部との連携
調査	参加者の意識調査(継続)	・健康学習のニーズや満足度を調査し、事業改善に反映させる。	○アンケート調査の実施する。 ○結果の分析を行い、関係団体と協議をしながら事業の改善を行う。	随時	随時	10	・講座・教室参加者や各種団体等との調整

V 健康教育学習プログラム（個別事業計画）

(1) 事業名	市民大学「ひびき」～健康アドバイザー養成講座～	
(2) 事業の目的	生活習慣病を予防するための知識・技能の習得を目指す。 健康アドバイザー（生活習慣病予防だけでなく、健康に関する支援を行う人）を養成する。	
(3) 実施主体	A市教育委員会	
(4) 対象者・定員	成人・高齢者（30名）	
(5) 学習期間・学習時間（回数）	6月～10月	1回の学習時間 2時間×6回、6回目のみ5時間×1回
(6) 学習場所	中央公民館 他	
(7) 学習目標	健康に生きるためのライフスタイルを習得し、地域住民の健康アドバイザーになろう。	

(8) プログラムの展開

回	学習テーマ	学習の内容と方法	学習支援者	備考
1	生活習慣病とは ～その原因と具体的症状について～	○開講式 ・オリエンテーション ○講義 ・「生活習慣病を知る」 ○受講生同士の意見交換 ・「生活習慣病について」	保健師 社会教育主事	講義室
2	生活習慣病をめぐるトピックス ～最新情報について～	○講義・演習 ・肥満とメタボリック症候群について ・歯周病について ○協議 ・生活習慣病予防を考えた食事について	A市医師会 A市歯科医師会 保健師 社会教育主事	講義室
3	さらば！生活習慣病 Part 1 ～日本食を楽しむ～	○調理実習 ・新鮮な食材を使ったバランスの良い日本食を楽しむ。 ○感想・意見	料理研究家 保健師 社会教育主事	調理室
4	さらば！生活習慣病 Part 2 ～ウォーキングのすすめ～	○実技 ・Aいきいき体操 ・正しい姿勢と歩き方 ・身体のトラブル改善～ウォーク編～ ○感想・意見	スポーツクラブ 指導員 A市体育指導員 保健師 社会教育主事	体育館
5	さらば！生活習慣病 Part 3 ～程よい飲酒ときっぱり禁煙～	○講義 ・適正飲酒について ・タバコと肺ガンについて ○協議 ・分煙と禁煙について	A市医師会 保健師 社会教育主事	講義室
6	さらば！生活習慣病 Part 4 ～温泉療法でリフレッシュ～	○移動学習 ・温泉療法について	温泉入浴指導員 保健師 社会教育主事	現地研修（A温泉：10時～15時）
7	ライフスタイルの見直し ～健康アドバイザーになろう～	○グループワーク ・生活習慣病予防のためのプログラムづくり ○閉講式 ・修了証	健康アドバイザー 保健師 社会教育主事	講義室

第11節 情報化に関する教育計画

＜分析シート1＞

K市情報化に関する教育計画

1 K市の概要

(1) 地勢・地域条件等

- ① K市はT都のほぼ中央に位置し、市の面積は11.48km²で、緑と水に恵まれた地域である。天平13（741）年に国内最大規模の国分寺が建立された古代からの歴史を持つとともに、江戸時代の享保年間に新田開発が盛んにおこなわれ、農村として発展した。明治22年の市町村制施行で10村が合併し、その後町制を経て、昭和39（1964）年、都内では14番目の市としてスタートした。
- ② 現在のK市は、JRや私鉄線の主要な駅がある交通至便な住宅都市で、都心へ通勤・通学する市民が多い一方で、企業や大学・高校などの先端知識や技術の拠点が立地しているなど、昼夜、多くの人が集散・通過している。このようなことから、K市は文化や情報の収集・発信の面で恵まれており、生涯学習社会実現の面で高い可能性を持っている。
- ③ 人口は増加の一途にあり、市制施行後直後の昭和40（1965）年の58,464人から平成7（1995）年に105,786人（国勢調査）、平成12（2000）年には111,310人（国勢調査）になった。平成17年には、113,320人（平成17年国勢調査速報値）であり、増加傾向にある。市の人口構成は、年少人口（14歳以下）が徐々に減少し平成10年1月現在では12.7%、老年人口（65歳以上）は増加し13.4%となり、高齢化が進行している。一方20代の人口は、年代別人口比で見るとT都の他市町村と比較しても高く、その点では、K市は若者のまちという側面もある。

(2) 地域住民の生活状況の特徴

- ① 昼間人口における就業者数が少なく周辺都市や都心への流出が多い。
- ② 20代の若い世代が多い。（20.1%）また、高齢者の人口も多い。（14.6%）
- ③ 市民意識調査によると、市民の約5割が「同好のサークルやグループで」、「本やテレビなどを利用して一人で」、「民間の大規模な教室や講座等で」、「市主催の講座等で」等の多様な方法で学習活動している。

(3) 教育・文化的環境

◇ 学校等数

種 別	数
幼稚園(保育所)	6 (8)
小 学 校	11
中 学 校	6
高 等 学 校	2
大 学 ・ 短 大	1
専 門 学 校	2

◇ 生涯学習関連施設（民間を含む）

種 別	数
公 民 館	5
図 書 館	5
市民ホール	2
女性センター	1
教育センター	1
地域センター	6

◇ 教育・文化的環境の特徴

- ① 市民の生涯学習参加への期待が高く、「市主催の講座等」を中心に市民の多様な学習要望に応えられる学習環境の整備が求められている。
- ② 学習情報源は「新聞・雑誌・書籍」が6割を超えて高く、あとは「市の広報誌など」「近所の人・友人・知人」が約5割となっているが、20歳代では「インターネット」が2割を超えるなど、若い層から新しい情報媒体の利用が徐々に進んでいる。
- ③ ほしい学習情報として、「教室・講座の内容等に関する情報」を望む割合が飛び抜けて高く、半数を超えている。

（市民意識調査より）

2 情報化に関する教育の現状と課題

区分	施策	現 行 の 事 業		現状の問題点・課題	問題解決・課題達成のための方向性
		社会教育行政	学校・関連行政・民間・団体等		
メディア受容・表現能力	<ul style="list-style-type: none"> ○様々なメディアを通じて得た情報を取捨選択し内容を判断する能力を養う ○メディアを介して自ら自分の考えを世の中に発信できる能力を養う 	<ul style="list-style-type: none"> ○メディア・リテラシー講座／市民（公民館） ○メディア・リテラシー向上／市民（公民館） ○メディア・リテラシー教育フォーラム／市民（生涯学習推進課） 	<ul style="list-style-type: none"> ○メディア・リテラシー向上（男女平等人権課） ○メディア・リテラシーに関する講演会（PTA連合会） ○情報学習／小中学生（教育部指導室） 	<ul style="list-style-type: none"> ○教育市民会議やPTA連合会で情報倫理についての問題が緊急課題となっているが、十分な対応策がとられていない ○学校教育でも同様であるが指導者レベルで具体的な方策がない ○メディア表現能力に対応した施策が少ない 	<ul style="list-style-type: none"> ○ネット利用上のルールやマナー、危険性についての知識を身に付けるための講座の開設 ○指導者養成や研修の充実 ○メディア表現能力を養う講座を提供し、継続して育成する機会を整備する
メディア利用能力	<ul style="list-style-type: none"> ○様々なメディアを通して情報を取得したり発信するための機器を操作する能力を養う 	<ul style="list-style-type: none"> ○各種パソコン習得講座／市民（公民館、生涯学習推進課） ○高齢者パソコン基礎講習（公民館） ○情報バリアフリー化／障害者（公民館） 	<ul style="list-style-type: none"> ○各種パソコン習得講座／市民（男女平等人権課） ○60歳以上の女性パソコン基礎講習（男女平等人権課） ○パソコン中級講座（男女平等人権課） ○情報バリアフリー化／障害者（生活福祉課） 	<ul style="list-style-type: none"> ○各講座の人气が高く全ての希望者が受講できていない ○行政と民間の事業連携がない ○社会教育行政と他の行政との一体感がない ○障害者対象の講習が少ない 	<ul style="list-style-type: none"> ○民間講座との連携を図りつつ、講座を拡大して提供する ○NPOとの連携を強化し、より厚く講座を提供する ○他の行政機関との事業の体系化を図る ○障害者対象の講座の拡充を図る
情報化を支える環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> ○上記の3つの能力を支える環境づくりを行う（物的側面から） 	<ul style="list-style-type: none"> ○小学校パソコン教室設備開放／市民（公民館） ○市民用パソコンの常設／市民（公民館） ○青少年インターネットコーナー／小学生以上（公民館） 	<ul style="list-style-type: none"> ○小学校パソコン教室設備開放／市民（教育部指導室） ○教育センターコンピューター室・パソコンの整備（教育部指導室） ○コンピューター実技研修会／教員（教育部指導室） 	<ul style="list-style-type: none"> ○教材の管理コストが高く学校の機器の開放が難しい ○パソコンの数が不足している 	<ul style="list-style-type: none"> ○家庭用パソコンの収集と再利用を行う ○機器の保守のボランティアの育成をする
	<ul style="list-style-type: none"> （人的側面から） 	<ul style="list-style-type: none"> ○市民パソコン教室指導ボランティア／青少年（公民館） ○人材バンクの拡充／市民（生涯学習推進課） 	<ul style="list-style-type: none"> ○市民・ボランティア団体の活動支援／市民（文化コミュニティ課） ○シルバー人材センターの支援・育成／高齢者（地域福祉課） ○シルバーボランティアの育成・活動支援／高齢者（地域福祉課） 	<ul style="list-style-type: none"> ○指導者の配置や稼働時間が少ない・指導者活用に関する予算が少ない 	<ul style="list-style-type: none"> ○講座の受講者などを指導・支援ボランティアとして育成する
	<ul style="list-style-type: none"> （情動的側面から） 	<ul style="list-style-type: none"> ○公民館HP（公民館） ○学習情報データベース／市民（生涯学習推進課） 	<ul style="list-style-type: none"> ○市HP（広報広聴課） 	<ul style="list-style-type: none"> ○それぞれの学習情報がまとめられていない 	<ul style="list-style-type: none"> ○学習情報の提供の体系化を図る

IV 年間事業計画（平成18年度情報化に関する教育事業計画）

(1) 社会教育推進目標	<ul style="list-style-type: none"> 一人一人が楽しく学び育つ環境をつくろう。 地域が活力にあふれるまちをつくろう。 仲間とともに豊かで健康な暮らしをつくろう。
(2) 情報化に関する教育目標	<ul style="list-style-type: none"> メディア受容能力を高めよう。 メディア表現能力を高めよう。 メディア利用能力を高めよう。
(3) 社会教育推進行政目標	<ul style="list-style-type: none"> あらゆる年代で誰もが学べる学習の場を提供する。 現代的課題に対応した学習の場を提供する。 学んだことを地域で生かすシステムを整備する。
(4) 情報化に関する教育行政目標	<ul style="list-style-type: none"> 情報の取捨選択能力を向上させる場を提供する。 情報発信能力高める学習を提供する。 機器操作能力を高める学習を提供する。 情報教育を支える環境を整備する。

(5) 情報化に関する教育年間事業計画表

区分	事業名	事業の目的	事業内容	対象者・定員	実施期間・回数	予算(千円)	備考	
メディア受容・表現能力	○メディア・リテラシー講座	ネット利用上のルールやマナー、危険性についての知識を身につけるために情報の取捨選択能力を高める	<ul style="list-style-type: none"> 講座：保護者向け「家庭でのインターネット」 講座：青少年のためのインターネットの読み解き方 講座：情報モラルの啓発・指導者講習会 講座：ネット上のメディア・リテラシー講座 講座：ぶんNETエディター養成 啓発：ハンドブック発行・配布 啓発：フォーラム講演会 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者 20人 青少年 20人 教員・青少年指導者 30人 市民子ども 市民（HP作成経験者） 30人 市民 市民 	<ul style="list-style-type: none"> 5、6月 6回 5会場 8月 6回 5会場 8月 5回 1会場 通年 10～2月 10回 年1回 年1回 	<ul style="list-style-type: none"> 900 900 300 — 500 200 100 	<ul style="list-style-type: none"> アンケートP連 アンケートP連 アンケート将来的に講座講師に意見メールを受付てもらう。 HP上で実施し、費用はぶんNET設立費に含む 経済課・消費生活センターと連携 	
	・「インターネット我が家のルールづくり」							
	・「インターネット探偵団！」							
	・「インターネットの光と影」							
	・「インターネット探偵団HP版」							
	○「ぶんNET」エディター養成講座							市民参画による「ぶんNET」（学習情報データベース）運営のために、必要な知識とメディア・リテラシーを兼ね備えた運営支援ボランティアを養成する
	○メディア・リテラシー啓発事業							ネット利用上のルールやマナー、危険性についての知識を身につけるために情報の取捨選択能力を高めるために啓発活動を行う

区分	事業名	事業の目的	事業内容	対象者・定員	実施期間・回数	予算(千円)	備考
メディア利用能力	○パソコン習得講座	パソコン・インターネットを利用して情報を取得したり、発信するための機器を利用する能力を養う	・講座：パソコン講習	市民 20人	6回×3期 5会場	2,700	アンケート
	・「今さら聞けないパソコン講座」						
	・「孫とメール」						
	・「社会にアクセス」						
	○地域情報ネットワーク事業						
情報化を支える環境づくり	○パソコンリサイクル	地域や家庭の余剰のパソコンを回収整備し、公民館で設置と貸し出しを行う	・事業：パソコン回収、パソコン整備、ネットワーク整備	市民 企業	通年	1,000	民間企業・リサイクル推進課と連携
	○パソコンリサイクルボランティア		・事業：回収整備ボランティアの募集	市民 企業 学生	通年	500	
	○IT指導・支援ボランティアの育成	講座の受講者をこれからのIT講座の指導・支援リーダーとして育成する	・運営：指導・支援ボランティアの育成	講座の受講者	通年	1,000	
	○学習情報データベース「ぶんNET」の設立	市内学習情報ポータルサイトを開設し、生涯学習情報の体系化を図る	・運営：HPの運営	市民	通年	20,000	情報システム課と連携

V 情報化に関する教育学習プログラム（個別事業計画）

(1) 事業名	「ぶんNET」エディター養成講座	
(2) 事業の目的	市民参画による「ぶんNET」（学習情報データベース）運営のために、必要な知識とメディア・リテラシーを兼ね備えた運営支援ボランティアを養成する	
(3) 実施主体	K市教育委員会 生涯学習推進課 公民館 K市情報システム課	
(4) 対象者・定員	市民（ホームページ作成経験者）30人、（ただし、公開講座は市民100人）	
(5) 学習期間・学習時間（回数）	10月～2月	1回の学習時間 3時間×10回
(6) 学習場所	K市教育センター	
(7) 学習目標	① 「ぶんNET」（学習情報データベース）の役割を理解し、管理・運営の手法を学ぶ ② メディア・リテラシーの概念を理解し、情報の活用能力を身につける ③ ネットワーク・エディターとしての自覚・役割を理解し、必要な資質を身につける	

(8) プログラムの展開

回	学習テーマ	学習の内容と方法	学習支援者	備考
1	「ぶんNET」ってなあに？	導入 ○開講 ○アイスブレイク・自己紹介ゲーム・グループ分け ○ワークショップ「生涯学習情報とは何か」「K市の概要」「社会教育の必要性」 ○講義「ぶんNETの目的及び役割」	教育長 社会教育主事	
2	インターネットの光と影	概論 ○講演会「メディア・リテラシーとは何か」	T経済大学教授（情報化）	公開講座 公民館ホール 100人 アンケート
3	「ぶんNET」作成のために1	各論1 ○講義「サーバー管理のための知識と技術」 ・セキュリティ・ポリシーとシステム運用基準 ・学習情報サーバー管理術 ・サーバー管理データの漏えい ・ネット上の危険性	市情報システム課 セキュリティ関連団体 システム・エンジニア	
4	「ぶんNET」作成のために2	各論2 ○講義「ホームページ管理の知識と技術」 ・取り扱い情報の可否 ・ホームページ管理とルール作りの方法 ・市民が参加と交流しやすいホームページ運営のコツ ・市民が参加と交流しやすい掲示板運営のコツ ・市民が参加と交流しやすい携帯端末サイト運営のコツ	市広報広聴課 ホームページ作成企画会社	
5	「ぶんNET」作成のために3	各論3 ○講義「情報関連法規」（著作権・肖像権・個人情報保護・不正アクセス防止法） ○講義「デジタル・デバイドと社会参加」	T経済大学教授（情報化）	
6	「ぶんNET」作成のために4	各論4 ○講義「インターネット利用のルールとマナー（子ども・大人）」 ○講義・ワークショップ「学習情報の集め方」	市情報システム課 インターネット協会 社会教育主事 他市学習相談員	他市の事例を参考に にする
7	「ぶんNET」をつくろう！1	実践1 ○演習「学習情報提供ホームページの作成」	社会教育主事 研究者（生涯学習情報／インターネット） NPO団体（ホームページ作成）	
8	「ぶんNET」をつくろう！2	実践2 ○演習「学習情報提供ホームページの評価」	社会教育主事 研究者（生涯学習情報／インターネット） NPO団体（ホームページ作成）	7回目に作成したHPを相互評価する
9	「ぶんNET」をつくろう！3	実践3 ○講義「学習支援ボランティアの資質とは」 ○ワークショップ「学習支援ボランティア活動の運営と継続」	ボランティアセンター職員	7回目に作成したHPを自己評価する
10	「ぶんNET」でつながろう	まとめ ○グループ・ディスカッション 「これからのぶんNET」①子育て支援、②青少年問題、③高齢者の参画、④学校との連携、⑤他市との連携 ○講座の評価（感想・今後の活動に向けて）	各種団体・市民等関係者 社会教育主事	修了証 受講アンケート ボランティア登録申請書配布

*評価 ①HP内容の評価（相互評価、自己評価）、②講座内容の評価（話し合い、アンケート）、
③ボランティア登録者数／受講者数

第12節 高齢社会に関する教育計画

<分析シート1>

C市高齢社会に関する教育計画

1 C市の概要

(1) 地勢・地域条件等

- ① C市は、C県のほぼ中央部にあたり、東京都心まで約40kmの地点にある。
- ② 面積は、272.08km²、人口は924,353人で373,607世帯である。(平成17年10月現在)
- ③ 県内幹線道路、JR、私鉄等の起終点として県交通の要衝で、首都機能の一翼を担う中心都市である。

(2) 地域住民の生活状況の特徴

- ① 総人口は、平成12年の88万7千人から、平成17年に92万4千人に増加し、平成26年には97万人に達すると見込まれる。
- ② 高齢者人口は今後も増加が見込まれ、平成17年の14万7千人から平成26年には、22万5千人に達すると見込まれる。特に、後期高齢者(75歳以上)の増加が著しい。高齢化率は、平成17年は約16%で全国平均を下回っているが、平成26年には約23%まで上昇する見込みである。
- ③ 産業別人口では、第1次産業が1%、第2次産業が21%、第3次産業が75%である。市内の民間の事業所数は27,195であり、従業者数は326,411人である。事業所の内訳は「卸売り・小売業」が最も多く、商業・サービス業を中心とした産業構造である。

(3) 教育・文化的環境

◇ 学校等数

種 別	数
幼稚園(保育所)	96 (60)
小 学 校	121
中 学 校	59
高 等 学 校	31
大 学・短大	14
専 門 学 校	28

◇生涯学習関連施設(民間を含む)

種 別	数
公 民 館	46
生涯学習センター	1
博物館・美術館	12
図書館・公民館図書室	36
スポーツ施設	49
保健センター	6

◇ 教育・文化的環境の特徴

- ① 「安心して暮らせる健康福祉のまちをつくる」をテーマに健康作りを推進し、活力ある長寿社会の創造に向けて、在宅サービスや生きがい対策の充実を図る。又「豊かな心をはぐくむ学びの場を広げる」ため学校教育等の充実を図ると共に、生涯にわたって学ぶことのできる学習環境・機会の整備を目指している。
- ② 公民館は中学校区単位に46館あり、図書館は市立が中央館1、地区館6、分館7、公民館図書室が21ある。人口1人あたりの図書冊数は、2.7冊でほかの政令指定都市に比べて多くなっている。このほか、県立中央図書館が1館ある。
- ③ 様々な団体の活動支援や市民を指導者として育成するための取り組みを実施しており、生涯学習施設ボランティア(まなびサポーター)養成研修の生涯学習基礎講座の受講者は大幅に増加している。

2 高齢社会に関する教育の現状と課題

区分	施策	現行の事業		現状の問題点・課題	問題解決・課題達成のための方向性
		社会教育行政	学校・関連行政・民間・団体等		
家庭教育	○家庭や地域の教育力を高めること、学校・地域との連携を充実する。	○子育て学習講座(生涯学習課) ○親子ふれあい教室、子育て講演会(公民館、生涯学習センター)	○子育て支援総合コーディネーター事業、子育て情報の提供(子育て支援課) ○学校・家庭・地域連携まちづくり(保健福祉局、学校との連携) ○地域子育て支援センター、子どもルーム(子ども家庭部)	○子育て支援の担当課が複数あり、利用者にとって不便である。 ○空き教室の活用状況等に地域差がある。	○相談窓口の一本化を図る。 ○学校や保健福祉局とより一層連携し、地域差の解消を目指す。
少年	○地域の高齢者とのふれあい・交流を通じた心の育成を図る。	○高齢者さわやか事業(まちのせんせい)(生涯学習課、生涯学習センター)	○ちよっぴり先生・普遊び、園芸指導、わらわら細工指導等、小学校の生活科、総合的な学習の時間を活用した小学校との連携(学校との連携)	○学校のニーズと地域の人材の専門性の不一致がみられる。 ○コーディネーターが不足している。	○登録者の拡充を進める。 ○コーディネーターの養成、専任の教育支援コーディネーターの配置及び関係機関との連携協力を図る。
青年	○中・高校生以上の世代は、奉仕活動に対する意識が高齢者との交流・体験活動を展開する。	○ボランティアの養成・育成(生涯学習センター)	○介護施設等への職場体験(指導課)	○高齢者とふれあう機会が少ない。 ○高齢者との関わり方や基礎知識を学ぶ場が少ない。	○専任のボランティア支援コーディネーターを配置し、ボランティア(高齢者施設を含む)の募集・応募・情報提供に関する窓口の一本化を図る。 ○高齢化に関する基礎知識の習得をはかるための学習の場を提供する。
成人	○時間的自由にならないうちで、インターネットを自宅学習の場として活用する。地域社会で活躍するために、夜間や週末に参加しやすい講座やサークルの充実を図る。 ○男女共同参画社会の形成に向け「新モニタリング計画」を定め、男女一人ひとりが責任を分かち合うこと、市民、事業者、市が推進し、それぞれ対等な立場で力を合わせる。生涯にわたる心身の健康への理解を充実する。	○まなびサポーター養成研修 ○生涯学習コーディネーター養成研修 ○尊厳死を考える「自分や家族のために」(生涯学習センター) ○介護支援講座の開催(公民館) ○男女共同参画に関する講座の開催(公民館)	○仕事と家庭の両立支援(働きながら子育てをする) ・中高年の人材活用 ・インターネットを活用した健康づくりの情報提供 ・ボランティアの養成・支援 ○思春期教室(子育て支援課) ○子育てサークル(保健センター) ○男女共同参画に関する講座の開催(女性センター) ○市民文化大学事業(文化振興課)	○昼間仕事をしている人への学習機会の提供が十分でない。 ○企業への協力要請が不足している。 ○講座等への、男性の参加者が少ない。 ○高齢者の介護等に追われ講座に参加できない女性が多い。	○夜間・休日に実施する講座の拡充を図る。 ○事業実施に際して、企業へ参加できる環境を整えるよう要請する。 ○男性対象のものも含めた啓発、講座を実施する。 ○福祉部局と連携し、介護等に追われ講座に参加できない女性に対する手だてを講ずる。
高齢者	○高齢者は社会や地域における役割の認識を高め、高齢者への参加を促進し、高齢者の健康づくりを推進する。	○高齢者教育事業 ・仲間づくりや社会参加活動の促進 ・シルバー活動アカデミー ・高齢者学習発表会(生涯学習課、生涯学習センター)	○老人クラブ ・ゲートボール・グラウンドゴルフ大会 ○地域防犯ネットワークの推進 ○高齢者支援事業 ・高齢者の消費生活サポートネットワーク ○シルバー人材センターの拡充 ○ことぶき大学校	○高齢者の学習した成果を地域社会で生かす場が不足している。	○成果発表の場や機会を提供する。

IV 年間事業計画（平成18年度高齢社会に関する教育事業計画）

(1) 社会教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ・心のふれあいを大切に、支え合い、助け合うことによって、誰もが自分らしく安心して暮らせるまちをつくらう。 ・子どもから高齢者までが、健康で生きがいをもって暮らせるようにしよう。
(2) 高齢社会に関する教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ふれあいで、心うるおうまちづくり ・いつでも笑顔で生き生きと、仲間とともに学び合おう ・まちぐるみで、子育て・老いを考えよう
(3) 社会教育行政目標	<ul style="list-style-type: none"> ・市民が生涯にわたって、いつでもどこでも誰でもがともに楽しく充実して学ぶことが出来る環境作りを進めるため、市民ニーズや現代的課題に対応したさまざまな講座等の拡充に努める。 ・異年齢、異世代間の交流、支援を進め、共に生きる社会を目指し、生涯学習の条件整備に努める
(4) 高齢社会に関する教育行政目標	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の中で、全ての人々が相互に協力しながらそれぞれの役割を果たし、誰もが自分らしく安心して暮らせるよう、地域で互いに助け合い、支え合うネットワークづくりやケア体制の充実を図る。 ・高齢者が、自らの経験や知識を活かし、いつまでも生き甲斐を持って生活を送ることが出来るよう、学習機会の充実など社会参加を支援する。

(5) 高齢社会に関する教育年間事業計画表

区分	事業名	事業の目的	事業内容	対象者・定員	実施期間・回数	予算(千円)	備考
家庭教育	○ひよこクラブ(新規)	○誰もが参加しやすい育児相談や交流の場を提 ○子供と高齢社会の問題を ○少子高齢社会を考慮する機会を提供する。	○公民館において高齢者 ○子育て相談や親の ○情報交換を行う。つ ○子育ての基礎を学習す ○受講生に対して、託児 ○ボランティアによる託児を実施する。	現在子育てに関 わっている人 50人×6館	5月～2月 1月1回 計10回	240	窓口は生涯学習センターに 一元化する。子育て 化のある高齢者 にアートボランティア として参加してもら う。将来的には46 館で実施する。
少年	○まちのせんせい(継続)	○高齢者による子ども ○体験活動への支援の うのときより、高齢 うのときより、高齢 うのときより、高齢	○総合的な学習の時間 ○高齢者に参加させ ○講師やお手伝い ○をしてもらう。	小・中学校 (随時)	通年	10	予算は消耗品費
青年	○ボランティア養成事業(継続)	○青少年がボランティア ○にすぐに参加できる ○うな体制作りを行う。	○ボランティアについて ○の基礎知識の習得や ○体験活動などを行う。	中・高校生以上 の市民 定員30人	5月～6月 2月2～3回 計5回	20	関係部局やNP Oの協力を依 頼する。
成人	○セカンドライフアカデミー(新規)	○高齢期を健康な生活 ○があることを目指す ○の準備を始める。疑 ○いのある高齢者の ○生活の理解を深め、 ○高齢期への理解を深 ○め、対応できるように ○啓発する。	○高齢社会に備えた講 ○座を行う。疑似体験 ○や施設の見学する ○資金運用の仕方 ○の選択や施設一日 ○体験・介護者疑似 ○体験・健康づくり、 ○体力づくり、料理 ○教室、休日の過ごし ○方	50歳から60歳ま での市民 定員 男女各20人	5月～2月 1月1回 計10回	50	講師は極力当 地ボランティア や民間企業等 に協力を依頼 する。夜間・休 日に講座を実施 する。
人	○生涯学習コーディネーター養成事業(拡充)	○学校や学校外の活動 ○において、異世代の ○交流の促進を図る ○ため、学校と地域 ○をつなぐための支 ○援コーディネーター ○を養成する。青年 ○ボランティア環境 ○を良くするため、 ○青少年の活動の場 ○を提供する。青年 ○ボランティア環境 ○を良くするため、 ○青少年の活動の場 ○を提供する。青年 ○ボランティア環境 ○を良くするため、 ○青少年の活動の場 ○を提供する。	○ボランティア・学校・ ○地域についての基礎 ○知識や実践的な ○学習などを行う。 ○ボランティア・青年 ○ボランティア環境 ○を良くするため、 ○青少年の活動の場 ○を提供する。	成人 定員各10名	4～6月 週1回 計10回	100	ボランティアセ ンター職員や 地域子どもネ ッターなど、内 部講師を活用 する。
高齢者	○シルバー活動アカデミー(継続)	○学校教育や家庭教 ○育の高齢者の実践 ○的スキルアップの ○研修を行う。	○講義、実技等を通 ○してよりよい社会 ○参加の方法について ○学ぶ。	高齢者 50人	4月～6月 週1回 計10回	50	修了者はボラ ンティア登録 して学習の行 う。修了者の 参加を促す ため、学校教 員と協力する。

V 高齢社会に関する教育学習プログラム（個別事業計画）

(1) 事業名	セカンドライフアカデミー		
(2) 事業の目的	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢期を健康で生きがいのある豊かな生活を営むものとするため、高齢期を迎える前に準備の場を提供する。 ・高齢者の日常生活を疑似体験することで、高齢者への理解を深め、思いやりのある対応ができるよう啓発する。 		
(3) 実施主体	C市教育委員会生涯学習課 協力（C市高齢福祉課、C市介護保険課、N証券会社、B小学校、福祉ボランティア、ケアマネージャー、A特別養護老人ホーム、レクリエーション協会、ウォーキングサークル、M学習団体）		
(4) 対象者・定員	50歳から60歳までの市民 男女各20人		
(5) 学習期間・学習時間（回数）	5月～2月（全10回）	1回の学習時間	1.5時間×5回 2.0時間×4回 4.0時間×1回
(6) 学習場所	生涯学習センター B小学校体育館 A特別養護老人ホーム		
(7) 学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・よりよい老後の生活設計の在り方を学ぶ。 ・健康で生きがいを持って生きられる老後の生活について学習する。 ・高齢者に対する理解を深める。 		

(8) プログラムの展開

回	学習テーマ	学習の内容と方法	学習支援者	備考
1 5月	開講式 私はいくつ？ （体力年齢チェック） （90分） 平日 19:00～20:30	○受講者同士の交流を深め、簡単な体力診断テストで自分の体力の現状を知り、ストレッチで心身の疲労回復やリフレッシュの方法を学ぶ。 ・開講式・オリエンテーション ・体験 「体力診断テスト」 ・実技 「ストレッチ等の軽体操」	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯学習課職員 ・高齢福祉課 	生涯学習センター 全員で実施 体力診断テスト用具（成人用）を準備 動きやすい服装 （評価） 自分の体力や健康状態を把握できたか
2 6月	セルフメンテナンス （高齢期の健康維持の方法） （90分） 平日 19:00～20:30	○高齢者の身体特性の基礎及び老化を防ぐ体力づくりや認知症防止のための頭の体操について、実際に体験しながら学ぶ。 ・講義 「高齢者の身体特性」 ・実技 「老化防止の体力づくり」 「認知症防止の頭の体操」	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢福祉課 	生涯学習センター 全員で実施 動きやすい服装 （評価） 老化防止に向けての体力、知力づくりについて理解できたか
3 7月	正しい介護・やさしい介護 ① （90分） 土曜 14:00～15:30	○介護生活の概要及び介護の正しい知識について理解し、具体的な介護の実態について体験学習を通して技術の取得及び被介護者へ配慮する姿勢を身につける。 ・ビデオ鑑賞（28分） 「よりよい介護生活をおくるために」 ・講義 「正しい介護、やさしい介護の方法」 ・4班に分かれて実習 ①車いす ②寝たきり	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢福祉課 ・A特別養護老人ホーム職員 ・福祉ボランティア 	A特別養護老人ホーム（現地集合） 全員で実施 ビデオ、車いす・介護用ベッド各4 用意 （評価） 正しい介護法を理解し、実習を通してこつを体得できたか
4 8月	正しい介護・やさしい介護 ② （120分） 平日 19:00～21:00	○介護サービスについての概要及び困ったときの相談や介護保険・施設の利用方法などを理解し、介護の場に直面したときの対応力を身につける。 ・ビデオ鑑賞（28分） 「ケアマネジメントと介護サービス計画」 ・講義 「正しく賢い介護保険の利用法」 「介護施設や相談窓口の利用案内」 ・個別相談	<ul style="list-style-type: none"> ・介護保険課 ・ケアマネージャー ・福祉ボランティア 	生涯学習センター 全員で実施 ビデオ用意 （評価） 介護保険の仕組み、利用法を正しく理解し、介護施設や相談窓口を確認できたか

回	学習テーマ	学習の内容と方法	学習支援者	備考
5 9月	介護施設一日体験 (240分) 土曜 10:00~14:00	○市内の老人ホームを見学し、雰囲気を知り、一日、施設で生活をする(分割して実施) ○高齢者疑似体験 ・高齢者疑似体験器具を身につけて、加齢に伴う身体機能や感覚の変化を実感する。 ○レクリエーションを楽しみ、施設の食事を味わう。	・A特別養護老人ホーム職員	A特別養護老人ホーム(現地集合)全員で実施(評価) 高齢者がする体験を実感できたか。 施設のことがわかったか。
6 10月	休日のすごしかた (120分) 土曜 14:00~16:00	○休日のすごしかたについての幅広い知識を習得し、老年期を迎えて自主的に活動が行えるような能力を身につける。 ・講義「休日をもどのように使うか」 「余暇活動・社会活動の実際」 ・学習者同士で、現在行っている活動の紹介 ・実習(公園を歩く) ・C市のサークル活動の紹介	・レクリエーション協会職員 ・ウォーキングサークル ・生涯学習センター職員	生涯学習センター、C公園全員で実施 動きやすい服装、雨具持参(評価) 余暇活動・社会活動に興味を持てたか
7 11月	エンジョイ・クッキング① (120分) 土曜 11:00~13:00	○料理の基礎とバランスのよい食事についての知識を習得し、実習を通して普段から実践するための足がかりをつくる。 ・講義「料理の基礎とバランスの良い食事作り」 ・実習(5人ずつの班に分かれる) 高齢者向けのバランスの取れた食事の調理実習(男性の調理への参加について留意する)	・栄養士M学習団体	生涯学習センター調理室 材料費受講者負担 男性にも積極的に参加してもらう(評価) 料理の基礎を理解し、実践に繋がる自信が持てたか
8 12月	エンジョイ・クッキング② (120分) 土曜 11:00~13:00	○病人食・介護食についての理解を深めるとともに、実習を通して平素から病気を防ぐ食事についての意識を高める。 ・講義「病人食・介護食について」 ・実習(5人ずつの班に分かれる) 病気を防ぐ食事の調理実習	・栄養士M学習団体	生涯学習センター調理室 材料費受講者負担(評価) 病人食・介護食の知識を得、健康を維持する食事作りの方法を体得できたか
9 1月	賢い老後の資金運用について (90分) 平日 19:00~20:30	○老後の資金運用について学び、将来のことについて考える。 ・講義「賢い老後の資金運用について」 一斉講義 40名	・N証券会社社員	(評価) 老後の資金運用について、自分なりの人生設計が描けたか。
10 2月	閉講式 (90分) 平日 19:00~20:30	○高齢社会の抱える諸問題についての理解を深め、学習者が今後老年期をむかえるに当たり今からとっておくべき方策を考える。また、今回の学習成果を今後の生活に生かす方向づけを行う。 ・講義「高齢社会の諸問題について」 ・成人後見人制度について ・利用できる福祉サービスについて ・介護ボランティアの紹介 ・講座の総括(アンケートなど) ・修了証授与	・S大学福祉学部教授 ・生涯学習課職員	生涯学習センター(評価) 高齢社会の諸問題について十分学習できたか 学習成果を今後の生活に生かせる方向づけができたか

第13節 生涯学習によるまちづくり推進計画

<分析シート1>

S市O区生涯学習によるまちづくり推進計画

1 S市O区の概要

(1) 地勢・地域条件等

- ① 全国有数のターミナル駅であるO駅（乗降客数1日約619,000人＝O区人口の約6倍）と、県内一の商業・業務地区を擁し、交通・経済の中心地として発展している。
- ② 桜の名勝地であるO公園・H神社など歴史資源や緑も多い。
- ③ 人口は107,146人（男性53,234人、女性53,912人）、世帯数は46,080世帯である。

(2) 地域住民の生活状況の特徴

- ① 交通の利便性が高いため、コンサートや展示会等のイベントも多く、さまざまな情報収集をしやすい環境にある。
- ② O区は、人口あたりの犯罪発生件数が全国平均の約4倍と高い。（参考：平成17年度は1万人あたり936件）
- ③ O区の高齢化率は約18%で、S市内で第1位である。（参考：S市全体の高齢化率は15.3%）

(3) 教育・文化的環境

◇ 学校等数

種 別	数
幼稚園(保育所)	9 (8)
小 学 校	9
中 学 校	7
高 等 学 校	2
大 学・短大	0
専 門 学 校	0

◇ 生涯学習関連施設（民間を含む）

種 別	数
生涯学習センター	1
公民館、教育文化施設	14
図書館	2
博物館	2
スポーツ施設、公園等	3
青少年教育施設	0
郷土資料館	0

◇ 教育・文化的環境の特徴

- ① 市町村合併により、区独自の文化が明確でないなか、地域への愛着（郷土愛）の醸成が急務である。
- ② 地元プロサッカーチームへの応援活動を軸に、生涯スポーツの意識が高まっている。
- ③ 社会問題やボランティア活動への関心は26%である。（市民意識調査より）

2 生涯学習によるまちづくり推進の現状と課題

区分	施策	現 行 の 事 業		現状の問題点・課題	問題解決・課題達成のための方向性
		社会教育行政	学校・関連行政・民間・団体等		
学 習 環 境 の 創 造	学習環境 ユニバーサルデザインによる環境づくり や交流の場の充実	○学習環境のユニバーサルデザイン化 ○交流の場(サロン)の拡充	○福祉のまちづくりの推進(福祉総務課)	○ユニバーサルデザインについて十分に理解されていない ○交流の場についての広報が不足している	○意識向上と情報提供に努める ○広報を工夫する
	学習施設 開かれた生涯学習関連施設づくり	○公民館やコミュニティ施設の適正配置とサービス向上 ○学校施設の有効利用 ○図書館の適正配置	○地域に開かれた学校運営の推進(指導1課)	○住民ニーズに沿っていない	○住民の参画による企画充実を図る
選 べ る サ ー ビ ス 充 実	学習情報 ハードとソフトの整備	○生涯学習情報の提供 ○NPO・民間教育サービスなどの情報活用	○広報誌の発行(広報課) ○市民のIT活用の支援(情報政策課)	○学習者に情報が届かない	○広報を工夫する
	学習機会 多彩な学習機会の提供	○ライフステージに応じた学習機会の提供 ○生涯スポーツの振興 ○文化財の活用、伝統文化の継承	○Sシティカップ開催事業(スポーツ企画課) ○スポーツ文学賞事業(文化振興課) ○盆栽文化の振興・活用(政策調査課)	○担当部署の横のつながりが少ない ○内容に偏りがある	○情報を的確に統括する部署が必要である ○学習プログラムの精選と充実を図る
	課題学習 現代的課題への対応	○地域における安全教育・リスク学習の推進 ○消費者学習の推進 ○環境教育の推進	○消費生活安全事業(消費生活総合センター) ○環境教育・学習の推進(環境総務課・指導1課)	○魅力ある講座に結びつかない	○時代に即応した職員研修による企画を充実させる
	家庭での学習親子がふれあい、向き合う学習の支援	○子育て・家庭教育の支援	○子育て支援ネットワーク事業(子育て支援課) ○子育て支援総合事業(子育て支援課)	○担当部署の横のつながりが不足している	○情報交換の場づくりに努める
学 習 成 果 や 人 材 の 活 用 促 進	学習成果 評価と活用	○学習成果の発表の機会の拡充 ○生涯学習人材バンクによる人材活用の促進 ○中高年の人材活用の促進	○市民活動団体等支援事業(コミュニティ課)	○個人的な学びで終わっている ○連携不足で人材活用が停滞している	○地域づくりへの活用のシステムを構築する
	団体学習活動 自主的な活動の支援	○学習団体・サークルへの支援	○市民活動団体支援事業(コミュニティ課)	○活動が地域づくりに結びついていない	○地域ボランティアの発掘とコーディネートを行う
	地域社会での学習 相互学習(学び合い)の促進	○家庭・学校・地域の連携強化 ○児童や青少年の体験活動・世代間交流の場づくり ○体験活動を支援する人材の育成・活用	○青少年の健全育成事業(青少年課)	○学校と地域の連携が不足している	○共通の目的づくりによって、連携を強化する

<分析シート2>

区分	施策	現行の事業		現状の問題点・課題	問題解決・課題達成のための方向性
		社会教育行政	学校・関連行政・民間・団体等		
(学習成果かや人材の活用促進)	まちづくり 学び合う地域社会の 担い手づくり	<ul style="list-style-type: none"> ○自主企画講座への支援 ○地域づくりの人材確保・活用 ○生涯学習関連施設での人材活用促進 ○区のまちづくりへの協力 	<ul style="list-style-type: none"> ○地域講師派遣事業(指導1課) ○シルバー人材センターの充実(高齢福祉課) ○まちづくりへの市民参加の推進(都市総務課) ○市民活動団体等支援事業(コミュニティ課) ○市民活動サポートセンターの整備(コミュニティ課) ○環境美化推進事業(廃棄物政策課) ○防犯対策事業(市民総務課) 	○2007年問題で地域に戻ってくる人達をどう担い手にしていくかが課題である	○中高年対象プログラムの充実を図る

IV 年間事業計画（平成18年度生涯学習によるまちづくり推進事業計画）

(1) 社会教育目標	いつでも、どこでも自由に楽しく学ぶことのできる心豊かなまちづくりをすすめよう。
(2) 生涯学習によるまちづくり推進目標	身のまわりの環境をふりかえり、安全で住みよいまちづくりに努めよう。
(3) 社会教育行政目標	自ら学び、その学習成果を地域づくりに生かせるよう、市民の学び合い・交流を支援する。
(4) 生涯学習によるまちづくり推進行政目標	教育・文化的環境や住民の生活状況等を把握し、有益な施策・事業を実施することにより、安全で住みよいまちづくりを推進する。

(5) 生涯学習によるまちづくり推進年間事業計画表

区分	事業名	事業の目的	事業内容	対象者・定員	実施期間・回数	予算(千円)	備考
学 べ る	あなたが地域のユニバーサルデザイナー	○ユニバーサルデザインに関する理解を深め、独自のアイデアでまちづくりに貢献する。	○ユニバーサルデザイン講座を開設し、住みよいまちづくりとは何かを話し合い、○市へ提言する。	全区民 20人	月1回開催 (12回)	50	社会福祉協議会と連携
	僕らのまち地域交流マップ・コンテスト	○交流の場を、青少年の力で住民にPRし、周知を図る。	○中学生の手作りによる交流の場MAPを作成し、各校区内に全戸配布する。	中学生 各校1チーム	ワーク(夏休み10回) コンテスト(秋1回)	2,300	各校単位で参加 希望者は他校区区分MAPも入手可能
	ガチネットワーク会議	○各小学校と地域の連携を図ることにより、施設の有効活用と人的ネットワークの充実を図る。	○各小学校長、自治会長、地域ボランティア等で組織を作り、連携した活動を考案・実施する。	各小学校長、自治会長、地域ボランティア	年10回開催	25	
選 べ る	「学ぶ・はぐくむ」広場	○ホームページに生涯学習情報を集約することにより、学習者が情報収集しやすくする。	○S市ホームページを活用した各種学習情報を提供する。そのホームページにNPO・民間教育サービスのホームページとのリンクをはる。	全区民	通年	0	既存のホームページの充実
	まなび祭り	○幅広い学習機会の提供と各種学習団体の交流を図り、区の文化を創り出す。	○団体による自主講座の開催、展示発表、ホームページ上のバーチャル体験 (例：盆栽、Jリーグ)	全区民	5～12月 月1回 (全8回)	500	実行委員会形式(テーマ別に、強化月間を設定する)
	行政スキ研 (理論編・実践編)	○現代的課題を市民と協働で解決するための企画スキル研修を通じ、感度が高く企画ノウハウを身につけた職員を育成する。	○首長部局・社会教育職員合同の、市民向けプログラム企画立案研究を行い、終了後、実際に市民向けに講座を実施・運営する。	環境総務課、コミュニティ課、公民館職員など10人	1セット6回 2セット/年	30×2 セット	首長部局・社会教育職員との協働作業

<様式4>

区分	事業名	事業の目的	事業内容	対象者・定員	実施期間・回数	予算(千円)	備考
選 べ る	子育てよろず相談所	○子育てに関する各種事業の連携を図り、親への支援を充実し、地域で子育てに取り組む。	○行政、民間、地域の子育て関係者が一同に集まり、合同相談所を開設する。 (例：子育て支援課、保健所、子育てサークル、おばあちゃんおじいちゃん)	全区民	年3回	150	ブース展示 実行委員会形式
生 か せ る	「ご近所の底力」発掘プロジェクト	○安全なまちづくりの課題を、地域住民が共有し、解決に向けた地域、人材の発掘・活用を支援する。	○公民館等で「安全・安心」をテーマにした連続講座を開催し、地域課題の抽出と、地域人材を活用する連携のしくみをつくる。	高校生以上30名	5回連続	100	市民参画の企画づくりを成果とする
	護身術入門講座	○団体やサークルのポテンシャルを、安全で住みよいまちづくりに活かす。	○合気道や柔道等のサークルの指導により、小中学校で、基礎的な護身術や心構えのミニ講座を実施する。	小中学生30～100人程度	通年(随時)区内全小中学校16箇所	100	防犯パトネット～委員会のアドバイス等も参考にする
	キャンパスに描く街～街ガイドブック作成物語～	○身のまわりの環境を見直して、安全で住みよいまちづくりを目指した住民参画をすすめる。	○歴史講座、街探検、ガイドブックづくり等を組み合わせる。 ○ガイドブックを成果物とする。	55才以上30人	11回	150	小学生にイラスト提供ボランティアを依頼
	防犯パトネットたちあげ委員会	○地域の防犯パトロールの現状と課題を把握・共有し、パトロールのネットワークシステムを構築する。	○治安に関する講座、意見交換会、防犯MAP作成等を行う。	全区民	6～3月 月1回 (全10回)	100	防犯関係団体代表者や「マイタウン再発見」受講者に企画協力依頼

V 生涯学習によるまちづくり推進学習プログラム（個別事業計画）

(1) 事業名	キャンパスに描く街～街ガイドブック作成物語～	
(2) 事業の目的	身のまわりの環境を見直して、安全で住みよいまちづくりを目指した住民参画をすすめる	
(3) 実施主体	O区拠点公民館とO区コミュニティ課による共催事業	
(4) 対象者・定員	55才以上・30人	
(5) 学習期間・学習時間（回数）	5月～7月	1回の学習時間 2時間×2回、3時間×8回、6時間×1回（計11回）
(6) 学習場所	区内各所（O区拠点公民館等）	
(7) 学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・郷土の歴史と文化に対する理解を深める。 ・ガイドブックづくりを通して、安全で住みよいまちづくりへの参画意識をもつ。 ・地域の課題に対して、自分が貢献できることを探る。 	

(8) プログラムの展開

回	学習テーマ	学習の内容と方法	学習支援者	備考
1	第一章 出会い…2006 (3時間)	導入 ○開講（講座の趣旨・概要の説明） ○講義「O区の歴史」 （文化財等を視覚的資料も用いて学ぶ） ○演習「お互いを知り合う」（自己紹介等）	S市教育長（挨拶） 郷土史研究者（講義） 社会教育主事（演習）	〈場所〉公民館 ・全員でO区の歴史について共通認識をはかる。
2	第二章 その先に見えるもの (2時間)	概論 ○講義と演習「O区の現状と課題」 （さまざまな視点からO区の現状と課題について学び、意見交換する）	S市コミュニティ課長 S県警防犯担当 社会教育主事	〈場所〉公民館 ・地域課題掘り起こし。 ・防犯パトネット事業への関連づけ。
3	第三章 いつも隣に君がいた（2時間）	実践① ○グループディスカッション「地域を見つめ直そう」 （文化財やモノだけでなく、地域の課題なども出し合い分野分けする。分野例：家族お散歩ガイド、防犯ガイド等） ○関心のある分野ごとに編集グループをつくる。	社会教育主事	〈場所〉公民館 ・小グループ討議でO区の問題点も洗い出す。 ・関心によって編集グループを決める。
4	第四章 未来予想図 (3時間)	実践② ○講義「ガイドブックのつくりかた」 ○グループディスカッション （ガイドブックのテーマ設定と次回のフィールドワークの準備）	タウン誌編集者（またはデザイン系の専門家） 社会教育主事	〈場所〉区内各所 ・紙面作成の技術を学ぶ。 ・フィールドワークのテーマ設定及び行動日程の企画。
5	第五章 瞳に写った景色 (3時間)	実践③ ○フィールドワーク「我が街探検」 （各テーマごとのグループに分かれて実際に街歩きをする）	グループに応じて、行政の関係各部署等からのアドバイザー	〈場所〉区内各所 ・グループ毎に課題を絞った現地研修。
6	第六章 想いを形に vol. 1 (3時間)	実践④ ○演習「ガイドブック作成①」 （グループ別作業。フィールドワークの結果をまとめておおまかな紙面をつくる）	社会教育主事	〈場所〉公民館 ・フィールドワークで得たデータの整理とガイドブックの基本構想。
7	第七章 想いを形に vol. 2 (3時間)	実践⑤ ○演習「ガイドブック作成②」 （グループ別作業。ガイドブックの一次完成。小学生にイラストを依頼。）	社会教育主事	〈場所〉公民館 ・分担、協力してガイドブック原稿作成。 ・区内小学校との連携を図り、まちづくりへの子ども達の参画につなげる。

<様式5>

回	学 習 テ ー マ	学 習 の 内 容 と 方 法		学 習 支 援 者	備 考
8	第八章 想いを形に vol. 3 (6時間)	実践 ⑥	○フィールドワーク「トライアルウォーク」 (グループ別に、他グループ作成のガイドブックを持って歩き、チェックする) ○演習「ガイドブック作成③」 (トライアルウォークでの評価をもとに修正)	社会教育主事	〈場所〉区内各所、公民館
9	第九章 想いを形に vol. 4 (3時間)	実践 ⑦	○演習「ガイドブック作成④」 (講師によるアドバイスと最終チェック。発表の準備)	タウン誌編集者	〈場所〉公民館
10	第十章 汗と涙の結晶 (3時間)	まとめ ①	○ガイドブック発表とふりかえり ○事例研究「△△の場合」 (活動継続に向けて、先進的な他所の事例を聞く)	タウン誌編集者 (コメント) タウン誌やMAPづくりを継続的に行っている他地域の市民(事例発表) 社会教育主事	〈場所〉公民館 ・グループ毎に、ガイドブックのテーマと気づいたことを発表。
11	第十一章 ここから始まる物語 (3時間)	まとめ ②	○グループディスカッション「ガイドブックの活用&今後の活動に向けて」 (ガイドブックの作成者として、ガイドブックの効果的活用への方策を検討するとともに、自らが地域に今後どう関わっていけるかを話し合う) ○交流会「出版記念パーティ」 ○閉講	区長(挨拶) 社会教育主事	〈場所〉公民館 ・今後のまちづくりへの、参加者の主体性を高める。 ・協力者にも声かけする。

第14節 学社連携・融合推進計画

<分析シート1>

N市学社連携・融合推進計画

1 N市の概要

(1) 地勢・地域条件等

- ① N市は、C県の北部に位置し、江戸時代の城下町として栄え、醤油の町として有名である。
- ② 総面積は103.54平方キロメートルで、地形的には、市の最北端部でT川、E川が分流し、東をT川、西をE川、南をT運河によって、三方を河川に囲まれる大地と緑と水の町である。
- ③ 人口は、平成15年度にS町と合併し、153,243人となった。

(2) 地域住民の生活状況の特徴

- ① N市の市民意識調査によると、「N市は住み良い。」と回答した人が7割を越えている。理由として、緑の保全や自然環境などの生活環境についての評価が高い。
- ② 平成15年に、豊かな自然と歴史を生かした健康的な文化都市を目指すために、「個性豊かなまちづくりを行う人権・平和尊重都市宣言」をした。
- ③ 自治会・町内会への加入率は、9割を越えている。また、6割以上が地域活動に参加している。しかし、居住年数3年未満の新住民の加入率は7割を切っている。

(3) 教育・文化的環境

◇ 学校等数

種 別	数
幼稚園(保育所)	13 (13)
小 学 校	20
中 学 校	12
高 等 学 校	5
大学・短大	1
専 門 学 校	0
養 護 学 校	1

◇ 生涯学習関連施設（民間を含む）

種 別	数	種 別	数
公 民 館	11	体 育 館	3
図 書 館	4	野 球 場	3
郷土博物館	6	庭 球 場	4
音楽ホール	3	ふれあい広場	4
文化会館	1	水 泳 場	1
科学教育センター	1	陸上競技場	1
視聴覚フィルムライブラリー	1		

◇ 教育・文化的環境の特徴

- ① 各小学校を会場として、毎週土曜日の午前中2時間、小学生を対象とし算数の学習をするサタデースクールを開設、また、第1・3・5土曜日の午前中2時間、小・中学生を対象として日本古来の伝統的文化・芸術に関するものや体育に関する活動の場としてオープンサタデークラブを開設している。指導者は、地域から希望者を募っている。
- ② 小学校3、4年生の算数学習では少人数授業やティームティーチングをしている。教員免許状を持っている地域の人が講師として採用されている。
- ③ ボランティア活動に住民の3人に1人が参加し、意識の高さがうかがえる。
- ④ スポーツ関連施設が充実しており、利用者も多く関心が高い。

2 学社連携・融合推進の現状と課題

区分	施策	現行の事業		現状の問題点・課題	問題解決・課題達成のための方向性
		社会教育行政	学校・関連行政・民間・団体等		
推進体制	学社連携・融合を積極的に推進するための体制づくりに努める。	<ul style="list-style-type: none"> 生涯学習講演会（生涯学習課） 	<ul style="list-style-type: none"> PTA連絡協議会（各学校） 総合学習推進委員会（各学校） 	<ul style="list-style-type: none"> 市民・行政職員・教員の学社融合への理解が不足している。 社会教育行政とその他関連団体・機関との連携が図られていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 学社融合に関する市民、教育関係者、行政職員が合同あるいは個別（地区ごと）の研修会・情報交換会を開催する。
学習機会の提供	市民の学習ニーズに対応し市民が、個性ある地域社会の生活文化を形成する原動力になるという認識のもと、子ども達が自発的に参加できる学校外体験学習の機会づくりに努める。	<ul style="list-style-type: none"> 児童・生徒の学校外体験活動の活性化 市民の学習機会の拡充と支援 市民参加型の自主文化事業 教育環境改善事業（生涯学習課） 	<ul style="list-style-type: none"> 学校の活動（各学校） 部活動 クラブ活動 体験活動 作文、ポスター、標語の募集（各種団体） 交通安全教室（交通安全協会） 伝統文化の伝承（各保存会） サタデースクール サタデーオープンクラブ T大公開講座 	<ul style="list-style-type: none"> 学社融合に取り組む姿勢に学校間で差がある。 学校と社会教育施設の連携が図られていない。 学校の教育課程と社会教育事業の連携がとれていない。 学習ニーズにあったプログラムとなっていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 各校で学社融合コーディネーターを決め定期的な会合を開催し情報交換をする。 学校と社会教育施設の連絡協議会を開催する。 地域ごとの学習要求調査を取り計画に活かす。
人材活用	学習者の多様なニーズに対応するために、地域の人材を学校教育や社会教育に活かすよう努めるとともに、教師の地域活動や社会教育への参加を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> 社会教育指導員 社会体育指導員 教育人材バンク NPOの活用（生涯学習課） 	<ul style="list-style-type: none"> 大学公開講座 青少年育成推進委員（生活安全課） PTA連絡協議会 生活科・総合学習 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の人材を活用できていない。 学校や地域が人材バンクを十分に活用していない。 教員の地域への参加が不足している。 	<ul style="list-style-type: none"> 広報などを通して人材募集を常時行う。 人材活用のためのプログラム開発を図る。 学習講座修了者及び教員に人材バンク登録を依頼し、資質能力を地域に活用する。
広報・情報提供	市民に生涯学習推進のための情報を提供する。（市民や民間団体が発信する情報を含む。）	<ul style="list-style-type: none"> 生涯学習相談窓口の開設（生涯学習課） 公民館だより（公民館） まなびだより 文化財だより（生涯学習課） 	<ul style="list-style-type: none"> 小・中学校だより 広報（広報課） 市政だより ホームページ 	<ul style="list-style-type: none"> 学習情報が地域に活かされていない。 広報やたよりに目を通しての人が少ない。 人材バンクの情報が不十分で活用までつながらない。 	<ul style="list-style-type: none"> 関連機関とのネットワークを進め、情報検索を容易にするシステムの構築を図る。 メディアを有効に活用する。 社会教育施設や学校に相談窓口を開設し学社融合を推進するコーディネーターを置く。
イベント・行事	学習の意欲や喜びを喚起する機会を提供する。世代間交流を深める行事を実施する。	<ul style="list-style-type: none"> 文化祭（各公民館） 教育講演会（教育委員会） 健康づくりスポーツフェスティバルの開催 各種スポーツ大会の開催（市民大会）（社会体育課） マラソン大会（社会体育課） 	<ul style="list-style-type: none"> 地区別体育祭 出土文化財等展示事業 各地区体育大会 夏祭り みこしパレード お囃子・太鼓演奏 	<ul style="list-style-type: none"> 学校行事と社会教育事業の開催時期の調整がとられていない。 単発なものが多く年間を通してのものが少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校と社会教育の定期的な連絡会を開催する。 段階を追ってプログラム構成を図り、シリーズ化する。 学社融合の視点をふまえた新しいプログラムを開発する。
施設開放	市民の自主企画講座などの活動を活発にするため、学校教育施設の開放を進める。児童生徒の体験活動を深めるとともに、情操を育み、文化・芸術への関心を高めるため、学校の社会教育施設の積極的利用を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 社会教育施設無料開放（生涯学習課） スポーツ施設開放（社会体育課） 	<ul style="list-style-type: none"> 小・中学校施設開放（教育委員会） 高等学校開放講座（県教育委員会） 	<ul style="list-style-type: none"> 学校施設の開放が十分になされていない。 利用者、利用施設に偏りがある。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校教育施設を利用できる事業の情報提供等を行う。 行政による学校への啓発活動を積極的に行う。 学社融合の視点をふまえた計画的な学校開放を進める。

IV 年間事業計画（平成18年度学社連携・融合推進事業計画）

(1) 社会教育目標	「未来を拓く文化とふれあいのまち」を基本目標とし、一人ひとりの生涯学習活動が個性ある地域社会の生活文化を形成する原動力になるという認識のもと、学習環境の充実に努めよう。
(2) 学社連携・融合推進目標	地域、学校、家庭がそれぞれの教育的役割を果たすために融合し、21世紀を担う「確かな学力」と「豊かな心」をそなえた、たくましい児童・生徒の育成に努めよう。
(3) 社会教育行政目標	市民の生きがい創出を支援できる地域の教育環境の整備および充実に努める。
(4) 学社連携・融合推進行政目標	学社融合をめざして、関係機関の協力と連携を深め、地域住民の積極的な交流の場として施設の有効活用を図るとともに、児童生徒の学びの場として自発的に参加できる教育環境を整備する。

(5) 学社連携・融合推進年間事業計画表

区分	事業名	事業の目的	事業内容	対象者・定員	実施期間・回数	予算(千円)	備考
推進体制	N市地域教育推進協議会	学社連携・融合推進体制の基盤を整備する。	・整備計画の立案 ・先進地視察研修 ・調査・実態分析 ・関係機関との連絡調整 ・実行委員会の構成	関係部局 社会教育施設 代表学校代表 商工会代表 保護者代表 30人	年4回	400	教育委員会
	学社融合シンポジウム	市民への学社融合の理解を図る。	・講演 ・シンポジウム ・事例研究	市民 500人	年1回	800	教育委員会 文化会館
	学校開放推進事業	学校開放を推進することによって、学校への理解を図る。	・学校紹介 ・住民参加型授業参観 ・学社融合推進コーディネーターの設置	各種団体学校 代表	随時	0	学校 教育委員会
学習機会の提供	N市ふれあいフェスティバル	学校や社会教育施設を利用し、スポーツ活動や文化活動を通して地域での交流を深める。	・市民作品展（幼・小・中・高・養護学校および成人） ・グランドゴルフ大会 ・ソフトボール大会 ・本とお話し会 ・生涯学習講演会 ・国際交流 ・民俗芸能発表会	市民	年1回	5,000	学校 教育委員会 社会教育施設 地域住民 婦人会 商工会 関係団体
	Nっ子通学合宿	生活体験をとおして、生きる力を育てる。	・社会教育施設や民家に宿泊し協力して生活体験をさせる。	各小学校5・6年生 40人	年4回 (1週間)	600	社会教育施設 地域住民
	農業体験教室	地域の土地を利用し、作物を育て収穫までを体験する。	・枝豆 ・ジャガイモ ・トウモロコシ (関連教科：理科)	小学校3～6年生 80人	年2回 (2日間)	800	学校 地域住民
	発進！N市民芸隊	N市の民俗芸能を学び、伝統文化に誇りと愛着を持たせる。	<民俗芸能体験> ・発進！N市民芸隊 (学習編) (体験編) (合宿編) (発表編) ・発進！民芸隊通信 (関連教科：総合)	N小6年生 90人 市民 5人	6月～12月 年7回	800	学校 教育委員会 社会教育施設 民間企業 NPO団体 地域ボランティア 保護者 民俗芸能関係者

区分	事業名	事業の目的	事業内容	対象者・定員	実施期間・回数	予算(千円)	備考
学習機会の提供	N市を食べよう(郷土料理教室)	地元の特産物を知り、それを使った郷土料理を学習することで郷土への理解を深める。	<調理実習> ・枝豆饅頭づくり ・煎餅づくり ・さんがづくりなど (関連教科:家庭科)	中学校1年生～高校3年生 240人	年3回	50	婦人会 商工会 学校
人材活用	人材バンク登録者養成講座	学社融合に対する共通認識を深め円滑に推進していくために、地域指導者の養成を図る。	・人材バンク登録者や登録希望者を対象に、学校支援ボランティアや各教育機関の指導の理解を深め、講座・ワークショップ視察などを実施	人材バンク登録者や登録希望者 200人	年4回	300	学校 社会教育施設
	学習ニーズ調査	プログラム開発及び人材バンク作成のための資料を得る。	・学校や地域の学習ニーズを、アンケートで把握	幼・小・中・高・大、及び成人の2%	随時	120	社会教育施設
広報・広聴提供	Nネット事業	地域の教育資源として提供できるものを一覧表にし、情報を公開するシステム作り、それぞれの持つ情報の検索を容易にする。	・社会教育施設・学校・商工会・農協などの間のオンライン対策 ・学習情報のデータベース化と検索システムの整備	市民	年1回	900	学校 社会教育施設
	公民館だより	広報誌による定期的な事業の情報を提供する。	・広報誌による定期的な市民への情報提供	市民	年12回	1,800	社会教育施設

V 学社連携・融合推進学習プログラム（個別事業計画）

(1) 事業名	発進！N市民芸隊		
(2) 事業の目的	N市の民俗芸能を学び、伝統文化に誇りと愛着を持たせる。		
(3) 実施主体	学校 教育委員会 社会教育施設		
(4) 対象者・定員	N小学校6年生 90人 市民 45人		
(5) 学習期間・学習時間（回数）	6月～12月	学習時間 計5回 1回目 2時間 2回目 4時間 3回目 2泊3日 4回目 2時間 5回目 2時間	
(6) 学習場所	学校、少年自然の家、社会教育施設		
(7) 学習目標	学習や地域の民俗芸能体験を通して伝統文化を理解し、郷土愛を高める。		

(8) プログラムの展開

回	学習テーマ	学習の内容と方法	学習支援者	備考
	地域文化体験	総合的な学習の時間を使って、地域の民俗芸能や文化を体験するために、事前に学習の準備等を行う。	教職員 NPO団体 地域ボランティア	学校
1	発進！N市民芸隊 (学習編)	○講義：N市の伝統文化について小学生90人、市民45人が講義形式で受講 種類・バツパカ獅子舞 ・つく舞 ・つく太鼓 ・おはやし ・民俗芸能の種類や歴史を知ってもらい、地域の伝統文化に興味を持ってもらう。	民俗芸能関係者 教職員 公民館職員	学校 対象者アンケート
2	発進！N市民芸隊 (体験編)	○実習：民芸文化体験 ・全体説明 ・体験活動（グループ別） ・グループごとの話し合い ・コース希望調査 ・それぞれ4つの民俗芸能のうち、どれをやりたいかを体験し考えてもらう。	民俗芸能関係者 教職員 公民館職員	学校 対象者アンケート
3	発進！N市民芸隊 (合宿編)	○体験：<合宿（2泊3日）> ・それぞれ希望する民俗芸能コースに分かれ、指導者について練習し交流を図る。 ・バツパカ獅子舞コース ・つく舞コース ・つく太鼓コース ・おはやしコース	民俗芸能関係者 教職員 公民館職員 保護者 少年自然の家職員 地域ボランティア (練習手伝いー大学生など)	少年自然の家 対象者アンケート
4	発進！N市民芸隊 (発表編パート1)	○発表： ・N小フェスティバルで実演し、学習した成果を発表し、地域文化の理解を図る。	民俗芸能関係者 教職員 公民館職員 保護者 地域ボランティア	学校
5	発進！N市民芸隊 (発表編パート2)	○発表： ・N市ふれあいフェスティバルで実演し、地域の民俗芸能を通して郷土愛を育てる。	民俗芸能関係者 教職員 公民館職員 保護者 地域ボランティア	市文化会館 対象者・見学者アンケート
	発信！民芸隊通信	○ワークショップ：コース討議、まとめ ・コースごとにこれまでの体験などを通して、N市の伝統文化を理解し、感じたことなどを話し合い、感想をまとめ、広報誌を作成し、市民に配布する。	教職員 民俗芸能関係者	学校 対象者アンケート

平成18年度 社会教育主事のための社会教育計画「実践・事例編」

平成19年3月

編集・発行 国立教育政策研究所社会教育実践研究センター

〒 110-0007 東京都台東区上野公園1-2-43

TEL (03) 3823-0241

FAX (03) 3823-3008

<http://www.nier.go.jp/jissen/index.htm>
